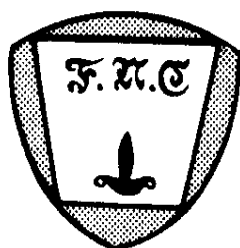


教 育 課 程



2024 年度入学生
< 第 5 1 回生 >

東京都立府中看護専門学校

目 次

	(ページ)
I 教育理念、教育目的、教育目標	1
II 都立府中看護専門学校で発展させたい4つの力とディプロマ・ポリシー、 アドミッション・ポリシー卒業認定方針・卒業生像・入学生受け入れ方針.....	2
III 教育課程について	3
IV 教育内容の抽出	5
V 各分野の構成	6
内 容	
基礎分野	12
専門基礎分野	28
基礎看護学	52
地域・在宅看護論	66
成人看護学	74
老年看護学	83
小児看護学	89
母性看護学	95
精神看護学	101
看護の統合と実践	107
臨地実習	117
実務経験のある教員等による授業科目一覧	131
マトリックス	
1 各専門領域で学習する疾病等	134
2 各専門領域の技術項目と卒業時の到達度	135
3 看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標（改正案）	137
課外（行事・その他）	139

I 教育理念、教育目的、教育目標

1. 教育理念

東京都立府中看護専門学校は、都内にある保健医療福祉施設や地域において、都民の健康の担い手として活躍できる看護師の輩出を責務とし、人々が健康でその人らしい生活が送れるよう医療の側面から支えることができる看護師を育成する。

社会のニーズに即した看護の役割を果たすために、学生がこれまで培ってきた4つの力、すなわち「感じ取る力」「考え構成する力」「表現（具現化）する力」、「成長する力」をさらに発展させながら、様々な対象、健康段階、看護活動の場に応じた基礎的な看護実践能力を養う。

人間の尊厳を守り、権利を擁護し、看護専門職として倫理観に基づいた責任ある行動をとるとともに、生涯にわたり学び続ける姿勢を持ち、保健・医療・福祉の発展に貢献できる人材を育成する。

2. 教育目的

看護師として必要な知識及び技術を教授し、社会に貢献しうる有能な人材を育成する。

3. 教育目標

- 1)対象の価値観や人生観を尊重し、健康でその人らしい生活を支えるための基礎的能力を養う。
- 2)対象の状況を的確に判断し、継続的な視点を持って必要な看護を実践するための基礎的能力を養う。
- 3)対象の尊厳を守り、権利を擁護し、看護専門職として倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を養う。
- 4)他者を理解する感性を磨き、自己成長しながら人と関わり合える人間関係能力を養う。
- 5)施設や地域で切れ目のない看護の実現に向けて、保健・医療・福祉におけるチームの一員として、多職種と協働できる基礎的能力を養う。
- 6)社会の変化と医療の動向に関心を持ち、よりよい看護の実践を目指し、自ら学び続ける能力を養う。

II 都立府中看護専門学校で発展させたい4つの力とディプロマ・ポリシー、アドミッション・ポリシー

1. 都立府中看護専門学校で発展させたい4つの力

感じ取る力	対象への関心と思いやりを持って接し、看護のフォーカスを当てて、対象の反応を受け止める力。 看護が受け止めるべき対象の反応とは、「健康上の心身の状況」「痛みや苦しみ、悲しみ、喜びなどの心の動き」「その人らしい生きよう」などであり、それらを関わりの中で、察し、気づき、自己の看護に取り込む力。育てたい力は、感性、倫理観、人間理解、価値の多様性の理解など。
考え構成する力	受け止めた対象の反応の意味を分析し、看護の必要性や方向性を導き出そうと、思いめぐらし、これまでの経験や知識と照らし合わせつつ判断して、対象に提供できるまでに組み立てる力。 考える力には、推察、検索、解釈、分析などが含まれ、それらをまとまりがあるものに組み立てる力が構成力である。育てたい力は、省察力、批判的思考力、問題解決力など。
表現（具現化）する力	対象を尊重し、気遣いながら、考え構成した看護を行為として具現化する力。 育てたい力は、人間関係形成力、看護過程展開力、知識・技術に基づいた看護行為の実践力、チーム医療のなかでの多職種との協働力および調整力、指導・教育力など。
成長する力	看護実践のサイクルを繰り返すことで看護のとらえ方が深まり広がっていき、創造的に考えられるようになっていく力。看護実践のサイクルとは、看護行為として表現（具現化）した結果や対象の反応等を感じ取り、さらに考え構成し、対象に合った看護に質を向上させていくことである。 育てたい力は、専門職としての責任や自律性の認識、看護師として学び続ける姿勢など。

2. ディプロマ・ポリシー

都立府中看護専門学校で育てたい「感じ取る力」「考え構成する力」「表現（具現化）する力」「成長する力」の4つの力を発展させて看護実践能力を身につけることを重視し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、専門士の称号を授与する。

<感じ取る力>

- ① 多様な文化・価値観を持ったあるがままの人間を個人として受け止め、尊重できる。
- ② 対象及び対象をとりまく人々との関係の中で、思いや希望、心身の変化に気付くことができる。
- ③ 命を尊び、人の生死に対し真摯に向き合うことができる。
- ④ 対象の尊厳と権利を守るための倫理的な課題に気づくことができる。
- ⑤ 社会の変化や保健医療福祉の動向に関心を持ち、医療や看護へのニーズに気づくことができる。

<考え構成する力>

- ① 対象の反応の意味を多角的に分析・解釈し、看護の必要性を考えられる。
- ② その人らしい生活を支えるために必要な看護援助を、根拠に基づき考え組み立てることができる。
- ③ 実践した看護を振り返り、より良い看護を考えることができる。

<表現（具現化）する力>

- ① 対象を気遣いながら、より良い関係を築いていくことができる。
- ② 対象の思いを受け止め、必要な情報を提供し、自ら意思決定ができるように支援できる。
- ③ 切れ目のない医療の実現に向け、チーム医療の中で看護の視点から情報を発信できる。
- ④ その人らしく生きるために、対象のもてる力を活かしながら、安全で安楽な看護が実践できる。

<成長する力>

- ① より良い看護をしたいという思いを持ち、学び続ける。
- ② 自己の課題に気づき、解決に向けた努力ができる。
- ③ 仲間と共に、学び支え合い、互いに高めていくことができる。
- ④ 様々な状況に柔軟で粘り強く対応できる。
- ⑤ 専門職業人としての誇りと自覚を持つ。

3. アドミッション・ポリシー

都立府中看護専門学校は、4つの力の発展につながる人材を求めるとし、5つのアドミッション・ポリシーを掲げる。

- ① 人を思いやる気持ちを持ち、他者と協調して人間関係を構築することができる人
- ② 物事をありのままに受け止めることができ、誠実に対応できる人
- ③ 自分の思いや考えを、自分の言葉で表現することができる人
- ④ 学習習慣を身につけて、意欲的に学び続けられる人
- ⑤ マナーやルールを守り、責任ある行動がとれる人

III 教育課程について

1. 教育課程の考え方

少子超高齢社会の進展による人口及び疾病構造の変化、医療機能の分化による在院日数の短縮、施設から地域へとシフト、病院や施設、在宅のあらゆる場で人生の最終段階を迎える人が増加する。特に首都東京では、これらの状況に加えて、更にグローバル化が進み、情報化の進展、異文化との共生、医療ニーズの多様化や患者・利用者の権利意識が高まることが予測される。

こうした背景から、看護師は、これまで以上に高い能力が求められている。それらを踏まえ、都立府中看護専門学校では、令和2年10月30日改正の「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」に準拠した都立府中看護専門学校の共通の教育課程を構築した。

2. 教育課程の用語の定義

都立府中看護専門学校では、人間・健康・生活・看護・医療の5つは、カリキュラム編成をする上で、鍵となる用語であるとし、以下のとおり定義した。なお、「環境」については、「生活」の中に含まれるものとして整理した。

【人間】：身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面をもつホリスティックでかけがえない存在である。

【健康】：身体的・精神的・社会的機能が十分に発揮され、調和がとれている状態であり、人それぞれが自ら創るものである。

【生活】：個人の主体的な営みであり、生きている、生きていく、暮らす、その人らしく生きるという側面をもっている。

【看護】：人々が健康でその人らしく生活することを医療の側面から支えることであり、支えるとは対象の主体性を尊重し、意思決定できるように関わることや、その人に必要な援助を提供することである。

【医療】：単に疾病や障がいの診断・治療のみならず、予防やリハビリテーション、人生の最終段階までを含んだ、広い意味での人びとの健康に関する実践活動である。

3. カリキュラム・ポリシー

- 1) 都立府中看護専門学校のカリキュラムは、首都東京における今後の医療動向を見据え、高度化・多様化・複雑化する看護ニーズへの対応が求められる。そのために、4つの力（感じ取る力、考え構成する力、表現（具現化）する力、成長する力）を発展させながら基礎的看護実践能力を育成するカリキュラムとし、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」で編成し、総単位106単位、3015時間とする。
- 2) 基礎分野・専門基礎分野は、生活者としての人間を理解するために、一貫性を持たせる。自己を含め人間を理解すること、その人間の健康と生活を基盤と考え、「人間の理解」「人間と健康」「人間と生活」の3領域で科目を構成する。
- 3) 専門分野では、看護を「人々が健康でその人らしく生活することを医療の側面から支えることであり、支えるとは対象の主体性を尊重し、意思決定できるように関わることや、その人に必要な援助を提供することである」と考える。人間、健康、生活、看護、医療の5つのキーコンセプトと4つの力を発展させながら学修できるよう各領域で科目を配置する。
- 4) 専門分野では、強化して学習させたい内容である「看護技術」「コミュニケーション」「看護倫理」「医療安全」「マネジメント・キャリア」に関する教育内容を段階的に配置する。
- 5) 臨地実習では、4つの力の発展と生活者として対象を捉えることを軸として各看護学の科目設定をする。
- 6) 実践の場に即した学びのために、アクティブラーニングを活用した多様な学習機会を提供する。
- 7) 学習目標の達成度を様々な側面から総合的に評価するために、多様な評価方法を取り入れる。

IV 教育内容の抽出

教育内容の抽出は、6つの教育目標と4つの力とディプロマ・ポリシーとの関連性をクロス表にし、教育内容を抽出した。関連する教育内容のまとめりづくりを行った後、教育内容を、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」に分類し、科目構成を行った。

表1 6つの教育目標と4つの力とディプロマ・ポリシーとの関連性

教育目標		4つの力 (卒業生像)					
		1 対象の価値観や人生観を尊重し、健康でその人らしい生活を支えるための基礎的能力を養う。	2 対象の状況を的確に判断し、継続的な視点を持って必要な看護を実践するための基礎的能力を養う。	3 対象の尊厳を守り、権利を擁護し、看護専門職として倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を養う。	4 他者を理解する感性を磨き、自己成長しながら人と関わり合える人間関係能力を養う。	5 施設や地域で、切れ目のない看護の実現に向けて、保健・医療・福祉の連携と協働で働きかける能力を養う。	6 社会の変化と医療の動向に関心を持ち、よりよい看護の実践を目指し、自ら学び続ける能力を養う。
感じ取る力	1 多様な文化・価値観を持ったあるがままの人間を個人として受け止め、尊重できる。	◎		◎	◎		
	2 対象及び対象をとりまく人々との関係の中で、思いや希望、心身の変化に気付くことができる。	◎	◎	◎	◎		
	3 命を尊び、人の生死に対し真摯に向き合うことができる。	◎		◎			
	4 対象の尊厳と権利を守るための倫理的な課題に気づくことができる。			◎			
	5 社会の変化や保健医療福祉の動向に関心を持ち、医療や看護へのニーズに気づくことができる。		○			◎	◎
考え構成する力	1 対象の反応の意味を多角的に分析・解釈し、看護の必要性を考えられる。	◎	◎		○		
	2 その人らしい生活を支えるために必要な看護援助を、根拠に基づき考え組み立てることができる。	◎	◎			◎	
	3 実践した看護を振り返り、より良い看護を考えることができる。	◎	◎	◎	○		◎
表現（具現化）する力	1 対象を気遣いながら、より良い関係を築いていくことができる。	◎		◎	◎		
	2 対象の思いを受け止め、必要な情報を提供し、自ら意思決定ができるように支援できる。	◎	◎	◎	◎	◎	
	3 切れ目のない医療の実現に向け、チーム医療の中で看護の視点から情報を発信できる。		◎			◎	◎
	4 その人らしく生きるために、対象のもてる力を活かしながら、安全で安楽な看護が実践できる。	◎	◎	◎			
成長する力	1 より良い看護をしたいという思いを持ち、学び続ける。	◎	◎	◎			◎
	2 自己の課題に気づき、解決に向けた努力ができる。	○	○	◎	◎		◎
	3 仲間と共に、学び支え合い、お互いに高めていくことができる。				◎	◎	
	4 様々な状況に柔軟で粘り強く対応できる。	○			◎		
	5 専門職業人としての誇りと自覚を持つ。			◎		◎	○

関連が強いもの：◎、弱いに関連しているもの：○

V 各分野の構成

1. 基礎分野

【人間の理解】の科目として、「心理学」「教育学」「論理学」「哲学」、【人間と健康】の科目として、「心の健康」「運動と健康」、【人間と生活】の科目として、「社会学」「家族論」「文化人類学」「物理学」「情報科学」「コミュニケーション論」「英会話」「パフォーマンス論」をおき、計 14 単位とした。

2. 専門基礎分野

【人間の理解】の科目として、「形態機能学Ⅰ～Ⅴ」「生化学」、【人間と健康】の科目として、「疾病の発生と病理的变化」「感染症と微生物」「疾病と治療Ⅰ～Ⅵ」「薬理学」「食事療法とリハビリテーション」「これからの医療」「公衆衛生」、【人間と生活】の科目として、「社会保障と社会福祉」「医療と倫理」「医療と法律」「医療と経済」をおき、計 22 単位とした。

3. 専門分野

専門科目は、生活の概念図を中心に据えた科目構成とし、70 単位とした。

【基礎看護学】の科目として、「看護学概論」「看護理論」「ヘルスアセスメント論」「生活援助論Ⅰ～Ⅲ」「人間関係成立の技術」「看護倫理」「診療の補助技術」「クオリティ看護論Ⅰ～Ⅲ」の計 12 単位とした。

【地域・在宅看護論】の科目として、「地域・在宅で暮らす人々の理解」「地域・在宅看護概論」「地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護」「在宅看護技術」「ケアマネジメント」「在宅看護の展開」の計 6 単位とした。

【成人看護学】の科目として、「成人看護学概論」「生命危機状況にある人の生きているを支える看護」「手術を受ける人の生きていくを支える看護」「病とともに暮らすを支える看護」「生活機能障害のある人の暮らすを支える看護」「その人らしく生きるを支える看護」の計 6 単位とした。

【老年看護学】の科目として、「老年看護学概論」「高齢者の生活機能を整える看護」「高齢者の生きるを支える看護」「認知機能が低下した高齢者の暮らすを支える看護」の計 4 単位とした。

【小児看護学】の科目として、「子供の成長発達と看護」「子供のヘルスプロモーションを支える看護」「子供の健康状態に応じた看護」「子供の成長発達を支える看護」の計 4 単位とした。

【母性看護学】の科目として、「母性看護学概論」「妊婦・産婦の生命の育みを支える看護」「褥婦・新生児の生命の育みを支える看護」「生命の育みを支える看護の展開」の計 4 単位とした。

【精神看護学】の科目として、「精神看護学概論」「精神に障害がある人を支える看護の基本」「精神の障害とともに生きるを支える看護」「精神の障害とともに地域で暮らすを支える看護」の計 4 単位とした。

【看護の統合と実践】の科目として、「看護マネジメントとキャリア論Ⅰ～Ⅱ」「医療安全と看護Ⅰ～Ⅱ」「災害看護・国際看護」「臨床看護の実践」「地域特性と看護」の計7単位とした。

【臨地実習】の構成については、「4つの力」を段階的に強化できるよう配置した。実習時期に応じて4つの力のうちコアとすべき力を各看護学の実習と関連させて明示した。また、都立府中看護専門学校では、看護の対象を「生活者」として捉え、支援できることに重点を置きたいと考えている。このことから、各実習に中心となる「生活の概念」を明示し、意識的に学べることをねらいとし、「看護の基礎実習Ⅰ」「看護の基礎実習Ⅱ」「その人らしさを考える看護実習」「地域での暮らしを支える看護実習」「その人らしさを支える看護実習Ⅰ～Ⅳ」「成長発達を支える看護実習」「生命の育みを支える看護実習」「看護の統合実習」の計23単位とした。

VI 教育課程で使用される用語の定義

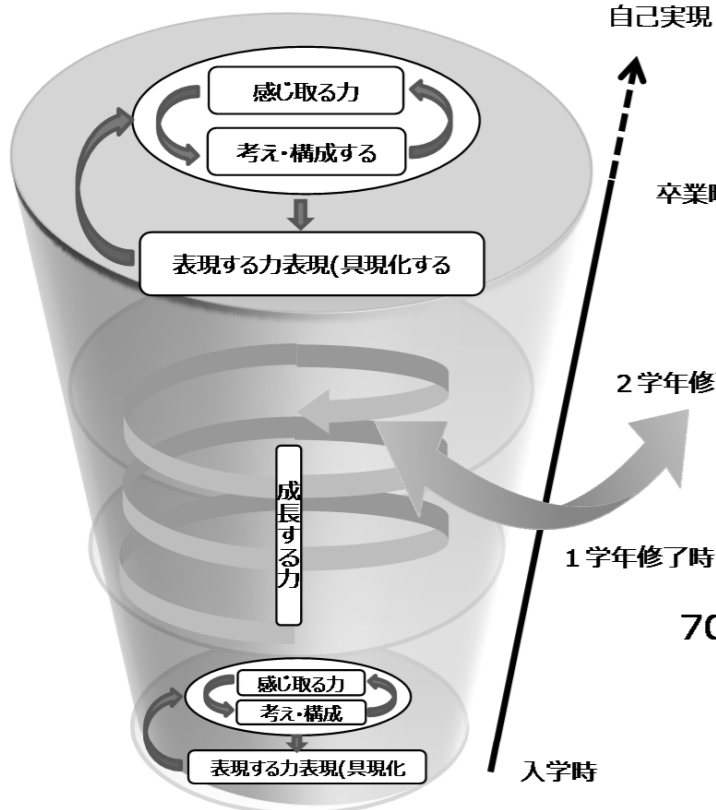
【演習】：グループ制の小集団学習で学生が主体的に学ぶ授業である。

【校内実習】：看護技術の授業で用いる。看護技術の理論の確認、基礎的・基本的な技術の習得、看護の原理・原則の適応の仕方、看護者としての態度を学ぶ。講義と臨地実習の架け橋となる。

【Case leaning】：学習目標を到達するための焦点化した事例を用いた学習で、看護過程の思考のプロセスを活用し、シミュレーション学習やアクティブラーニングなどの学習方法を取り入れ、知識や技術を学習する方法

【臨床判断】：患者のニーズ、気がかり、健康問題について解釈し結論を出すこと、また行為を起こすか起こさないかの判断、標準的な方法を使うか変更するかの判断、患者の反応から適切にその場で考えだして行う判断である。

4つの力（感じ取る力、考え構成する力、表現する力、成長する力）を発展させ、基礎的看護実践能力を育成するカリキュラム



都立看学で発展させたい4つの力

基礎分野・専門基礎分野は、看護の対象である生活者としての人間を理解するために、一貫性を持たせて学ぶ

看護の統合実習 3			
地域での暮らしを支える看護実習 2	その人らしさを支える看護実習 I～IV 8	成長発達を支える看護実習 2	生命の育みを支える看護実習 2
その人らしさを考える看護実習 2単位			
看護の基礎実習 I・II 4単位			

- 生活者としての対象を捉えることを大切にする
- 看護実践能力を段階的に丁寧に育てる

看護の統合と実践 7				
看護マネジメントとキャリア論 I～II / 医療安全と看護 I～II / 災害看護・国際看護/臨床看護の実践/地域特性と看護				
成人看護学 6	老年看護学 4	小児看護学 4	母性看護学 4	精神看護学 4
成人看護学概論 生命の危機状況にある人の生きているを支える看護 手術を受ける人の生きていくを支える看護 病ととも暮らしを支える看護 生活機能障害のある人の暮らしを支える看護 その人らしく生きるを支える看護	老年看護学概論 高齢者の生活機能を整える看護 高齢者の生きるを支える看護 認知機能が低下した高齢者の暮らしを支える看護	子どもの成長発達と看護 子どものヘルスプロモーションを支える看護 子どもの健康状態に応じた看護 子どもの成長発達を支える看護	母性看護学概論 妊婦・産婦の生命の育みを支える看護 産婦・新生児の生命の育みを支える看護 生命の育みを支える看護の展開	精神看護学概論 精神に障害がある人を支える看護の基本 精神の障害とともに生きるを支える看護 精神の障害とともに地域で暮らしを支える看護
地域・在宅看護論 6				
地域・在宅で暮らしを支える看護/地域・在宅看護論/地域・在宅でその人らしい暮らしを支える看護/在宅看護技術/ケアマネジメント/在宅看護の展開				
基礎看護学 12				
看護学概論/看護理論/ヘルスアセスメント論/生活援助論 I～III/人間関係成立の技術/看護倫理/診療の補助技術論/クオリティ看護論 I～III				

70単位

専門基礎分野

人間の理解		人間と健康		人間と生活	
形態機能学 I～V	5	疾病の発生と病理的变化	1	社会保障と社会福祉	1
生化学	1	感染症と微生物	1	医療と倫理	1
		疾病と治療 I～VI	6	医療と法律	1
		薬理学	1	医療と経済	1
		食事療法とリハビリテーション	1		
		これからの医療	1		
		公衆衛生	1		
心理学	1	運動と健康	1	社会学	1
教育学	1	心の健康	1	家族論	1
論理学	1			文化人類学	1
哲学	1			物理学	1
				情報科学	1
				コミュニケーション論	1
				英会話	1
				パフォーマンス論	1

22単位

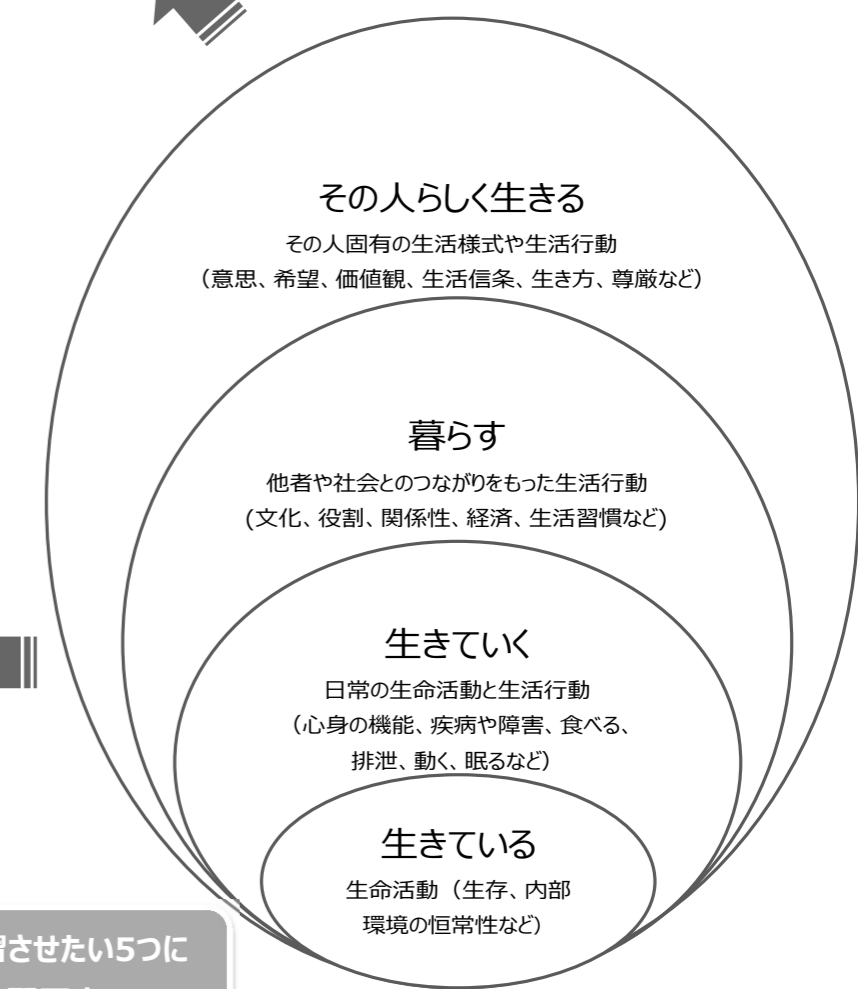
基礎分野

14単位

計106単位

看護技術
コミュニケーション
看護倫理
医療安全
マネジメント・キャリア

都立看学では強化して学習させたい5つに関する教育内容を段階的に配置する



都立看学で捉える「生活」の概念図

図1 都立府中看護専門学校カリキュラム構造図

教育計画および学科進度

		授業科目	指定規則	領域小計	単位	時間数	2024年1学年		2025年2学年		2026年3学年			
基礎分野	人間の理解	心理学	14	14	1	30	1	30						
		教育学			1	30					1	30		
		論理学			1	30			1	30				
		哲学			1	30			1	30				
	人間と健康	心の健康			1	15			1	15				
		運動と健康			1	15							1	15
		社会学			1	30			1	30				
	人間と生活	家族論			1	15	1	15						
		文化人類学			1	15							1	15
		物理学			1	15	1	15						
		情報科学			1	30	1	30						
		コミュニケーション論			1	15	1	15						
		英会話			1	30							1	30
		パフォーマンス論			1	15	1	15						
基礎分野 小計			14	14	14	315	6	120	4	105	4	90		
専門基礎分野	人間の理解	形態機能学Ⅰ 身体の構造と機能の基礎	16	16	1	30	1	30						
		形態機能学Ⅱ 脳神経系・内分泌系の構造と機能・生体の防御機構			1	30	1	30						
		形態機能学Ⅲ 動く・息をする・話す聞く見る・お風呂に入る・眠る			1	30	1	30						
		形態機能学Ⅳ 食べる・トイレに行く・性のしくみ			1	30	1	30						
		形態機能学Ⅴ 日常生活行動と生理的機能			1	30	1	30						
	人間と健康	生化学			1	30	1	30						
		疾病の発生と病理的变化			1	30	1	30						
		感染症と微生物			1	30	1	30						
		疾病と治療Ⅰ 疾病の診断過程と検査、医療機器、回復を促進する治療			1	30			1	30				
		疾病と治療Ⅱ (呼吸器・循環器・内分泌代謝の疾病と治療)			1	30	1	30						
		疾病と治療Ⅲ (運動器・腎泌尿器・血液リンパ器の疾病と治療)			1	30	1	30						
		疾病と治療Ⅳ 脳神経・消化器の疾病と治療			1	30	1	30						
		疾病と治療Ⅴ 自己免疫・精神・小児特有の疾病と治療			1	30			1	30				
		疾病と治療Ⅵ 感覚器・女性生殖器・周産期の異常時の疾病と治療・救急医療			1	30			1	30				
		薬理学			1	30	1	30						
		食事療法とリハビリテーション			1	30			1	30				
		人間と生活			これからの医療	1	15							1
	公衆衛生				1	15							1	15
	社会保障と社会福祉				1	30			1	30				
	医療と倫理				1	15							1	15
	医療と法律				1	15							1	15
	医療と経済				1	15							1	15
専門基礎分野 小計			22	22	22	585	12	360	5	150	5	75		

		授業科目	指定規則	領域小計	単位	時間数	2024年1学年		2025年2学年		2026年3学年		
専 門 分 野	基礎看護学	看護学概論	11	12	1	30	1	30					
		看護理論			1	15			1	15			
		ヘルスアセスメント論			1	30	1	30					
		生活援助論Ⅰ			1	30	1	30					
		生活援助論Ⅱ			1	30	1	30					
		生活援助論Ⅲ			1	30	1	30					
		人間関係成立の技術			1	30	1	30					
		看護倫理			1	15						1	15
		診療の補助技術			1	30			1	30			
		クオリティ看護論Ⅰ			1	30	1	30					
		クオリティ看護論Ⅱ			1	30	1	30					
		クオリティ看護論Ⅲ			1	30						1	30
		地域・在宅看護論			地域・在宅で暮らす人々の理解	6	6	1	15	1	15		
	地域・在宅看護概論		1	15	1			15					
	地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護		1	30					1	30			
	在宅看護技術		1	30					1	30			
	ケアマネジメント		1	15					1	15			
	在宅看護の展開		1	15					1	15			
	成人看護学	成人看護学概論	6	6	1	30	1	30					
		生命の危機状況にある人の生きているを支える看護			1	30			1	30			
		手術を受ける人の生きていくを支える看護			1	30			1	30			
		病とともに暮らすを支える看護			1	30			1	30			
		生活機能障害のある人の暮らすを支える看護			1	30	1	30					
		その人らしく生きるを支える看護			1	30			1	30			
	老年看護学	老年看護学概論	4	4	1	30	1	30					
		高齢者の生活機能を整える看護			1	30	1	30					
		高齢者の生きるを支える看護			1	30			1	30			
		認知機能が低下した高齢者の生きるを支える看護			1	15			1	15			
	小児看護学	子供の成長発達と看護	4	4	1	30	1	30					
		子供のヘルスプロモーションを支える看護			1	30			1	30			
		子供の健康状態に応じた看護			1	30			1	30			
		子供の成長発達を支える看護			1	15			1	15			
	母性看護学	母性看護学概論	4	4	1	30	1	30					
		妊婦・産婦の生命の育みを支える看護			1	30			1	30			
		褥婦・新生児の生命の育みを支える看護			1	30			1	30			
		生命の育みを支える看護の展開			1	15			1	15			
精神看護学	精神看護学概論	4	4	1	30	1	30						
	精神に障害がある人を支える看護の基本			1	30			1	30				
	精神の障害とともに生きるを支える看護			1	30			1	30				
	精神の障害とともに地域で暮らす人への看護			1	15			1	15				

		授業科目	指定規則	領域小計	単位	時間数	2024年1学年		2025年2学年		2026年3学年	
看護の統合と実践		看護マネジメントとキャリア論Ⅰ	4	7	1	15	1	15				
		看護マネジメントとキャリア論Ⅱ			1	15					1	15
		医療安全と看護Ⅰ			1	15	1	15				
		医療安全と看護Ⅱ			1	15			1	15		
		災害看護・国際看護			1	30					1	30
		臨床看護の実践			1	30					1	30
		地域特性と看護			1	15					1	15
専門分野 講義 小計			43	47	47	1,185	19	510	22	540	6	135
専門分野 臨地実習		看護の基礎実習Ⅰ	3	4	1	30	1	30				
		看護の基礎実習Ⅱ			3	90	3	90				
		地域での暮らしを支える看護実習	2	2	2	90					2	90
		その人らしさを考える看護実習	4	8	2	90			2	90		
		その人らしさを支える看護実習Ⅰ			2	90						
		その人らしさを支える看護実習Ⅱ			2	90						
		その人らしさを支える看護実習Ⅲ			2	90						
		成長発達を支える看護実習	2	2	2	90			4	180	8	360
		生命の育みを支える看護実習	2	2	2	90						
		その人らしさを支える看護実習Ⅳ	2	2	2	90						
		看護の統合実習	2	3	3	90					3	90
	実習調整単位	6										
専門分野 実習 小計			23	23	23	930	4	120	6	270	13	540
専門分野 小計			66	70	70	2,115	23	630	28	810	19	675
講義 合計			79	83	83	2,085	37	990	31	795	15	300
実習 合計			23	23	23	930	4	120	6	270	13	540
総合計			102	106	106	3,015	41	1,110	37	1,065	28	840

基 礎 分 野

基礎分野

【科目構成とねらい】

基礎分野は、生活者としての人間を理解するために、自己を含めた人間の理解と、その人間の生活と健康を理解する内容とした。更に、看護を学ぶ基礎として一貫性を持たせるように、【人間の理解】【人間と健康】【人間と生活】の3領域で科目を構成する。

【人間の理解】では、人間の持つ内面の理解や人間の成長・発達に学習が及ぼす影響、人間の持つ思考に焦点をあてて人間を理解する科目として「心理学」「教育学」「論理学」「哲学」を配置した。

【人間と健康】では、自身の心身の健康を見つめ、自己及び他者の健康づくりを学ぶ科目として、「心の健康」「運動と健康」を配置した。

【人間と生活】では、広く人間の生活を理解すること、生活を営む上で必要なコミュニケーション技術を学ぶ科目として「社会学」「家族論」「文化人類学」「物理学」「情報科学」「コミュニケーション論」「英会話」「パフォーマンス論」を配置した。

【目的】

幅広い教養を学び、感じ取る力を培うとともに、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性の醸成を通して、生活と健康の側面から人間を深く理解し、看護を考え、構成し、表現する力を養うことで、専門職業人として成長するための基礎的能力を養う。

【目標】

1. 生命の尊厳や倫理を学び、看護の対象である人間を理解する。
2. 人間を生活者として捉え、様々な環境の中でその人らしく生きる存在として理解を深める。
3. 自己理解・他者理解を深め、コミュニケーション能力を高める。
4. 社会の動向に目を向け、国際社会、情報社会に対応できる能力を養う。
5. 専門職業人として、自立的、主体的に行動できる思考力・判断力を養う。
6. 生涯学習の必要性を理解し、自ら学び続ける力を養う。

【構成および計画】

<講義>

領域	科目	単位数	履修時期		
			1年	2年	3年
人間の理解	心理学	1	○		
	教育学	1			○
	論理学	1		○	
	哲学	1		○	
人間と健康	心の健康	1		○	
	運動と健康	1			○
人間と生活	社会学	1		○	
	家族論	1	○		
	文化人類学	1			○
	物理学	1	○		
	情報科学	1	○		
	コミュニケーション論	1	○		
	英会話	1			○
	パフォーマンス論	1	○		
	合計	14	6	4	4

授業計画

科目名	心理学	単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	人間の心、行動に関する基礎的知識や人間理解の方法について学び、自己及び他者の心、行動について理解する。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	心理学を学ぶ意義	講義	外部講師		
第 2 回	知覚と心理	講義	外部講師		
第 3 回	記憶と心理	講義	外部講師		
第 4 回	学習と心理	講義	外部講師		
第 5 回	認知と心理	講義	外部講師		
第 6 回	性格	講義	外部講師		
第 7 回	乳児期・幼児期の発達と心理	講義	外部講師		
第 8 回	児童期の発達の課題と心理	講義	外部講師		
第 9 回	青年期の発達の課題と心理 思春期を含む	講義	外部講師		
第 10 回	成人期初期の発達の課題と心理 更年期を含む	講義	外部講師		
第 11 回	老年期の発達課題と心理	講義	外部講師		
第 12 回	感情・動機・欲求と心理①	講義	外部講師		
第 13 回	感情・動機・欲求と心理②	講義	外部講師		
第 14 回	集団の心理	講義	外部講師		
第 15 回	評価		外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示	評価 方法	筆記・ レポート等		
備考					

授業計画

科目名	教育学	単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	3 年次
科目 目標	教育が、文化・社会の動態や人間の成長発達に影響することを理解するとともに生涯学習の必要性について考える。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	教育とは 教育学を学ぶ意義	講義 演習	外部講師		
第 2 回	文化・社会と教育①	講義 演習	外部講師		
第 3 回	文化・社会と教育②	講義 演習	外部講師		
第 4 回	家庭教育	講義 演習	外部講師		
第 5 回	学校教育①	講義 演習	外部講師		
第 6 回	学校教育②	講義 演習	外部講師		
第 7 回	教育方法 集団教育	講義 演習	外部講師		
第 8 回	個別教育	講義 演習	外部講師		
第 9 回	医療と教育	講義 演習	外部講師		
第 10 回	教育評価	講義 演習	外部講師		
第 11 回	生涯学習	講義 演習	外部講師		
第 12 回	ペタゴジー アンドラゴジー ジェロゴジー①	講義 演習	外部講師		
第 13 回	ペタゴジー アンドラゴジー ジェロゴジー②	講義 演習	外部講師		
第 14 回	教育が抱える問題	講義 演習	外部講師		
第 15 回	評価		外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示	評価 方法	筆記等		
備考					

授業計画

科目名	論理学	単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	論理的な考え方、表現方法の技術を学び、論理的思考力、文章表現能力を養う。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	論理学とは 論理学を学ぶ意義	講義	外部講師		
第 2 回	思考の根本原理	講義 演習	外部講師		
第 3 回	概念	講義 演習	外部講師		
第 4 回	命題	講義 演習	外部講師		
第 5 回	推論	講義 演習	外部講師		
第 6 回	クリティカルシンキングとは	講義	外部講師		
第 7 回	クリティカルシンキング演習①	演習	外部講師		
第 8 回	クリティカルシンキング演習②	演習	外部講師		
第 9 回	文章の読み方	講義 演習	外部講師		
第 10 回	文章の批判的な読み方	講義 演習	外部講師		
第 11 回	論理的文章の書き方	講義 演習	外部講師		
第 12 回	論理的文章を書く	講義 演習	外部講師		
第 13 回	論理的に表現する	講義 演習	外部講師		
第 14 回	非難と批判は違う	講義 演習	外部講師		
第 15 回	評価		外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示	評価 方法	筆記・ レポート等		
備考					

授業計画

科目名	哲学	単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	哲学的思考を学習し、人間の生き方、価値観生命の尊厳について理解を深める。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	哲学とは 哲学を学ぶ意義	講義	外部講師		
第 2 回	人間の存在と認識①	講義	外部講師		
第 3 回	人間の存在と認識②	講義	外部講師		
第 4 回	理性と感情①	講義	外部講師		
第 5 回	理性と感情②	講義	外部講師		
第 6 回	責任と自由①	講義	外部講師		
第 7 回	責任と自由②	講義	外部講師		
第 8 回	生と死①	講義	外部講師		
第 9 回	生と死②	講義	外部講師		
第 10 回	幸福	講義	外部講師		
第 11 回	看護と現象学	講義 演習	外部講師		
第 12 回	生きる上での諸問題 何のために生きるのか	演習	外部講師		
第 13 回	生きる上での諸問題 生命倫理	演習	外部講師		
第 14 回	生きる上での諸問題 臓器移植	演習	外部講師		
第 15 回	評価		外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示	評価 方法	筆記・ レポート等		
備考					

授業計画

科目名	心の健康	単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	心の健康について学ぶことで自己の内面の在り様を感じ、自己統制する方法を学ぶ。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	心の健康とは	講義	外部講師		
第 2 回	心理臨床	講義	外部講師		
第 3 回	メンタルヘルス	講義	外部講師		
第 4 回	心の適応と不適応	講義	外部講師		
第 5 回	医療・看護と心理① ストレスマネジメント、セルフモニタリング	講義	外部講師*		
第 6 回	医療・看護と心理② バーンアウト、レジリエンス、アンガーマネジメント	講義	外部講師*		
第 7 回	ワークライフバランス	講義	外部講師*		
第 8 回	評価		外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示	評価 方法	筆記・ レポート等		
備考					

授業計画

科目名	運動と健康	単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	運動が健康に与える効果を学び、健康を維持増進するための方法を理解する。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	運動と健康を学ぶ意義 運動が健康に与える効果	講義	外部講師		
第 2 回	運動理論	講義	外部講師		
第 3 回	体力づくり① ウォーキング・ジョギング他	演習	外部講師		
第 4 回	体力づくり② ウォーキング・ジョギング他	演習	外部講師		
第 5 回	健康づくりのプレゼンテーション	講義	外部講師		
第 6 回	レクリエーションの意義と進め方①	演習	外部講師		
第 7 回	レクリエーションの意義と進め方②	演習	外部講師		
第 8 回	評価		外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示	評価 方法	実技等		
備考					

授業計画

科目名	社会学	単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	社会的存在としての人間を理解するとともに、多様な社会関係の中での物の見方・考え方を理解する。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	社会学とは 社会学を学ぶ意義	講義	外部講師		
第 2 回	集団及び組織 社会集団の概念、第 1 次集団、第 2 次集団	講義	外部講師		
第 3 回	家族 家族の概念、家族の変容、家族の構造と形態、家族の機能	講義	外部講師		
第 4 回	地域社会 地域の概念、コミュニティの概念、都市化・過疎化と地域社会	講義	外部講師		
第 5 回	国際社会 グローバル化と地球規模の課題	講義	外部講師		
第 6 回	生活と経済	講義	外部講師		
第 7 回	生活と労働	講義	外部講師		
第 8 回	人と社会の関係 社会的行為、社会的役割、社会的ジレンマ等	講義	外部講師		
第 9 回	社会問題とは 社会問題のとらえ方、社会病理、逸脱、 差別、貧困、失業、自殺、犯罪、非行、社会的排除、ハラスメント、DV、児童虐待、いじめ、公害、環境破壊など	講義	外部講師		
第 10 回	多様性と社会 ジェンダー、マイノリティ、ダイバーシティ	講義	外部講師		
第 11 回	現代社会の課題を取り上げ、調査及び討議する①	演習	外部講師		
第 12 回	現代社会の課題を取り上げ、調査及び討議する②	演習	外部講師		
第 13 回	現代社会の課題を取り上げ、他者にプレゼンテーションする資料の作成	演習	外部講師		
第 14 回	現代社会の課題の共有	演習	外部講師		
第 15 回	評価		外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示	評価 方法	筆記・ レポート等		
備考					

授業計画

科目名	家族論	単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	集団としての家族の構造と機能について理解し、現代家族の諸問題を考える。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	「家族」という存在 家族のセルフケア機能	講義	外部講師*		
第 2 回	看護学における家族の理解①	講義	外部講師*		
第 3 回	看護学における家族の理解②	講義	外部講師*		
第 4 回	家族システム論 家族発達理論	講義	外部講師*		
第 5 回	家族看護過程①	講義	外部講師*		
第 6 回	家族看護過程②	講義	外部講師*		
第 7 回	家族看護における看護者の役割と援助姿勢	講義	外部講師*		
第 8 回	評価		外部講師*		
テキスト 参考図書	家族看護学 理論と実践 (第 5 版) 鈴木和子・渡辺裕子 日本看護協会出版会	評価 方法	筆記・ レポート等		
備考					

授業計画

科目名	文化人類学	単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	多様な価値観・信条や文化背景から多文化を理解し、多様な人間の在り方を学ぶ。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	文化人類学とは 文化人類学を学ぶ意義	講義	外部講師		
第 2 回	人間と文化	講義	外部講師		
第 3 回	生活と文化	講義	外部講師		
第 4 回	伝統と文化	講義	外部講師		
第 5 回	性の多様性	講義	外部講師		
第 6 回	健康・病気・医療と文化	講義	外部講師		
第 7 回	生と死の文化	講義	外部講師		
第 8 回	評価		外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示	評価 方法	筆記・ レポート等		
備考					

授業計画

科目名	物理学	単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	看護活動を基盤とするために物理学の基礎を理解する。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	力学 力の表し方 力の合成と分解	講義	外部講師		
第 2 回	トルクとてこ	講義 演習	外部講師		
第 3 回	重心、安定・不安定 運動の三法則と力	講義 演習	外部講師		
第 4 回	圧力 気圧 水圧 サイホンの原理	講義 演習	外部講師		
第 5 回	血圧 酸素ポンプ	講義 演習	外部講師		
第 6 回	光の種類と性質 電磁波・電磁波の仲間・X線	講義 演習	外部講師		
第 7 回	熱 伝導・比熱・潜熱・対流・輻射・濃度の計測 %濃度と ml	講義 演習	外部講師		
第 8 回	評価		外部講師		
テキスト 参考図書	完全版 ベットサイドを科学する 学研	評価 方法	筆記等		
備考					

授業計画

科目名	情報科学	単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 情報科学の概念と情報処理に必要なパソコンの基礎知識、活用技術を身につける。 2. 医療における情報の活用と情報倫理の必要性を理解する。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	情報教育システムの利用方法 情報リテラシー セキュリティと情報管理 インターネット、E-mail の利用	講義 演習	外部講師		
第 2 回	Word の基本操作	講義 演習	外部講師		
第 3 回	Excel の基本操作 データ入力、計算式、グラフの描写 など	講義 演習	外部講師		
第 4 回	Excel の+応用 オートフィル、絶対参照と相対参照 関数の利用・関数の検索	講義 演習	外部講師		
第 5 回	統計処理 統計学入門、統計データの種類とまとめ方、確率と分布	講義 演習	外部講師		
第 6 回	統計処理 母集団・標本と推定、 各種検定、保健統計の基礎	講義 演習	外部講師		
第 7 回	文献検索、文献活用	講義 演習	外部講師		
第 8 回	文献の読み方	講義 演習	外部講師		
第 9 回	文献の読み方	講義 演習	外部講師		
第 10 回	PowerPoint の基本 スライド作成, デザイン・配色, スライドショー	講義 演習	外部講師		
第 11 回	PowerPoint の基本 スライドの切り替え効果, 図・表・グラフの挿入	講義 演習	外部講師		
第 12 回	医療・看護と情報 ICT、IOT の基礎 ICT,IOT の概念と基礎的知識	講義 演習	外部講師		
第 13 回	医療・看護と情報 ICT、IOT の応用 ロボット、AI (人工知能)、AR (仮想現実)、VR (拡張現実) 等	講義 演習	外部講師		
第 14 回	医療・看護と情報 ICT、IOT の今後の展望 医療への応用、地域医療情報連携ネットワーク (HER)、 パーソナルヘルスレコード (PHR)、プログラミング、 AI プラットフォーム、セキュリティとプライバシー等	講義 演習	外部講師		
第 15 回	医療・看護と情報 電子カルテの活用	講義 演習	外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示	評価 方法	筆記・ レポート等		
備考	第 1 回は単位認定者も参加する				

授業計画

科目名	コミュニケーション論	単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	人間関係の基礎としてのコミュニケーションスキルを身につける。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	人間関係の構築 自らのコミュニケーションのあり方を見つめる	講義	外部講師		
第 2 回	対人交流パターンの分析 対人コミュニケーションの特徴、 コミュニケーションの様々な形	講義 演習	外部講師		
第 3 回	人間関係とコミュニケーション よく聴く、話してもらう	講義 演習	外部講師		
第 4 回	受容的態度と共感	講義 演習	外部講師		
第 5 回	アサーション 対人姿勢（態度）の基礎を理解する	講義 演習	外部講師		
第 6 回	アサーショントレーニング 言語的コミュニケーション活用	講義 演習	外部講師		
第 7 回	非言語的コミュニケーションの活用	講義 演習	外部講師		
第 8 回	評価		外部講師		
テキスト 参考図書	看護師のためのコミュニケーション論 アトリエ華悠	評価 方法	筆記等		
備考					

授業計画

科目名	英会話	単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	3 年次
科目 目標	基礎的な英会話を学び、日常生活や看護場面で活用できる力を養う。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	日常英会話① Ward、 dialogue、 movie、 oral	講義 演習	外部講師		
第 2 回	日常英会話② Ward、 dialogue、 movie、 oral	講義 演習	外部講師		
第 3 回	看護場面の英会話①	講義 演習	外部講師		
第 4 回	看護場面の英会話②	講義 演習	外部講師		
第 5 回	看護場面の英会話③	講義 演習	外部講師		
第 6 回	看護場面の英会話④	講義 演習	外部講師		
第 7 回	看護場面の英会話⑤	講義 演習	外部講師		
第 8 回	看護場面の英会話⑥	講義 演習	外部講師		
第 9 回	看護場面の英会話⑦	講義 演習	外部講師		
第 10 回	看護場面の英会話⑧	講義 演習	外部講師		
第 11 回	看護場面の英会話⑨	講義 演習	外部講師		
第 12 回	看護場面の英会話⑩	講義 演習	外部講師		
第 13 回	看護場面の英会話⑪	講義 演習	外部講師		
第 14 回	看護場面の英会話⑫	講義 演習	外部講師		
第 15 回	評価		外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示	評価 方法	筆記・ パフォーマンス 参加度		
備考					

授業計画

科目名	パフォーマンス論	単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	事物に対する感性を養うとともに、主体性を持ち自分の思いや考えを他者にわかりやすく伝え、他者の表現を尊重し意図を感じ取る。				
回	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	マナーと接遇：自己と周囲との関係性	講義 演習	外部講師		
第 2 回	自己開示と自己呈示 自己表現 場面に応じた行動コントロール	講義 演習	外部講師		
第 3 回	自己演出 非言語表現…うなずき 視線 会話距離 身体表現…身体姿勢と動作、表情が相手に及ぼす影響	講義 演習	外部講師		
第 4 回	プレゼンテーション① 潜在的感性への気づき：Listen&Tell 想像・創造を深める	講義 演習	外部講師		
第 5 回	プレゼンテーション② Show&Tell：事物と言語を用いた「伝える・伝わる」プレゼン テーション	講義 演習	外部講師		
第 6 回	プレゼンテーション③ 自己と他者との協働、共創的関わり	講義 演習	外部講師		
第 7 回	プレゼンテーション④ 日常の様々なシチュエーション（場面）への即時的思考と対応	講義 演習	外部講師		
第 8 回	プレゼンテーション⑤ 共有と修正	演習	外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示	評価 方法	レポート等		
備考					

專 門 基 礎 分 野

専門基礎分野

【科目構成とねらい】

専門基礎分野は、看護を行う上で基盤となるものである。生活者としての人間を理解するために、自己を含めた人間の理解と、その人間の生活と健康を理解する内容とした。からだの構造や機能、それが障害された状態の変化に関する観察力や判断力を養い、看護実践につなげられるようにする。

看護を学ぶ基礎として一貫性を持たせるように、【人間の理解】【人間と生活】【人間と健康】の3領域で科目を構成する。

【人間の理解】では、日常生活行動そのもの仕組みとして人体の構造と機能を理解する科目として「形態機能学Ⅰ～Ⅴ」「生化学」を配置した。

【人間と健康】では、人間の健康が障害された状態と回復過程を理解し、看護実践の基盤となる臨床判断能力の基礎を養う科目として、「疾病の発生と病理的变化」「感染症と微生物」「疾病と治療Ⅰ～Ⅵ」「薬理学」「食事療法とリハビリテーション」「これからの医療」「公衆衛生」を配置した。

【人間と生活】では、人々がその人らしく社会の中で生活するために必要な保健・医療・福祉に関する基本概念や制度、現状を学ぶ科目として、「社会保障と社会福祉」「医療と倫理」「医療と法律」「医療と経済」を配置した。

【目的】

人間の“生きる”を支える人体の構造と機能及び障害された時の影響を学び、対象に合わせた看護を実践するための基礎的能力を養う。また、社会の変化や様々なニーズに柔軟に対応するための、保健・医療・福祉に関する基礎的能力を養う。

【目標】

1. 人間の生命活動と日常生活行動を支える人体の構造と機能を理解する。
2. 人体の構造や機能が障害された時の反応と回復過程を理解し、その人らしく生きることへの影響を理解する。
3. 専門職業人としての臨床判断能力を習得するための基礎を理解する。
4. 保健・医療・福祉に関する基本的概念、制度、現代における課題等を学び、医療チームの一員としての連携・協働について理解する。
5. 社会の変化や医療等の動向に関心を持ち、より良い看護を考えるための基礎的知識を習得する。

【構成および計画】

<講義>

領域	科目	単位数	履修時期		
			1年	2年	3年
人間の理解	形態機能学Ⅰ（ ^{からだ} 身体の構造と機能の基礎）	1	○		
	形態機能学Ⅱ（脳神経系・内分泌系の構造と機能・生体の防御機構）	1	○		
	形態機能学Ⅲ（動く・息をする・話す・聞く・見る・お風呂に入る・眠る）	1	○		
	形態機能学Ⅳ（食べる・トイレに行く・性のしくみ）	1	○		
	形態機能学Ⅴ（日常生活行動と生理的機能）	1	○		
	生化学	1	○		
人間と健康	疾病の発生と病理的变化	1	○		
	感染症と微生物	1	○		
	疾病と治療Ⅰ （疾病の診断過程と検査、医療機器、回復を促進する治療）	1		○	
	疾病と治療Ⅱ （呼吸器・循環器・内分泌代謝の疾病と治療）	1	○		
	疾病と治療Ⅲ （運動器・腎泌尿器・血液リンパ器の疾病と治療）	1	○		
	疾病と治療Ⅳ （脳神経・消化器の疾病と治療）	1	○		
	疾病と治療Ⅴ （自己免疫・精神・小児特有の疾病と治療）	1		○	
	疾病と治療Ⅵ （感覚器、女性生殖器・周産期の異常時の疾病と治療、救急医療）	1		○	
	薬理学	1	○		
	食事療法とリハビリテーション	1		○	
	これからの医療	1			○
	公衆衛生	1			○
	人間と生活	社会保障と社会福祉	1		○
医療と倫理		1			○
医療と法律		1			○
医療と経済		1			○
	計	22	12	5	5

授業計画

科目名	形態機能学 I (身体 ^{からだ} の構造と機能の基礎)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 形態機能学を学ぶ意義を理解する。 2. 身体 ^{からだ} の構造と機能及び恒常性維持の必要性とメカニズムの基礎を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	形態機能学とは 看護実践と形態 機能学	看護モデルでの形態機能学の枠組み－医学モデル との違い－ 形態機能学を看護職が学ぶ意義 形態機能学を学んで身につけてほしい力	講義	専任教員*		
第 2 回	身体 ^{からだ} の構造と機 能の基礎	からだの基礎知識 解剖学的用語 ホメオスタシス (恒常性)	講義	外部講師*		
第 3 回		フィードバック機構	講義	外部講師*		
第 4 回		細胞と組織 細胞の構造、細胞膜の構造と機能、 細胞の増殖と染色体	講義	外部講師*		
第 5 回		恒常性維持機能	内部環境の恒常性 体液とホメオスタシス 血漿の PH・酸塩基平衡	講義	外部講師*	
第 6 回		物質の運搬 血液の組成と機能	講義	外部講師*		
第 7 回		赤血球、白血球、血小板	講義	外部講師*		
第 8 回		血漿タンパクと赤血球沈降速度 血球の凝固と繊維素溶解 血液型	講義	外部講師*		
第 9 回	血管・リンパ管 の形態と機能	血管の構造、肺循環の血管、全身の動脈	講義	外部講師*		
第 10 回		全身の静脈、リンパ管の構造、リンパの循環	講義	外部講師*		
第 11 回	流通の原動力	心臓の構造 心臓の血管と神経	講義	外部講師*		
第 12 回	心臓の拍出機能 と心電図	心臓の興奮と伝播 心臓の自動性と歩調取り、興奮の伝播 心電図	講義	外部講師*		
第 13 回		心拍出量と血圧、心周期、心音・心雑音	講義	外部講師*		
第 14 回	血液循環の調節	血圧、血液の循環、血液・血液量の調節	講義	外部講師*		
第 15 回	評価			外部講師*		
テキスト 参考図書	解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版 医学書院			評価 方法	筆記	
備考	DVD 看護教育シリーズ 生体の仕組み 基礎医学シリーズ 目で見る医学の基礎					

授業計画

科目名	形態機能学Ⅱ（脳神経系・内分泌系の構造と機能・ 生体の防御機構）	単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 恒常性を維持するための脳神経系・内分泌系の構造と機能及び生体の防御機構を理解する。				
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>
第 1 回	神経性調節	自律神経による調節 自律神経の構造と機能 神経伝達物質と受容体		講義	外部講師*
第 2 回		神経系の構造と機能 神経細胞と支持細胞 ニューロンでの興奮の伝導 シナプスでの興奮の伝導 神経系の構造		講義	外部講師*
第 3 回		脊髄の構造と機能 脳の構造と機能		講義	外部講師*
第 4 回		脊髄神経の構造と機能 脳神経の構造と機能		講義	外部講師*
第 5 回		脳の高次機能		講義	外部講師*
第 6 回		運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路		講義	外部講師*
第 7 回		運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路		講義	外部講師*
第 8 回	液性調節	内分泌系による調節 ホルモンの作用機序 全身の内分泌腺と内分泌細胞		講義	外部講師*
第 9 回		内分泌系による調節 全身の内分泌腺と内分泌細胞 ホルモン分泌の調節		講義	外部講師*
第 10 回		内分泌系による調節 恒常性維持のためのホルモンの働き 体液量・代謝速度の調節、蛋白合成の促進		講義	外部講師*
第 11 回		内分泌系による調節 恒常性維持のためのホルモンの働き 血糖の調節 血中ナトリウム・カリウムの 調節 血中カルシウムの調節		講義	外部講師*
第 12 回	生体防御機構	非特異的生体防御機構：自然免疫機構 皮膚・粘膜の構造と防御機構 食細胞とサイトカイン 生体防御の関連臓器 胸腺・脾臓・リンパ組織		講義	外部講師*
第 13 回		特異的生体防御機構：獲得免疫機構 免疫系の細胞、抗原と抗体、補体 液性免疫と細胞性免疫、アレルギー反応		講義	外部講師*
第 14 回		特異的生体防御機構：獲得免疫機構 血液型、組織適合抗原 (HLA) 体温調節 体温の、成り立ち核心温度と外殻温度、 体温調節		講義	外部講師*
第 15 回	評価				外部講師*
テキスト 参考図書	解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版 医学書院			評価 方法	筆記・ レポート等
備考	DVD 看護教育シリーズ 生体の仕組み 基礎医学シリーズ 目で見る医学の基礎				

授業計画

科目名	形態機能学Ⅲ (動く・息をする・見る聞く話す・お風呂に入る・眠る)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 人間にとって「動く」「息をする」「話す・聞く・見る」「お風呂に入る」「眠る」ことに関わる身体の構造と機能を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	日常生活行動 「動く」	「動く」が人の日常生活上にもたらす意味 日常生活の基盤である「動く」 姿勢 体位と構え 赤ちゃんが歩くまで 立位の保持	講義	専任教員*		
第 2 回		「動く」ために必要な骨格・関節・骨格筋の構造 と機能	講義	専任教員*		
第 3 回		体幹の骨格・関節・骨格筋、上肢の骨格・関節・ 骨格筋	講義	専任教員*		
第 4 回		下肢の骨格・関節・骨格筋、頭頸部の骨格・関節・ 骨格筋	講義	専任教員*		
第 5 回		神経から筋への指令と筋の収縮 筋収縮のメカニズム、筋の興奮収縮 意図的でない運動：反射 意図的な運動：随意運動	講義	専任教員*		
第 6 回		日常生活行動に関連する体の動き 「つまむ」「表情をつくる」「歩く」	講義	専任教員*		
第 7 回	日常生活行動 「息をする」	「息をする」意味 「息を吸う」「息を吐く」ための器官の構造 呼吸器の各器官の構造	講義	外部講師*		
第 8 回		呼吸器の機能 気道の機能、肺の機能 呼吸運動 呼吸のメカニズム、呼吸筋 病態とのつながり	講義	外部講師*		
第 9 回		呼吸運動の調整、排気量（呼吸気量）	講義	外部講師*		
第 10 回		ガス交換とガスの運搬 肺の循環と血流 呼吸器系の病態生理、換気障害（閉塞性・拘束性）	講義	外部講師*		
第 11 回	日常生活行動 「お風呂に入る」	皮膚の構造と機能 お風呂に入る効果 温熱効果、皮膚の温点・冷点	講義	外部講師*		
第 12 回	日常生活行動 「見る」	見るための器官の構造、視覚 視野と視覚伝導路、眼球に関する反射 見ることの障害が日常生活に及ぼす影響	講義	専任教員*		
第 13 回	日常生活行動 「聞く・話す」	聞くための器官の構造聴覚伝導路 感覚と平衡の仕組み 話すための器官の構造・脳の仕組み 「見る・聞く・話す」の障害と生活への影響	講義	専任教員*		
第 14 回	日常生活行動 「眠る」	生体リズム 概日リズム（サーカディアンリズム） 睡眠のメカニズム、睡眠中の生体の変化	講義	外部講師*		
第 15 回	評価			専任教員* 外部講師*		
テキスト 参考図書	解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版 医学書院			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考	DVD 看護教育シリーズ 生体の仕組み、基礎医学シリーズ 目で見る医学の基礎					

授業計画

科目名	形態機能学Ⅳ（食べる・トイレに行く・性のしくみ）	単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 人間にとって「食べる」「トイレに行く」ことに関わる身体の構造と機能を理解する。 2. 人間の性や子孫を増やすための構造と機能を理解する。				
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	日常生活行動 「食べる」	「食べる」意義 「食べる」日常生活行動のプロセス 「食べる」に関わる構造と機能 食欲 食行動	講義	専任教員*	
第 2 回		咀嚼し味わう 飲み込む（嚥下） 食道の構造と機能	講義	専任教員*	
第 3 回		消化と吸収 消化液の作用、消化腺と酵素	講義	専任教員*	
第 4 回		消化管の構造と機能 上部消化管の構造と機能 小腸の構造と機能	講義	専任教員*	
第 5 回		膵臓の構造と機能 ホルモンの分泌と調整 胆嚢の構造と機能	講義	専任教員*	
第 6 回		肝臓の構造と機能 門脈と組織構造 代謝、解毒、排泄、胆汁産生・貯蔵	講義	専任教員*	
第 7 回	日常生活行動 「トイレに行く」	「トイレに行く」意義 「トイレに行く」日常生活行動のプロセス	講義	専任教員*	
第 8 回		尿の成分と性状、尿・排尿の異常	講義	専任教員*	
第 9 回		尿生成 腎臓の構造と機能 糸球体の構造と機能 尿細管の構造と機能 排尿 尿管と膀胱・尿道の構造と機能	講義	専任教員*	
第 10 回		体液の調整 R-A-A 系 クリアランスと糸球体濾過量 水分出納 脱水 電解質の異常 酸塩基平衡	講義	専任教員*	
第 11 回		排便する 大腸の構造と機能 便の生成 便意と排便	講義	専任教員*	
第 12 回	性のしくみ	人間の性を決定する仕組み 遺伝子による男と女 ホルモンによる男と女	講義	専任教員*	
第 13 回		男性生殖器の構造と機能 女性生殖器の構造と機能	講義	専任教員*	
第 14 回		受精と胎児の発生	講義	専任教員*	
第 15 回	評価			専任教員*	
テキスト 参考図書	解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版 医学書院		評価 方法	筆記・ レポート等	
備考	DVD 看護教育シリーズ 生体の仕組み 基礎医学シリーズ 目で見る医学の基礎				

授業計画

科目名	形態機能学Ⅴ（日常生活行動と生理的機能）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 生理学的指標及び身体各部の測定をとおして、日常生活行動に関する機能の変化とその調整機能を理解する。 2. 解剖見学により人体の主要な臓器の構造を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>		
第 1 回	日常生活行動に関する身体・生理機能	日常生活行動と身体生理機能の関連性について 解剖見学、事前・事後学習課題	講義	専任教員*		
第 2 回	主要臓器の観察	解剖見学 主要な臓器の構造、体の中での位置関係	見学	専任教員*		
第 3 回		解剖見学 主要な臓器の構造、体の中での位置関係	見学	専任教員*		
第 4 回	日常生活行動に関する身体・生理機能の実際	演習の進め方について 機械操作について 事前・事後学習の確認等	講義	専任教員*		
第 5 回		演習 1 回目 息をする	演習	専任教員*		
第 6 回		演習 2 回目 恒常性維持と流通機構	演習	専任教員*		
第 7 回		演習 3 回目 見る・聞く・話す	演習	専任教員*		
第 8 回		演習 4 回目 トイレに行く	演習	専任教員*		
第 9 回		演習 5 回目 食べる	演習	専任教員*		
第 10 回		演習 6 回目 動く	演習	専任教員*		
第 11 回		グループワーク 得られたデータの分析・考察	演習	専任教員*		
第 12 回		グループワーク 得られたデータの分析・考察	演習	専任教員*		
第 13 回		グループワーク 発表準備	演習	専任教員*		
第 14 回		発表		専任教員*		
第 15 回		発表		専任教員*		
テキスト 参考図書		解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版 医学書院		評価 方法	レポート等	
備考						

授業計画

科目名	生化学		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	生体内の代謝のしくみ、生命の設計図である遺伝を学ぶ。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	生命現象を科学的側面から理解するための基礎知識	生化学とは 生化学に必要な化学の基礎知識		講義	外部講師*	
第 2 回		細胞の構造と機能		講義	外部講師*	
第 3 回	代謝と生体エネルギー 酵素の役割と反応	代謝と生体のエネルギー 代謝とエントロピー、ATP 酵素と酵素反応		講義	外部講師*	
第 4 回	糖質の代謝	糖質の構造と機能		講義	外部講師*	
第 5 回		糖質代謝① 糖質の消化と吸収、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系と ATP 産生 等		講義	外部講師*	
第 6 回		糖質代謝② グリコーゲン合成と分解、糖新生		講義	外部講師*	
第 7 回	脂質の代謝	脂質の構造と機能		講義	外部講師*	
第 8 回		脂質代謝 脂質の消化と吸収		講義	外部講師*	
第 9 回	タンパク質の代謝	タンパク質の構造と機能		講義	外部講師*	
第 10 回		タンパク質の代謝① タンパク質の消化 アミノ酸吸収、アミノ酸の分解		講義	外部講師*	
第 11 回		タンパク質の代謝② アミノ酸代謝、非必須アミノ酸合成、ヘム合成		講義	外部講師*	
第 12 回	ビタミンとミネラルの役割	ビタミンとミネラルの種類と作用		講義	外部講師*	
第 13 回	核酸の代謝	核酸の構造と機能 核酸代謝		講義	外部講師*	
第 14 回	遺伝情報	遺伝のしくみと遺伝子の異常 転写、タンパク質の合成		講義	外部講師*	
第 15 回	評価				外部講師*	
テキスト 参考図書	生化学 人体の構造と機能② 医学書院			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考						

授業計画

科目名	疾病の発生と病理的变化		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	疾病の原因と人体にもたらす変化を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>		
第 1 回	疾病の概念	疾病の成り立ち 疾病の概念 疾病を引き起こす内的・外的要因	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回	細胞・組織の障 害と修復	細胞の損傷と適応	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		組織の修復と創傷治癒 炎症	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回	組織の構造・機 能と病変	循環障害	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回		代謝障害	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回		免疫 移植と再生医療	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回		感染症	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回		腫瘍	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回	変化に影響する 個体の条件	老化	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回		遺伝的多様性と疾病	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回	人間の死	死の定義 脳死と心臓死 終焉時の身体の変化	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回	生命の危機	ショック状態	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回		呼吸不全の状態	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回		循環不全の状態	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価			外部講師* (医師)		
テキスト 参考図書	病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① 医学書院		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	感染症と微生物		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 病原微生物が人体に及ぼす影響と生体防御機構、感染予防を理解する。 2. 感染症の特徴や臨床症状を理解し、その診断、治療を学ぶ。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	微生物学の基礎	微生物とは 細菌の特徴 ウイルスの特徴	講義	外部講師		
第 2 回	感染とその制御	感染と感染症 感染源・感染経路から見た感染症	講義	外部講師		
第 3 回		感染に対する生体防御機構	講義	外部講師		
第 4 回		感染症の治療	講義	外部講師		
第 5 回		滅菌と消毒	バイオハザードとバイオセーフティ 滅菌 消毒	講義	外部講師	
第 6 回	主な病原微生物 の特徴と診断・ 治療	病原細菌と細菌感染症の特徴と診断・治療 グラム陽性球菌 グラム陰性球菌	講義	外部講師		
第 7 回		グラム陰性桿菌	講義	外部講師		
第 8 回		カンピロバクター属、ヘリコバクター属 グラム陽性桿菌 抗酸菌と放線菌	講義	外部講師		
第 9 回		病原原虫と原虫感染症の特徴と診断・治療 病原真菌と真菌感染症の特徴と診断・治療	講義	外部講師		
第 10 回		病原ウイルスとウイルス感染症の特徴と診断・ 治療 DNA ウイルス	講義	外部講師		
第 11 回		RNA ウイルス	講義	外部講師		
第 12 回		ウイルスの臨床的分類	講義	外部講師		
第 13 回		嫌気性菌 スピロヘータ マイコプラズマ リケッチア目 クラミジア科	講義	外部講師		
第 14 回		感染症の変遷 感染症の現状と問題点	講義	外部講師		
第 15 回		評価			外部講師	
テキスト 参考図書	微生物学 疾病の成り立ちと回復の促進④ 医学書院		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	疾病と治療 I (疾病の診断過程と検査・医療機器、回復を促進する治療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 疾病の診断過程と検査、医療機器の基礎的知識を理解する。 2. 疾病の回復を促進する治療の原理を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	臨床検査	臨床検査の種類 検体の採取方法とその取り扱い方	講義	外部講師* (臨床検査技師)		
第 2 回		生理機能検査 超音波検査	講義	外部講師* (臨床検査技師)		
第 3 回	手術療法	手術療法の基礎	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回		手術を受ける患者の準備	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回		手術療法の合併症① ・術後出血・循環器合併症	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回		手術療法の合併症② ・呼吸器・消化器症・術後感染症	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回	内視鏡的治療	内視鏡的治療の目的と役割 内視鏡的治療・検査の種類① ・上部消化管内視鏡・大腸内視鏡 内視鏡的治療・検査の種類② ・内視鏡的逆行性膵胆管造影・超音波内視鏡 内視鏡的検査・治療の注意点	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回	麻酔治療	麻酔の種類 ・全身麻酔・局所麻酔 麻酔薬と適応	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回		全身麻酔と生体反応 神経ブロック	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回	放射線治療	放射線検査 人体に対する放射線の影響 放射線の性質と検査の種類	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回		放射線治療 ・悪性腫瘍と放射線治療 ・放射線防御の基本と健康管理	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回	医療機器	主な医療機器の原理と使用上の注意事項 ・病院内の Lifeline (電気) ・生体情報モニター (心電図、テレメーター)	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回		医療機器を安全に使用する。種類と特徴 ・血圧計 ・パルスオキシメーター ・酸素療法：人工呼吸器、ボンベ、エクモ	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回		医療機器を安全に使用する。種類と特徴 ・輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動器、 透析管理装置、ペースメーカー	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価			外部講師*		
テキスト 参考図書	別途指示			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考						

授業計画

科目名	疾病と治療Ⅱ (呼吸器・循環器・内分泌代謝系の疾病と治療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 呼吸器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 2. 循環器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 3. 内分泌代謝系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	呼吸器系疾患	呼吸器系疾患の病態生理と症状① 感染症 (肺結核, COVID など) 気道疾患 気胸	講義	外部講師* (内科医師)		
第 2 回		呼吸器系疾患の病態生理と症状② 慢性閉塞性肺疾患・呼吸不全 など	講義	外部講師* (内科医師)		
第 3 回		呼吸器系疾患の病態生理と症状③ 肺腫瘍・肺塞栓 など	講義	外部講師* (内科医師)		
第 4 回		呼吸器系疾患を診断する検査 ・呼吸機能検査・気管支鏡・喀痰検査 ・ガス分析・胸腔穿刺・エックス線	講義	外部講師* (内科医師)		
第 5 回		呼吸器系疾患の治療・処置 ・酸素療法・機械的人工換気 ・肺理学療法・手術療法	講義	外部講師* (外科医師)		
第 6 回	循環器系疾患	循環器系疾患の病態生理と症状 ・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症	講義	外部講師* (内科医師)		
第 7 回		循環器系疾患の病態生理と症状 ・心不全・血圧異常・動脈硬化症 など	講義	外部講師* (内科医師)		
第 8 回		循環器系疾患を診断する検査・治療・処置 ・心電図・心臓カテーテル法・心エコー・血液検査・ 経皮的冠動脈インターベンション・ペース メーカー埋込術・心臓リハビリテーション	講義	外部講師* (内科医師)		
第 9 回		循環器系疾患の病態生理と症状 ・大動脈瘤・閉塞性動脈硬化症・静脈血栓症等	講義	外部講師* (外科医師)		
第 10 回		循環器系疾患の治療・処置 ・バイパス術・弁置換術・弁形成術・大血管再 建術・血栓除去術	講義	外部講師* (外科医師)		
第 11 回	内分泌代謝系疾 患	内分泌系疾患の病態生理と症状 視床下部一下垂体分泌異常 甲状腺分泌異常 副甲状腺分泌異常 副腎分泌異常 など	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回		内分泌系疾患を診断する検査・治療 バセドウ病、クッシング症候群、褐色細胞腫等 のホルモン負荷試験、薬物療法、手術療法	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回		代謝系疾患の病態生理と症状 糖尿病・脂質異常症・肥満症・メタボリック シンドローム、高尿酸血症、痛風 など	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回		代謝系疾患を診断する検査・治療 ・ブドウ糖負荷試験、HbA1c、インスリン分 泌能・インスリン抵抗性評価 ・薬物治療・食事療法・運動療法・外科治療	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価			外部講師*		
テキスト 参考図書	呼吸器 成人看護学② 医学書院 循環器 成人看護学③ 医学書院 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院別巻 臨床外科看護各論 医学書院		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	疾病と治療Ⅲ (運動器・腎泌尿器・血液リンパ器の疾病と治療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 運動器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 2. 腎泌尿器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 3. 血液リンパ器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	運動器系疾患	運動器系疾患の病態生理と症状① ・骨折・脱臼・神経損傷・骨粗鬆症 など	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		運動器系疾患の病態生理と症状② ・椎間板ヘルニア・半月板損傷・骨腫瘍 など	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		運動器系疾患の病態生理と症状③ ・変形性膝関節症・変形性股関節症・慢性関節 リウマチ など	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回		運動器系疾患を診断する検査 ・X線撮影・造影検査・筋電図・知覚検査等	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回		運動器系疾患の治療 ・手術療法・リハビリテーション ・保存療法(牽引、ギプス、装具等)	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回	腎疾患	腎疾患の病態生理と症状 ・腎炎・腎不全・腫瘍・ネフローゼ など	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回		腎疾患の検査 ・尿/血液検査・腎機能検査・画像検査 など	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回		腎疾患の治療 ・透析療法・腎移植 など	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回	泌尿器疾患	泌尿器疾患の病態生理と症状 ・膀胱腫瘍・前立腺肥大・前立腺がん・尿路感 染症・尿路結石など	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回		泌尿器疾患を検査・治療 ・尿検査・経尿道的内視鏡検査・ ・感染症治療・手術療法 など	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回	血液リンパ器系 の疾患	血液リンパ器系疾患の病態生理と症状① ・貧血・白血病 ・赤血球系の異常・白血球系の異常	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回		血液リンパ器系の疾患病態生理と症状② ・悪性リンパ腫・出血性疾患・多発性骨髄腫 ・播種性血管内凝固症候群・紫斑病	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回		血液リンパ器疾患を診断する検査 ・骨髄穿刺・リンパ節生検・血液検査	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回		血液リンパ器疾患の治療・処置 ・化学療法・造血幹細胞移植・輸血療法 ・遺伝子治療	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価			外部講師*		
テキスト 参考図書	運動器 成人看護学⑩ 医学書院 腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	疾病と治療IV (脳神経・消化器の疾病と治療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 脳神経系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 2. 消化器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	脳神経系の疾患	脳神経系疾患の病態生理と症状及び検査・治療① 脳梗塞、認知症	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		脳神経系疾患の病態生理と症状及び検査・治療② 髄膜炎、脊髄小脳変性症、パーキンソン病 など	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		脳神経系疾患の病態生理と症状及び検査・治療③ ALS、筋無力症、筋ジストロフィ など	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回		脳神経系疾患の病態生理と症状及び検査・治療④ 意識障害、高次脳機能障害 など	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回		脳神経系疾患の病態生理と症状及び検査・治療⑤ 運動機能障害、感覚機能障害 反射性運動障害、感覚機能障害 など	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回		脳神経系疾患の外科的治療① ・脳出血・脳動脈瘤 ・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・髄膜刺激症状	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回		脳神経系疾患の外科的治療② ・脳腫瘍・頭部外傷・水頭症(脳室ドレナージ) など	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回	消化器系の疾患	消化器疾患の病態生理と症状① ・食道がん・胃潰瘍・胃がん など	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回		消化器疾患の病態生理と症状② ・胆石・肝炎・肝硬変・肝がん・膵炎 ・膵がん など	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回		消化器疾患の病態生理と症状③ ・大腸がん・潰瘍性大腸炎・クローン病など	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回		消化器疾患を診断する検査 ・X線検査・血液検査・内視鏡検査・生検	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回		消化器疾患の内科的治療 ・化学療法・食事療法 など	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回		消化器疾患の外科的治療① ・食道がん・胃がん・胆石症・肝がん	講義	外部講師* (外科医師)		
第 14 回		消化器疾患の外科的治療② ・大腸がん・イレウス・ヘルニア・痔核	講義	外部講師* (外科医師)		
第 15 回		評価			外部講師*	
テキスト 参考図書	脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 消化器 成人看護学⑤ 医学書院			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考						

授業計画

科目名	疾病と治療V (自己免疫・精神・小児特有の疾病と治療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 自己免疫系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 2. 精神特有の疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 3. 小児特有の疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	自己免疫系疾患	自己免疫系疾患の病態生理と症状① 膠原病 (SLE・関節リウマチ・多発性筋炎・ シェーグレン症候群・ベーチェット病 など)	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		自己免疫系疾患の病態生理と症状② アレルギー疾患 (蕁麻疹・接触性皮膚炎・気管 支喘息・花粉症 など) 免疫不全	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		自己免疫系疾患を診断する検査 自己免疫系疾患の治療・処置	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回	精神の疾患	精神症状・障害① ・知覚の障害・知能の障害・気分/感情の障害 ・意思/欲動 (行動) の障害	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回		精神症状・障害② ・意識障害・自我意識障害・記憶の障害	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回		精神疾患の診断基準: ICD-11・DSM-V 検査: 脳波・画像診断・脳脊髄液検査 など	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回		精神疾患の診断と治療① ・統合失調症・気分障害・器質性精神障害 ・精神作用物質作用による精神/行動の異常	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回		精神疾患の診断と治療② 神経症性障害・ストレス関連障害 など	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回		精神疾患の診断と治療③ 小児・青年期の精神/心身医学的疾患	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回		小児に特有の疾 患	病態生理と症状、検査、治療① ・呼吸器疾患 ・腎疾患 腎移植、腎生検	講義	外部講師* (医師)	
第 11 回	病態生理と症状、検査、治療② ・心疾患 ・血液疾患 ・脳神経疾患 ・感染症		講義	外部講師* (医師)		
第 12 回	病態生理と症状、検査、治療③ ・消化器疾患 ・骨・関節疾患		講義	外部講師* (医師)		
第 13 回	ハイリスク状況にある新生児① 先天異常の新生児 (ダウン症・18 トリソ ミー)・早産児・低出生体重児 新生児一 過性多呼吸・呼吸窮迫症候群		講義	外部講師* 新生児科医師		
第 14 回	ハイリスク状況にある新生児② 胎便吸引症候群・新生児ビタミン K 欠乏性出 血症・高ビリルビン血症・新生児仮死		講義	外部講師* 新生児科医師		
第 15 回	評価			外部講師*		
テキスト 参考図書	別途指示			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考						

授業計画

科目名	疾病と治療VI (感覚器、女性生殖器、 周産期の異常時の疾病と治療、救急医療)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 感覚器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 2. 女性生殖器系に疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 3. 周産期に特有な疾病を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。 4. 救急医療の特徴と救命方法の基礎的知識を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	感覚器系疾患	眼科疾患の病態生理と症状・検査・治療① ・白内障・緑内障・網膜剥離・結膜炎・角膜炎 ・糖尿病性網膜症・近視・遠視・乱視・斜視	講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		耳鼻科疾患の病態生理と症状・検査・治療 ・内耳炎/外耳炎/中耳炎・副鼻腔炎・扁桃炎 ・難聴・喉頭がん・咽頭がん・上顎洞がん ・メニエル病・嗅覚障害・味覚障害 など	講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		皮膚科疾患の病態生理と症状・検査・治療 ・湿疹・アトピー性皮膚炎・熱傷 など	講義	外部講師* (医師)		
第 4 回		口腔疾患の病態生理と症状、検査、治療 ・齲歯・歯周病・舌腫瘍・ヘルペス など	講義	外部講師* (医師)		
第 5 回	女性生殖器系疾患	女性生殖器系疾患の病態生理と症状、検査、治療① ・子宮筋腫 ・子宮内膜症・子宮がん など	講義	外部講師* (医師)		
第 6 回		女性生殖器系疾患の病態生理と症状、検査、治療② ・性感染症 ・不妊症 ・更年期障害 など	講義	外部講師* (医師)		
第 7 回	乳房の疾患	乳房の疾患の病態生理と症状、検査、治療 ・乳腺炎・乳腺症・乳がん	講義	外部講師* (医師)		
第 8 回	周産期医療特徴 と疾患	周産期医療システム ・周産期医療ネットワーク ハイリスク妊娠の病態生理と症状、検査、治療① ・不育症 ・流産/早産・異所性妊娠・多胎妊娠	講義	外部講師* (医師)		
第 9 回		ハイリスク妊娠の病態生理と症状、検査、治療① 感染症・血液型不適合・糖代謝異常妊娠・妊娠 高血圧症候群など	講義	外部講師* (医師)		
第 10 回		ハイリスク妊娠の病態生理と症状、検査、治療② 常位胎盤早期剥離・前置胎盤・CPD・娩出力の 異常・回旋異常による異常分娩	講義	外部講師* (医師)		
第 11 回		ハイリスク妊娠の病態生理と症状、検査、治療③ 産褥期の異常と治療・分娩時損傷・癒着胎盤・ 弛緩出血・DIC・産褥血栓症	講義	外部講師* (医師)		
第 12 回	救急医療	救急医療の特徴 救急患者の初期評価	講義	外部講師* (医師)		
第 13 回		重篤な病態と治療の実際 ショック・呼吸不全・循環不全・熱傷	講義	外部講師* (医師)		
第 14 回		心肺蘇生 気道確保・人工呼吸・心マッサージ	講義	外部講師* (医師)		
第 15 回	評価			外部講師*		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	薬理学		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 薬物が人体に及ぼす影響と生体の反応について理解する。 2. 健康障害に対する薬物療法の作用機序、人体への影響を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	薬理学総論	薬理学の概要 体内情報伝達機構	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 2 回		薬の作用機序 薬物動態 (ADME) 薬物血中濃度	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 3 回		薬理作用 薬効に影響を及ぼすもの	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 4 回	生体機能と薬物	抗感染症薬	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 5 回		抗がん薬	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 6 回		免疫・抗アレルギー薬	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 7 回		末梢神経に作用する薬 中枢神経系に作用する薬	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 8 回		心臓・血液・血管系に作用する薬	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 9 回		呼吸器・消化器に作用する薬	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 10 回		物質代謝に作用する薬	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 11 回		皮膚外用薬 漢方薬	講義	外部講師* (薬剤師)		
第 12 回		薬物治療	薬物療法の実際	講義	外部講師* (薬剤師)	
第 13 回	薬物の取り扱いと保管方法 医薬品医療機器等法 麻薬及び向精神薬取締法		講義	外部講師* (薬剤師)		
第 14 回	チーム医療と薬物治療		講義	外部講師* (薬剤師)		
第 15 回	評価			外部講師* (薬剤師)		
テキスト 参考図書	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③ 医学書院		評価 方法	筆記		
備考						

授業計画

科目名	食事療法とリハビリテーション		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 食物が人間の健康に及ぼす影響と健康生活の維持・増進・健康障害の回復における食事療法を理解する。 2. リハビリテーションの概念と実際を理解し、看護の連携について考える。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	栄養と食事療法	日常生活と栄養 小児・妊産婦・高齢者、がん患者等 栄養食事療法の実際（栄養サポートチーム等）	講義	外部講師* (栄養師)		
第 2 回		食事療法が必要な患者の栄養状態の把握	講義	外部講師* (栄養師)		
第 3 回		肝臓疾患患者の栄養食事療法	講義	外部講師* (栄養師)		
第 4 回		腎臓疾患患者の栄養食事療法	講義	外部講師* (栄養師)		
第 5 回		糖尿病疾患患者の栄養食事療法	講義	外部講師* (栄養師)		
第 6 回		循環器疾患患者の栄養食事療法①	講義	外部講師* (栄養師)		
第 7 回		循環器疾患患者の栄養食事療法②	講義	外部講師* (栄養師)		
第 8 回	リハビリテーションの概念と実際	リハビリテーションの種類と目的 理学療法・作業療法・言語療法 など リハビリテーションの対象 チーム医療におけるリハビリテーション	講義	外部講師* (理学療法士)		
第 9 回		生活機能障害のアセスメント 日常生活動作・活動（ADL） 運動系の評価（ROM、MMT） 高次脳機能評価・セルフケアの評価 など	講義	外部講師* (理学療法士)		
第 10 回		リハビリテーションの実際① 運動系・感覚器系の障害 運動麻痺と機能訓練 など	講義	外部講師* (理学療法士)		
第 11 回		リハビリテーションの実際② 中枢神経系の障害 嚥下障害リハビリテーション など	講義	外部講師* (理学療法士)		
第 12 回		リハビリテーションの実際③ 呼吸器系・循環器系の障害 呼吸リハビリテーション	講義	外部講師* (理学療法士)		
第 13 回		リハビリテーションの実際④ 運動系の評価（ROM、MMT） 関節拘縮訓練・筋力強化 移動動作介助（松葉杖、歩行器 など）	校内 実習	外部講師* (理学療法士)		
第 14 回		リハビリテーションの実際⑤ ADL自立への訓練・呼吸理学療法 など	校内 実習	外部講師* (理学療法士)		
第 15 回		評価			外部講師*	
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	これからの医療			単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	これまでの医療の流れ、医療の現状及び医療行政を理解し、最前線の医療に目を向ける。						
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	医療の動向	医療の歴史 医療の現状と動向		講義	外部講師* (医師)		
第 2 回		医療制度改革と医療計画		講義	外部講師* (医師)		
第 3 回		東京の医療行政		講義	外部講師* (医師/ 行政担当者)		
第 4 回		看護行政と看護制度		講義	外部講師* (看護管理者)		
第 5 回	医療の発展	科学技術の進歩と現代医療の最前線① A I 及び I C T を活用した医療と看護、 移植医療、遺伝子医療、再生医療 など		講義 演習	外部講師		
第 6 回		科学技術の進歩と現代医療の最前線②		演習	外部講師		
第 7 回		科学技術の進歩と現代医療の最前線③		演習 まとめ	外部講師		
第 8 回	評価				外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示			評価 方法	筆記・ レポート等		
備考							

授業計画

科目名	公衆衛生		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	国民の健康に関する状況と生活環境を学び、人々が健康を享受するために望ましい制度や組織活動を理解するとともに医療専門職の役割を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	公衆衛生と健康	公衆衛生の概念 公衆衛生の歴史 公衆衛生看護活動に必要な理論 プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、保健行動、ポピュレーションアプローチ	講義	外部講師*		
第 2 回		社会環境の変化と健康への影響と対策 地球環境、住環境、食環境、感染症	講義	外部講師*		
第 3 回	保健対策の動向 と活動	公衆衛生の活動と仕組み 対象、公衆衛生の仕組み、集団の健康をとらえるための手法—疫学・保健統計・健康指標 地域保健・医療制度	講義	外部講師*		
第 4 回		様々な場での公衆衛生（地域）看護活動 行政保健、産業保健活動、学校保健、 病院・在宅等	講義	外部講師*		
第 5 回		地域における公衆衛生の実践 地域診断、家庭訪問、健康相談、健康教育 グループ支援、組織化	講義	外部講師*		
第 6 回		地域における公衆衛生の実践 母子保健活動、成人保健活動	講義	外部講師*		
第 7 回		地域における公衆衛生の実践 高齢者保健活動、難病、障害者保健活動	講義	外部講師*		
第 8 回	評価			外部講師*		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	社会保障と社会福祉		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	社会保障と社会福祉の考え方の基本と諸制度を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	社会保障・社会福祉の理念と概要	社会保障の目的と機能	講義	外部講師		
第 2 回		社会福祉の定義と構造 社会福祉の理念と変遷	講義	外部講師		
第 3 回	生活と社会保険制度	社会保険の理念と変遷	講義	外部講師		
第 4 回		医療保険制度 診療報酬制度	講義	外部講師		
第 5 回		介護保険制度 介護報酬制度	講義	外部講師		
第 6 回		公的扶助 年金保険制度	講義	外部講師		
第 7 回	生活と社会福祉活動	社会福祉の援助対象とニーズ 高齢者福祉	講義	外部講師		
第 8 回		障害者福祉 児童家庭福祉	講義	外部講師		
第 9 回		社会福祉六法① 生活保護法 児童福祉法 身体障害者福祉法	講義	外部講師		
第 10 回		社会福祉六法② 知的障害者福祉法 老人福祉法 母子及び父子並びに寡婦福祉法	講義	外部講師		
第 11 回		社会福祉行政	講義	外部講師		
第 12 回	保健医療福祉の連携	保健医療福祉の連携とマネジメント 地域包括ケアシステム 地域におけるヘルスプロモーション	講義	外部講師		
第 13 回		医療・看護・福祉の連携の実際①	講義 演習	外部講師		
第 14 回		医療・看護・福祉の連携の実際②	講義 演習	外部講師		
第 15 回	評価			外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	医療と倫理		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	人間の基本的人権を理解し、医療現場における倫理について現状と課題を考える。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	人権の理解	基本的人権の尊重 合理的配慮 生活基盤 生活単位、家庭生活の基本的機能、労働と健康	講義	外部講師		
第 2 回		ノーマライゼーション 自己決定権と患者の意思	講義	外部講師		
第 3 回	医療事故と法的責任	医療事故と法的責任 医療事故と医療過誤 民事上の責任 刑事上の責任 行政上の責任	講義	外部講師		
第 4 回		看護の業務と法的責任 看護と医療過誤（事例） チーム医療と看護職の責任	講義 演習	外部講師		
第 5 回	医療における倫理的課題	生命倫理	講義	外部講師* 医師		
第 6 回		現代医療における様々な倫理的問題 ①	講義 演習	外部講師* 医師		
第 7 回		現代医療における様々な倫理的問題 ②	講義 演習	外部講師* 医師		
第 8 回	評価			外部講師 外部講師* 医師		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	医療と法律		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	1. 健康支援や医療の提供に必要な法律を理解する。 2. 人間の生活を支えるための法律を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	法の知識と法令	法の概念 厚生行政の仕組み	講義	外部講師		
第 2 回	看護活動と医療 関連法規	保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	外部講師		
第 3 回		医療の提供に関連する法律 医師法 医療法	講義	外部講師		
第 4 回		疾病予防・健康増進に関連する法律 地域保健法 健康増進法 予防接種法	講義	外部講師		
第 5 回		医療保険に関連する法律 健康保健法 国民健康保険法 各共済法 介護保険	講義	外部講師		
第 6 回		生活を支える法 律	ライフサイクルに関連する法律 生活保護法 児童福祉法 精神保健福祉法 老人福祉法	講義	外部講師	
第 7 回	労働に関連する法律 労働基準法 労働安全衛生法 育児介護休業法 男女雇用機会均等法		講義	外部講師		
第 8 回	評価			外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	医療と経済		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	経済が社会に与える影響を理解し、医療サービスを経済的側面から捉える。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	生活と経済	経済が社会に与える影響	講義	外部講師		
第 2 回	診療と経済	医療経済の特殊性	講義	外部講師		
第 3 回		医療保険制度の概要	講義	外部講師		
第 4 回		診療報酬制度	講義	外部講師		
第 5 回	経済と健康	経済発展と国民の健康水準	講義	外部講師		
第 6 回	医療施設の経済	日本の医療制度と病院経営	講義	外部講師		
第 7 回		医療施設と経済	講義	外部講師		
第 8 回	評価			外部講師		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

基礎看護学

基礎看護学

【科目の構成とねらい】

看護は人間を理解することで必要な支援が明らかになる。そのためには、人間・健康・生活・看護・医療の基礎を学び、発展させることで、専門職としての資質を身につけることができる。基礎看護学は、他の専門分野の基礎となる基礎的理論や基礎的看護技術を学ぶ位置付けとする。基礎看護学で学ばせる内容は他の専門分野の基盤となる内容を強調して教授し、看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う内容とする。

基礎看護学の科目は、看護学概論・看護理論・ヘルスアセスメント論・生活援助論Ⅰ～Ⅲ・人間関係成立の技術・看護倫理・診療の補助技術・クオリティ看護論Ⅰ～Ⅲの計 12 単位とした。また、臨床判断能力や倫理的判断・行動に必要な基礎的能力を養うため、演習を強化した組み立てとし、シミュレーションや ICT を活用した学習方法を取り入れる。

「看護学概論」

看護全般の概念を捉え、看護の位置付けと役割の重要性を認識できる内容とする。単元を『看護の概念』『看護の対象』『健康の概念』『看護の役割・機能』で構成し、看護一般の概念や看護の本質について学ぶ内容とした。

「看護理論」

看護学概論で学んだナイチンゲールの看護の考え方を受け、代表的な理論家の諸理論を学び、人間の理解を深めるとともに看護を考える力を養う内容とした。

「ヘルスアセスメント論」

患者の身体状況を把握（フィジカルアセスメント）するために、基本的医学知識と技術を身につけ、健康状態の評価とマネジメントできる能力を育成する。

「生活援助論Ⅰ 活動休息・生活環境」

「生活援助論Ⅱ 食事・排泄」

「生活援助論Ⅲ 清潔・衣生活・安楽」

対象の安全で安楽な環境を整え、日常生活を支える基本となる看護技術を学び、確実に習得することで実践力の向上を目指す。内容は、形態機能学を踏まえて精選し、「活動休息・生活環境」「食事・排泄」「清潔・衣生活・安楽」で組み立てた。看護の対象を生活者として捉え、その日常生活に合わせた援助をするために必要な看護技術の基本を学ぶ。

「人間関係成立の技術」

対象となる患者・家族をはじめ、地域・医療チーム内のメンバーとの関係構築に向けた実践的なスキルを目指す。コミュニケーション能力の強化を図るため 1 単位とし、演習時間を充実させた。

「看護倫理」

倫理的判断・行動の強化のため、1 単位に独立させた。演習では、看護実践における倫理的意思決定についての思考・判断能力を養う。

「診療の補助技術」

診療の補助技術を安全かつ正確に実施しできる内容とし、「薬物療法」「輸血療法」並びに診療の場面における「検査」を組み入れた。また、診療の補助技術を実施する際の倫理的態度も養って

いく。

「クオリティ看護論Ⅰ（看護過程）」

看護を科学的にかつ、具体的に実践するための方法論として、看護のプロセスを踏み、その思考を学べるようにした。

「クオリティ看護論Ⅱ（臨床判断・救急法）」

臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護を学ぶ内容とした。提示される事例をもとに、演習を中心とした学習形式を取り入れる。

対象の背景から、対象に表れる症状・状態に気づき、解釈し、複数の援助技術（既習）を組み合わせ、健康問題の解決を図るための技術を選択し、判断をしながら実施する内容とした。そして、各看護学への学習が効果的につながるようにシミュレーションを活用して学んでいく。

「クオリティ看護論Ⅲ（看護研究）」

先人の看護理論に学び、看護に対する考え方を深められるよう、看護研究の基礎について学び、研究的態度を醸成する。

【目的】

看護の対象である人間の生を受けてから生を終えるまでのライフサイクルと、健康の意義及び保健・医療・福祉における看護の機能と役割を理解し、看護の実践力となる基礎知識・技術・態度を習得する。

【目標】

1. 看護全般の概念を学び、看護の本質と位置付けと役割を理解する。
2. 看護を実践する上での基礎となる知識と技術を習得する。
3. 対象の健康障害を理解し、生活の状態に応じた看護の基本を理解する。
4. 看護実践を科学的に展開する能力を養い、研究的態度を身につける。
5. 対象の安全・安楽な看護を提供するための判断力と実践力の基礎を身につける。

【構成および計画】

<講義>

授業科目	単位数	学年別計画時期		
		1年	2年	3年
看護学概論	1	○		
看護理論	1		○	
ヘルスアセスメント論	1	○		
生活援助論Ⅰ	1	○		
生活援助論Ⅱ	1	○		
生活援助論Ⅲ	1	○		
人間関係成立の技術	1	○		
看護倫理	1			○
診療の補助技術	1		○	
クオリティ看護論Ⅰ	1	○		
クオリティ看護論Ⅱ	1	○		
クオリティ看護論Ⅲ	1			○
計	12	8	2	2

授業計画

科目名	看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 看護の概念、看護の対象、看護の役割及び機能を学び、看護の本質を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護の概念	理想の看護師	演習	専任教員*		
第 2 回		看護の定義 保健師助産師看護師法 看護職能団体 (ICN・日本看護協会) 看護理論家	講義	専任教員*		
第 3 回		ナイチンゲールの看護論 ①	演習	専任教員*		
第 4 回		ナイチンゲールの看護論 ②	演習	専任教員*		
第 5 回		ナイチンゲールの看護論 ③	発表会	専任教員*		
第 6 回	看護の変遷	看護の変遷 古代・中世・近代	講義	専任教員*		
第 7 回	看護の対象	統合体としての人間 成長発達する人間	講義	専任教員*		
第 8 回		看護の対象としての人間 人間とは、家族・集団・地域 生活者としての人間 生活の概念図	講義	専任教員*		
第 9 回	健康の概念	健康の捉え方 基本的権利としての健康 健康の実現・ヘルスプロモーション 国民の健康状態とライフサイクル	講義	専任教員*		
第 10 回	看護の 役割・機能	看護活動の場と継続看護 チーム医療と多職種連携	講義	専任教員*		
第 11 回		看護の役割・機能の拡大 看護をめぐる制度と政策 専門職としての看護	講義	専任教員*		
第 12 回	看護倫理	看護の倫理 患者の権利とインフォームドコンセント 倫理原則・職業倫理	講義	専任教員*		
第 13 回		医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 事例検討	講義 演習	専任教員*		
第 14 回	看護の概念	看護とは	演習	専任教員*		
第 15 回	評価	筆記試験		専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野 I 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院 看護覚え書き フロレンス・ナイチンゲール 日本看護協会 出版会 看護の基本となるもの 日本看護協会 出版会 看護職の基本的責務 日本看護協会 出版会		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	看護理論		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 看護の理論を理解し、看護に対する考えを深めることができる。 2. 看護実践における看護理論の活用について考えることができる。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護理論の意義	看護理論とは 看護理論の構成要素 看護理論の分類と歴史の変遷	講義	専任教員*		
第 2 回	看護理論の理解	中範囲理論と看護実践 主な広範囲看護理論 ヒルデガード・E・ペプロウ ヴァージニアA.ヘンダーソン	講義	専任教員*		
第 3 回		ドロセアE.オレム ジョイス・トラベルビー シスター・カリスト・ロイ ジーン・ワトソン パトリシア・ベナー	講義	専任教員*		
第 4 回	看護理論と看護 実践	主な看護理論の概要と実践をつなぐ ①	演習	専任教員*		
第 5 回		主な看護理論の概要と実践をつなぐ ②	演習	専任教員*		
第 6 回		主な看護理論の概要と実践をつなぐ ③	演習	専任教員*		
第 7 回	看護実践におけ る看護理論の活 用	看護理論と実践をつなぐ 看護理論を活用したケーススタディ	講義	専任教員*		
第 8 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研 他は、別途指示		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	ヘルスアセスメント論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 看護の対象である人の健康状態を評価する方法を理解し、基本技術を習得する。 ※恒常性維持、筋骨格、意識状態、心理社会的、症状モニタリングやマネジメント含む。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護におけるヘルスアセスメント	看護における意義 情報の種類と必要な情報を得る手段 問診、インタビュー フィジカルイグザミネーション 身体測定 ADL の評価	講義	専任教員*		
第 2 回	フィジカルイグザミネーションを活用した身体状態の把握	系統別フィジカルアセスメント ① 腹部・消化器系	講義	専任教員*		
第 3 回		系統別フィジカルアセスメント ② 脳・神経系、感覚器、筋・骨格系	講義	専任教員*		
第 4 回		フィジカルイグザミネーションの実際 腹部・消化器系、脳・神経系	校内 実習	専任教員*		
第 5 回		系統別フィジカルアセスメント ③ 胸部・呼吸器系	講義	専任教員*		
第 6 回		系統別フィジカルアセスメント ④ 心臓・循環器系、血管系	講義	専任教員*		
第 7 回 第 8 回		フィジカルイグザミネーションの実際 呼吸器系・循環器系・血管系	校内 実習	専任教員*		
第 9 回		バイタルサイン	バイタルサインの観察とアセスメント ①	講義	専任教員	
第 10 回		バイタルサインの観察とアセスメント ②	講義	専任教員*		
第 11 回		バイタルサインの観察とアセスメント ③	講義	専任教員*		
第 12 回		バイタルサインの観察とアセスメント ④ フローシートの記載と報告	講義	専任教員*		
第 13 回 第 14 回		バイタルサイン測定と記録・報告の実際	校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる③ メディックメディア		評価 方法	筆記		
備考	看護の基礎実習Ⅱの前にバイタルサインの技術チェックを実施し、技術到達度を評価する。					

授業計画

科目名	生活援助論 I (活動休息・生活環境)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 日常生活における活動・休息の意義を理解し、援助技術を習得する。 2. 生活環境を整える意義を理解し、援助技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	日常生活を援助 する意義	人間の日常生活行動 日常生活援助技術の概念 看護援助の基本的機能と日常生活援助	講義	専任教員*		
第 2 回	活動・休息の援助	活動・運動の意義 基本的活動の基礎知識 姿勢、ADL・IADL、体位、ポディメカクス	講義	専任教員*		
第 3 回		運動機能の低下した人の援助 活動・運動に影響を及ぼす要因 身体の動かし方・触れ方 基本肢位・良肢位、体位変換	講義 演習	専任教員*		
第 4 回		体位変換、ポジショニング (ポディメカクスを活用した安楽な体位の工夫)	校内 実習	専任教員*		
第 5 回		歩行の援助 座位保持、起立動作の援助 車いす・ストレッチャーでの移動の援助 休息・睡眠の援助	講義	専任教員*		
第 6 回 第 7 回		車椅子・ストレッチャーへの移乗・移送	校内 実習	専任教員*		
第 8 回	安全・安楽な生 活環境の調整	環境の概念 療養環境調整における看護師の役割	講義	専任教員*		
第 9 回		患者を取り巻く療養環境 環境空間のアセスメント	講義	専任教員*		
第 10 回		毎日の療養生活の環境整備と援助に必要な 物品の取り扱い	演習	専任教員*		
第 11 回		ベッドメイキング	校内 実習	専任教員*		
第 12 回		療養環境を整える技術 臥床患者のシーツ交換	講義	専任教員*		
第 13 回		臥床患者のシーツ交換	校内 実習	専任教員*		
第 14 回		日常生活を整える環境整備 事例に合わせた環境整備	演習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院 専門分野 I 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 II 医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア		評価 方法	筆記等		
備考						

授業計画

科目名	生活援助論Ⅱ（食事・排泄）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 日常生活における食事・排泄の意義を理解し、援助技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	食事・栄養の援助	食事・栄養の意義 健康な食生活と食事摂取基準 食事・栄養における看護師の役割	講義	専任教員*		
第 2 回		食事・栄養状態のアセスメント 栄養状態の評価・食欲、摂食能力 食行動・口腔内の状態 水分・電解質バランス・食事を妨げる要因	講義	専任教員*		
第 3 回		自尊心・価値観を尊重した食事の援助方法 食べることを継続するための援助 栄養サポートチーム（NST）の役割	講義	専任教員*		
第 4 回 第 5 回		食事摂取が自力困難な人への援助 座位・ファウラー位での介助、口腔ケア 食事援助を受ける患者の心理	校内 実習	専任教員*		
第 6 回	排泄の援助	排泄の意義 排泄と健康との関係 排泄における看護師の役割	講義	専任教員*		
第 7 回		排泄のアセスメント 排泄に影響を及ぼす要因 排泄機能、排泄行動、排泄物の観察	講義	専任教員*		
第 8 回		自然な排泄の援助方法 排泄行動の選択と援助の決定 感染予防対策	講義	専任教員*		
第 9 回 第 10 回		便器・尿器を用いた排泄援助 尿意を訴えた際の排泄援助 便意を訴えた際の排泄援助と陰部洗浄	校内 実習	専任教員*		
第 11 回		自然排便が困難な人の援助	講義	専任教員*		
第 12 回		自然排便が困難な人の援助の実際 浣腸、摘便、腹部マッサージ	校内 実習	専任教員*		
第 13 回		自然排尿が困難な人の援助	講義	専任教員*		
第 14 回		自然排尿が困難な人の援助の実際 一時的導尿	校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア		評価 方法	筆記等		
備考						

授業計画

科目名	生活援助論Ⅲ（清潔・衣生活・安楽）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次	
科目 目標	1. 日常生活における清潔・衣生活の意義を理解し、援助技術を習得する。 2. 看護における安楽の意義と方法を理解する。						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>			
第 1 回	清潔・衣生活の 援助	清潔・衣生活の意義と目的 清潔状態のアセスメント	講義	専任教員*			
第 2 回		衣生活のアセスメント 衣生活の条件と適切な病衣の選択 衣生活の援助技術	講義	専任教員*			
第 3 回		衣生活の援助の実際 寝衣交換	校内 実習	専任教員*			
第 4 回		清潔の援助技術 清潔援助の基本	講義	専任教員*			
第 5 回		清拭の基本 安全で安楽な湯温の提供と清拭方法	演習	専任教員*			
第 6 回		清潔援助の実際 足浴	校内 実習	専任教員*			
第 7 回		入浴できない場合の清潔援助 ①	講義	専任教員*			
第 8 回 第 9 回		清潔援助の実際 全身清拭	校内 実習	専任教員*			
第 10 回		入浴できない場合の清潔援助 ②	講義	専任教員*			
第 11 回 第 12 回		清潔援助の実際 洗髪	校内 実習	専任教員*			
第 13 回		安楽を提供する 技術	安楽の意義 安楽を阻害する原因のアセスメント 安楽を提供する援助方法 髷法、マッサージ等	講義	専任教員*		
第 14 回			その人の日常生活に合わせた安楽の援助	演習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*			
テキスト 参考図書	専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア		評価 方法	筆記等			
備考	安楽を提供する技術では、事例を通して対象に合わせた効果的な援助法を検討する。						

授業計画

科目名	人間関係成立の技術		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 看護における人との関係構築に向けたコミュニケーションの基礎的な知識と技術を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護・医療におけるコミュニケーション	看護・医療におけるコミュニケーション コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程	講義	専任教員*		
第 2 回		関係構築のためのコミュニケーションの基本 接近的コミュニケーションの原理と前提となる態度 接近的行動と非接近的行動 対人関係の成立に不可欠な要件 ・自分を理解する・他者を理解する	講義	専任教員*		
第 3 回		対人関係の成立に不可欠な要件 プロセスレコードを活用した自己洞察	演習	専任教員*		
第 4 回		効果的なコミュニケーションの基本技術 傾聴の技術、情報収集の技術 説明の技術、アサーティブネス	講義	専任教員*		
第 5 回		効果的なコミュニケーションの実際 対人空間を考慮した関係構築にむけた技術 患者との良い人間関係を形成するためのコミュニケーション（傾聴、共感、受容）	校内 実習	専任教員*		
第 6 回				専任教員*		
第 7 回		看護技術における倫理 看護の倫理 看護技術の実施における倫理的態度	講義	専任教員*		
第 8 回		臨地実習における看護学生の心構え 学習の場である臨地 実習説明書を用いて“患者へ説明する”ということ 患者・家族とのコミュニケーション	講義	専任教員*		
第 9 回		説明の技術の実際 実習説明書を用いた説明 援助実施前の説明と同意を得る	校内 実習	専任教員*		
第 10 回				専任教員*		
第 11 回		コミュニケーション障害がある人への対応	講義	専任教員*		
第 12 回		疾患に伴ったコミュニケーション障害がある人への対応	演習	専任教員*		
第 13 回	チーム医療におけるコミュニケーション	チーム医療におけるコミュニケーション チーム医療とは チームの一員としてのコミュニケーション 看護におけるカンファレンス 実習における看護学生のカンファレンス	講義	専任教員*		
第 14 回		医療スタッフとのコミュニケーションの実際 報告・交渉・調整	演習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア よくわかる看護職の倫理綱領第 3 版 照林社		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	看護倫理（看護師としての倫理）		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	看護倫理について理解し看護師としての責任を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護倫理概論	倫理を学ぶ意義 道徳・法律 生命倫理 医療倫理 ケアの倫理 看護における倫理 専門職と倫理（歴史の変遷） 看護師の倫理綱領（ICN、日本看護協会） 看護研究における倫理	講義	専任教員*		
第 2 回	看護倫理と 倫理的概念	看護倫理の四原則 臨床倫理のアプローチ（患者の権利） 自己決定、告知 患者の権利擁護 個人情報保護 看護実践上の倫理的概念 アドボカシー、責務、協力、ケアリング	講義	専任教員*		
第 3 回		意思決定を支援する技術 ケアリング ナラティブアプローチ 受容、傾聴、共感 エンパワーメント	講義	専任教員*		
第 4 回	看護職が直面す る倫理的問題と 考え方	医療における倫理的問題 倫理的葛藤 患者自身の治療選択を支える看護	講義	専任教員*		
第 5 回		医療における倫理的問題 倫理的問題へのアプローチ 倫理的問題を解決するプロセス	講義	専任教員*		
第 6 回	看護実践におけ る倫理的意思決 定の実際	グループワークとディスカッションによる 事例検討 ①	演習	専任教員*		
第 7 回		グループワークとディスカッションによる 事例検討 ②	演習	専任教員*		
第 8 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野 I 基礎看護学〔1〕看護学概論 医学書院 他、別途指示		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	診療の補助技術		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 薬物療法の意義と安全、確実に与薬する必要性を理解し、基礎的な知識・技術を習得する。 2. 輸血における看護師の役割を理解する。 3. 診察・検査における看護師の役割を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	薬物療法と看護	診療 診療の補助技術における看護師の役割 与薬の基礎知識 法律に基づいた与薬の種類と取り扱い方法 与薬時の看護師の役割	講義	専任教員*		
第 2 回		薬物動態と薬効、副作用（有害事象） 薬物血中濃度 与薬における安全対策	講義	専任教員*		
第 3 回		与薬方法の実際 内用薬・外用薬	講義	専任教員*		
第 4 回		経口与薬・直腸内与薬の準備と実施	校内 実習	専任教員*		
第 5 回		注射法 適用・種類・方法	講義	専任教員*		
第 6 回		注射の準備と実施① 実施上の責任（注射指示書の見方読み方） 注射筒と注射針 薬液の吸い上げ	演習	専任教員*		
第 7 回 第 8 回		注射の準備と実施② 筋肉内注射・皮下注射	校内 実習	専任教員*		
第 9 回		点滴静脈内注射 輸液管理と刺入部位の観察	講義	専任教員*		
第 10 回		中心静脈カテーテル 安全で確実な与薬	講義	専任教員*		
第 11 回		点滴静脈内注射の準備と実施	校内 実習	専任教員*		
第 12 回		輸血療法と看護	輸血の種類と取り扱い方法 輸血の副作用の観察	講義	専任教員*	
第 13 回	診察・検査に 伴う看護	診察と看護 診察介助の目的・方法 診察を受ける患者の心理 診察における看護師の役割 検査と看護 主な臨床検査の流れ 検査を受ける患者の心理 検査における看護師の役割	講義	専任教員*		
第 14 回		主な臨床検査の目的・方法 検査結果のアセスメント	講義	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 統合分野 看護の統合と実践〔2〕医療安全 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院		評価 方法	筆記等		
備考						

授業計画

科目名	クオリティ看護論 I (看護過程)		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 看護過程の基礎知識を理解する。 2. その人らしい生活を支える看護を科学的思考に基づいて展開する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護過程の 意義と必要性	看護過程とは 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 背景となる理論 問題解決過程 クリティカルシンキング 倫理的配慮と価値判断 リフレクション	講義	専任教員*		
第 2 回	看護問題と 看護診断	看護診断とは NANDA - I 看護診断の構造と種類 看護診断と RC;共同問題	講義	専任教員*		
第 3 回	アセスメント	アセスメントの考え方 ① 情報収集、情報の整理	講義	専任教員*		
第 4 回		アセスメントの考え方 ② 情報の分析・解釈	講義	専任教員*		
第 5 回		アセスメントの考え方 ③ 全体像・関連図	講義	専任教員*		
第 6 回	看護問題の明確 化	看護問題の明確化 (看護診断) 原因・誘因・症状・徴候 自己管理能力や対象のつよみ 看護問題の優先順位	講義	専任教員*		
第 7 回	計画立案	看護計画の立案 期待される成果の設定 看護介入の立案	講義	専任教員*		
第 8 回	実施	看護の実践の意義 優先順位と判断 報告、経過記録 (POS、SOAP)	講義	専任教員*		
第 9 回	評価	看護計画の評価	講義	専任教員*		
第 10 回	事例展開	情報整理	演習	専任教員*		
第 11 回		アセスメント	演習	専任教員*		
第 12 回		問題の明確化	演習	専任教員*		
第 13 回		計画立案	演習	専任教員*		
第 14 回		実施・評価	講義 演習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 医学書院 NANDA-I 看護診断－定義と分類 2024-2026 原著第 13 版 根拠がわかる症状別看護過程 南江堂 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 学研		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	クオリティ看護論Ⅱ（臨床判断・救急法）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 看護の実践における的確な判断と適切な看護技術の根拠の必要性を理解する。 2. 適切な看護を提供するための臨床判断の基礎的能力を身につける。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	臨床判断に基づ く看護	経過別・症状別看護 臨床判断と臨床看護技術 シミュレーション教育	講義	専任教員*		
第 2 回	症状・状態に応 じた看護	事例展開 <症状・状態変化を捉える>	演習	専任教員*		
第 3 回		事例展開 <症状・状態変化を捉える>	演習	専任教員*		
第 4 回		事例展開 <症状・状態変化を捉える>	演習	専任教員*		
第 5 回		事例展開 <症状緩和に関する基本技術> 酸素吸入、ネブライザー	校内 実習	専任教員*		
第 6 回		事例展開 <症状・状態変化を捉える>	演習	専任教員*		
第 7 回		事例展開 <症状・状態変化を捉える>	演習	専任教員*		
第 8 回 第 9 回		事例展開 <症状・状態に応じた看護の実際>	校内 実習	専任教員*		
第 10 回		救急の状況と看 護	救急の状況とは 救急法と看護 包帯法	講義	専任教員*	
第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回	救急法	救急法の実際 ① 一次救命処置 心肺蘇生法	演習	消防士*		
救急法の実際 ② 一次救命処置 AED の使用方法						
救急法の実際 ③ 止血法						
救急法の実際 ④ 外傷時の応急処置						
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア 根拠がわかる症状別看護過程 南江堂		評価 方法	筆記等		
備考	事例展開では、発熱、呼吸困難、倦怠感等の症状を呈する事例を展開する。 救急法では、上級救命講習を受講する。					

授業計画

科目名	クオリティ看護論Ⅲ（看護研究）		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	3 年次	
科目 目標	看護研究の意義と方法を理解し、実践した看護を振り返る。						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>			
第 1 回	看護研究の基礎	研究の意義 研究倫理 看護研究の方法、研究プロセス	講義	専任教員*			
第 2 回		研究における文献検索 文献検索の目的・方法	講義	専任教員*			
第 3 回		研究論文の読み方 研究論文のクリティーク	講義	専任教員*			
第 4 回	ケーススタディ の基礎	論文のまとめ方 論文の読み方・論文の書き方 論文作成上の留意点	講義	専任教員*			
第 5 回		研究発表 抄録の書き方 発表の方法	講義	専任教員*			
第 6 回	ケーススタディ の実際	論文（ケーススタディ）の作成 ① 文献検索	演習	専任教員*			
第 7 回		論文（ケーススタディ）の作成 ② テーマの焦点化	演習	専任教員*			
第 8 回		論文（ケーススタディ）の作成 ③	演習	専任教員*			
第 9 回		論文（ケーススタディ）の作成 ④	演習	専任教員*			
第 10 回		論文（ケーススタディ）の作成 ⑤	演習	専任教員*			
第 11 回		論文（ケーススタディ）の作成 ⑥	演習	専任教員*			
第 12 回		ケーススタディの発表 ①	演習	専任教員*			
第 13 回		ケーススタディの発表 ②	演習	専任教員*			
第 14 回		研究発表の実際	学術集会への参加	学会 参加	専任教員*		
第 15 回		評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記・ 評価表等			
備考	学術集会に参加できない場合は、他の方法で学習する。						

地域・在宅看護論

地域・在宅看護論

【科目構成とねらい】

地域・在宅看護論は、地域包括ケアシステムの構築・推進を念頭に置き、地域で生活する人々と家族を理解し、地域における様々な場での暮らしを支える看護の基礎を学ぶ科目である。

地域で暮らしている人は、一時病気で入院・治療が必要になったとしても、治療を終えれば住み慣れた地域に戻っていく。したがって、病院と地域での看護を分断せず、対象となる人や家族が暮らす拠点としての「地域」をまず理解し、様々な場で様々な健康状態にある人々のその人らしい暮らしを支える看護を学べるよう、科目を構成した。

地域包括ケアシステムにおいては、看護師が働く場も多様である。したがって地域で暮らす人々の多様な生活事象から、「感じ取る力」を使って人としての存在意義や生活の奥深さを理解することから始める。そして「考え構成する力」を使って、対象の意思決定支援や生活の再構築や質向上にむけた援助技術について学習する。また、コミュニケーション論や家族論で学んだ知識・技術・態度を統合し、「表現する力」を使って対象や家族の気持ちに寄り添い、家族を一単位として捉えたエンパワメントアプローチの基礎を身につける内容とした。

「地域・在宅で暮らす人々の理解」

看護の対象が暮らす地域の特性を知り、地域で暮らす人々を理解する。地域で暮らす人々がどのような暮らしを望んでいるか、地域でどのような自助・互助・共助・公助が行われているかを知る。地域包括ケアシステムの概要を理解し、看護の対象が暮らす地域でどのようにシステムが活用されているか、すべきかを考える。

「地域・在宅看護概論」

地域・在宅看護の概念や特徴、変遷と今日の課題を学ぶ。多様な場での看護、それを支える社会資源についても学び、対象者の生活を支えるための継続看護、訪問看護における看護師の役割や連携について学ぶ。さらに、看護の対象者の生活を支える家族を理解し、パートナーシップを基盤とした支援について学ぶ。

「地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護」

療養者やその家族が置かれている状況の多様性を理解し、今後の病状変化の予測を踏まえて在宅療養者や家族の意思決定を促し、生活の質を維持・向上させていくために必要な看護を学ぶ。臨地実習の場で多く出会うであろう疾病・病態の特徴を取り上げ、アセスメントの視点、セルフマネジメント支援にむけた援助を学ぶ。セルフマネジメント、エンパワメントなど既習の理論や、社会資源の知識を活用しながら学習する。

「在宅看護技術」

地域で暮らす人や在宅で療養している人の健康段階・発達段階に応じた観察力、的確な判断力を身につける。在宅看護に必要な日常生活援助・医療的ケアの技術を学び、暮らしの場における物品の工夫や方法を考える。

校内実習では、訪問マナー、清潔ケア、移動（リフト）介助、栄養ケア、呼吸ケアを学ぶ。また、講義時から意図的にグループワークやロールプレイを取り入れ、主体的に考える力、人に説明する力、多

様な価値観を受け入れつつ合意形成する力を養う。

「ケアマネジメント」

在宅療養者とその家族が、地域包括ケアシステムの中でどのような社会資源を活用し、多職種と連携しながら生活しているか事例をもとに主体的に考え、地域包括ケアシステムの実際を学ぶ。

「在宅看護の展開」

療養者と家族の事例展開を通し、生活者中心の価値観・人生観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用に着目し看護を展開できる基礎的能力を養う。家族を一単位として捉え、強みの強化、弱みに対する援助計画の立案、エンパワメントアプローチを用いた指導案を作成する。また、援助場面のロールプレイとデブリーフィングにより、自己決定を促す関わりについて省察する。

【目的】

地域包括ケアシステムの構築・推進を念頭に、地域で生活する人々と家族を理解し、地域における様々な場で対象と家族の暮らしを支える看護の基礎を学ぶ。

【目標】

1. 看護の対象が暮らす地域の特性を知り、人々の生活の多様性を理解する。
2. 地域包括ケアシステムの概要、地域での活用の実際を理解する。
3. 地域・在宅看護の概念や特徴、変遷と今日の課題を理解する。
4. 継続看護、訪問看護における看護師の役割や社会資源を理解する。
5. パートナーシップを基盤とした家族支援について理解する。
6. 療養者や家族との信頼関係構築や、自己決定を促すためのコミュニケーションを習得する。
7. 在宅看護に必要な日常生活援助・医療的ケア・生活の質向上のための援助技術を理解する。
8. 療養者と家族の事例展開を通し、生活者中心のエンパワメントアプローチ、家族介護力、社会資源の活用に着目した看護を理解する。

【構成および計画】

<講義>

科目	単位数	時期		
		1年	2年	3年
地域・在宅で暮らす人々の理解	1	○		
地域・在宅看護概論	1	○		
地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護	1		○	
在宅看護技術	1		○	
ケアマネジメント	1		○	
在宅看護の展開	1		○	
計	6	2	4	0

授業計画

科目名	地域・在宅で暮らす人々の理解		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 多様な場で暮らす人、療養する人を理解する。 2. その人らしい生活を送るための地域組織活動を理解する。 3. 地域での健康生活を支える多職種連携の意義と役割を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	多様な場で暮らす人の理解	地域とは 地域で暮らす人（個人・家族・組織など） 多様な場における地域活動 地域社会の構造と特性 地域の特性や保健活動の実際	講義	外部講師*		
第 2 回	地域調査	地域調査（フィールドワーク） 調査する地域、場所（学校の周囲を主に） 地域調査実施	演習	専任教員*		
第 3 回		地域調査結果のまとめ発表 レポート提出				
第 4 回	社会保障の変遷	地域の保健・医療・福祉の多様な機関、 多職種連携	講義	外部講師*		
第 5 回		地域在宅看護に関わる社会保障制度 保健・医療・福祉における施策 療養生活を支える介護保険制度	講義	外部講師*		
第 6 回	地域組織活動	地域包括ケアシステム 変遷と概要 地域包括ケアシステム実際と構成要素 （すまいとすまい方、生活支援・福祉サービス、 介護医療予防、本人家族の選択と心構え） 自助・互助・共助・公助からみた地域包括ケ アシステム 介護予防日常生活支援総合事業 地域住民と様々な介護予防事業	講義	外部講師*		
第 7 回		地域における人々の健康管理行動 保健所の活動と保健センターの活動 地域で関わる保健・医療・福祉の 様々な専門職 多職種連携の必要性	講義	外部講師*		
第 8 回	評価			専任教員* 外部講師*		
テキスト 参考図書	地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基礎 医学書院		評価 方法	レポート・ 筆記等		
備考						

授業計画

科目名	地域・在宅看護概論		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 地域・在宅看護の概念について理解する。 2. 多様な場でその人らしい暮らしを支える看護師の役割、社会資源について理解する。 3. 訪問看護制度や訪問看護ステーションの概要が理解できる。 4. 療養者を取り巻く家族も支援対象として捉えることができる。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	地域と看護	地域・在宅看護の概念 対象(家族論を含) 歴史と発展 基本理念と倫理	講義	専任教員*		
第 2 回	多様な看護の場 と看護師の役割	多様な地域・在宅看護の場と看護師の役割 多職種との連携・協働 退院調整・退院支援 ケアマネジメント	講義	専任教員*		
第 3 回	地域在宅看護に 必要な社会保障 制度①	地域・在宅看護に必要な社会保障制度と実際 医療保険制度 病院：地域医療連携室、地域ケア病棟、 介護保険制度 行政の窓口、介護認定審査会	講義	専任教員*		
第 4 回	地域在宅看護に 必要な社会保障 制度②	訪問看護制度（介護保険・医療保険） 公費負担制度：難病、障害児・障害者	講義	専任教員*		
第 5 回	地域在宅看護に 必要な社会保障 制度③	様々な社会資源 フォーマルサービス インフォーマルサービス 地域包括ケアシステム	講義	専任教員*		
第 6 回	訪問看護の概要	訪問看護の機能と役割 訪問看護サービスの仕組み 訪問看護の展開 暮らしを支える支援と連携 医療的ケアの支援 居宅管理提案、包括指示、特定行為	講義	専任教員*		
第 7 回	在宅看護の展望 と課題	在宅看護の展望と課題 地域包括ケアシステム構築における対象の 拡大	演習	専任教員*		
第 8 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基礎 医学書院 地域・在宅看護論 医歯薬出版株式会社 国民衛生の動向、社会福祉の手引き		評価 方法	筆記等		
備考						

授業計画

科目名	地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 地域で暮らす、または在宅で療養する対象の状況に応じた生活の保障について学ぶ。 2. 様々な状態にある人がその人らしく暮らし QOL を維持・向上させていく看護の基本、 社会資源活用を理解する。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	対象の状況に応じた療養生活の保障	療養上のリスクマネジメントと対応		講義	専任教員*	
第 2 回	在宅療養における健康危機管理	24 時間体制 災害に対する準備と対応 在宅看護介入時期別の特徴		講義	専任教員*	
第 3 回	障害を持ちながら生活する人の在宅看護 身体・精神障害	障害とともに生活する人の在宅看護 身体疾患がある在宅療養者への看護		講義	専任教員*	
第 4 回		精神疾患がある在宅療養者への看護		講義	専任教員*	
第 5 回	活動低下及び疾病再発予防	認知症高齢者の地域・在宅看護 生活習慣病の予防・疾病の悪化防止		講義	専任教員*	
第 6 回	地域における多職種連携・自立支援	地域連携クリティカルパス・多職種連携 在宅リハビリテーション 機能障害の生活への影響		講義	専任教員*	
第 7 回	医療的ケアが必要な子どもと家族への支援	在宅療養を開始する重症心身障害児		講義	専任教員*	
第 8 回	人生の終末を迎える人の在宅看護	人生の最後を迎える場所・病院・施設の看取り 終末期における在宅看護 意思決定支援		講義	外部講師*	
第 9 回		終末期における在宅療養 疾病の特徴と療養の経過 24 時間の支援体制		講義	外部講師*	
第 10 回		在宅での看取り グリーフケア		講義	外部講師*	
第 11 回	難病の在宅療養者への支援	難病の患者に対する医療等に関する法律・事業		講義	外部講師*	
第 12 回		難病の進行に伴う症状・日常生活への影響		講義 演習	外部講師*	
第 13 回		難病の在宅療養者と家族の講話		講義	専任教員* 当事者と家族	
第 14 回		難病の在宅療養者と家族の看護		講義	外部講師*	
第 15 回	評価				専任教員* 外部講師*	
テキスト 参考図書	別途指示			評価 方法	筆記等	
備考						

授業計画

科目名	在宅看護技術		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 療養者や家族との信頼関係を構築するためのコミュニケーション技術を理解する。 2. 在宅で暮らす人々の健康生活を支えるために必要な対象のヘルスアセスメント、生活 援助技術、医療処置について理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>		
第 1 回	在宅看護の基本 技術	関係構築のための基本技術 訪問時のマナー	講義	専任教員*		
第 2 回		訪問マナーとコミュニケーションの実際 訪問時の観察技術	校内 実習	専任教員*		
第 3 回		五感を用いてのフィジカルアセスメント 介護者・生活の場のアセスメント	講義	専任教員*		
第 4 回	在宅における活 動と休息・清潔 援助技術	活動に関するアセスメント・援助技術 睡眠に関するアセスメント	講義	専任教員*		
第 5 回		清潔に関するアセスメント・援助技術	講義	専任教員*		
第 6 回		在宅における清潔ケア援助技術 移乗・移動の援助技術	校内 実習	専任教員*		
第 7 回						
第 8 回	在宅における食 事への援助技術	食事に関するアセスメント 在宅における栄養法	講義 演習	専任教員*		
第 9 回		経管栄養法の管理	校内 実習	専任教員*		
第 10 回	在宅における排 泄への援助技術	排泄に関するアセスメント 排泄機能が低下した人の援助	講義	専任教員*		
第 11 回	在宅における呼 吸循環の調節と 看護技術	呼吸・循環に関するアセスメント ガス交換障害と在宅酸素療法管理 換気障害と在宅人工呼吸器の管理 在宅で気管切開をしている人への看護技術	講義	専任教員*		
第 12 回		在宅での酸素・人工呼吸管理法の実際	校内 実習	専任教員* (外部講師)		
第 13 回		在宅における「気管内吸引」と「気管切開部の 管理」の実際・家族指導	校内 実習	専任教員*		
第 14 回	校内 実習			専任教員*		
第 15 回	評価		試験	専任教員*		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記等		
備考						

授業計画

科目名	ケアマネジメント		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 地域包括ケアシステムの中での社会資源活用の方法、多職種連携の実際を事例検討やシミュレーションを通して学ぶ。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	地域看護におけるケアマネジメント	地域看護におけるケアマネジメントとは何か	講義	専任教員*		
第 2 回	介護保険法におけるケアマネジメント	介護保険法とは 介護保険法におけるケアマネジメント 事例提供⇒ケアプランの作成	講義 演習	専任教員*		
第 3 回		介護保険法におけるケアマネジメント ケアプランの発表	演習	専任教員*		
第 4 回	ケアマネジメントと関係者会議	地域で暮らす人々を支える関係者会議 地域ケア会議 要保護児童対策地域協議会 地域支援会議。(精神障害者地域移行支援事業) など	講義	専任教員*		
第 5 回		ケアマネジメントと関係者会議 関係者会議の運営 複数の困難事例の支援内容 各職種の問題点とアプローチ方法 ケース (困難事例) 認知症高齢者、児童虐待、精神障害者 重症心身障害者の親の高齢化など 会議参加職種例 地域ケア会議、要保護児童対策地域協議会 訪問看護師・行政職員(障害福祉担当課) 保健師・精神保健福祉センター職員 ヘルパー	演習	専任教員*		
第 6 回	模擬地域ケア会議	ケアマネジメントと関係者会議 模擬地域ケア会議を開催	演習	専任教員*		
第 7 回		地域で暮らす人々へのケアマネジメントの必要性と看護師の役割	講義 演習	専任教員*		
第 8 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	レポート等		
備考						

授業計画

科目名	在宅看護の展開		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 事例展開を通して、在宅療養者および家族の生活環境、価値観や意向、家族介護力や社会資源活用などアセスメントの視点を理解する。 2. 家族を一単位として捉え、強みの強化、弱みに対する援助計画の立案ができる。 3. エンパワメントアプローチを用いて対象の自己決定を促すことができる。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	在宅看護の特徴 と看護の視点	療養者と家族全体を対象として捉える 医療と生活の両側面を捉える（暮らしがある） 療養生活への希望・自己決定の尊重 エンパワメントとアドボカシー case leaning 事例提示（難病）	講義	専任教員*		
第 2 回	在宅療養者と 家族の看護展開	アセスメントの視点 全体像の作成 病態と日常生活への影響 病態の原因・誘因と予測 健康状態と日常生活への影響	演習 講義	専任教員*		
第 3 回		療養者、家族の関係性 療養者、家族の意向 関係する社会資源・制度 生活環境	講義 演習	専任教員*		
第 4 回		療養者・家族の意向、生活環境、健康状態を踏 まえた援助の検討	講義 演習	専任教員*		
第 5 回		療養者、家族の強みを強化（エンパワメント） 弱みに対する援助（傾聴、提案、促し）	演習	専任教員*		
第 6 回		ロールプレイ	援助場面のロールプレイ	演習	専任教員*	
第 7 回		学習のまとめ 援助計画の修正、追加	講義 演習	専任教員*		
第 8 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	レポート		
備考						

成人看護学

成人看護学

【科目構成とねらい】

成人とは、心身ともに成長・成熟した人をいう。成人の区分は、身体の成熟度や社会的活動の視点によりその定義は異なるが、概ね 15 歳から 65 歳までを指し、13 歳から 18 歳までを小児からの移行期、65 歳から 75 歳までを老年への移行期とする。成人を限定した年齢集団と捉えるのではなく、小児から成人、成人から老年へと成長・発達をしながら連続性を持った存在として捉える。

成人期は、発達段階の視点から、青年期、壮年期、向老期に区分され、それぞれ異なる発達課題がある。いずれの時期においても成人期にある人は、社会における中心的役割を担い、自立・自律し、意思決定できる存在である。たとえ病気になっても、自分の治療法の選択や療養に責任をもち、セルフマネジメントできる存在であると捉える。

成人の健康は、ライフイベントや生活習慣、労働環境、人間関係など様々な要因に影響を受け、健康障害がもたらされる。そのため、成人の健康は、生活の中で捉えていく必要がある。また、成人期の生活習慣は、その後の老年期の健康に影響を及ぼすため、健康寿命を延伸するためにも成人期の健康活動が重要となる。

近年、健康意識の高まりや医療の高度化、在院期間の短縮など成人の健康問題を取り巻く環境が大きく変化しつつある。たとえば健康が障害されても社会生活を中断せずに治療する、あるいは入院治療を行っても早期に退院し、外来で治療を続けるようになった。このように疾患は、生活から切り離されたものではなく、生活者としての視点から健康問題を捉えていくことが必要である。また、多様性を認め合う社会の実現が求められ、「その人らしさ」の重要性が増してきた。病を抱えつつも生活していく上で、こうした視点は欠かせない。

このように健康問題と生活者という 2 つの視点から、健康増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を踏まえ、成人期における看護の特徴に基づく科目を設定し、成人看護学の講義について計 6 単位を以下の通り設定した。

「成人看護学概論」

成人看護学概論では、成人期にある人を理解し、成人看護の特徴を学ぶ。成人看護学に関連する、保健・医療・福祉における動向と課題、成人期にある人を取り巻く環境から生じる健康障害や、健康に対する多様な価値観を認め、成人期にある人がたとえ病になっても、その人がその人らしく生きていくことを支えるための、看護の基本的役割について学習する。また、成人期にある人の看護の特徴を「生命の危機状況にある人の生きているを支える看護」「手術を受ける人の生きているを支える看護」「病とともに暮らすを支える看護」「生活機能障害のある人の暮らすを支える看護」「その人らしく生きるを支える看護」とし、看護の基盤となる看護理論を活用した成人看護のアプローチについて学習する。

「生命の危機状況にある人の生きているを支える看護」

人の身体には、侵襲に対してホメオスタシス（恒常性）を保とうとする機能が備わり、バランスが保たれている。しかし、何らかの侵襲によってホメオスタシスの保持が困難となった場合、生命の危機状態に陥り、呼吸、循環など生命を維持するために、迅速かつ適切な医療介入が必要となる。「生命の危機状況にある人の生きているを支える看護」では、生命危機に対応するための基礎知識や、早期回復に向けた看護、合併症予防のための看護の理解が必要になる。また、事例を用いて、看護判断、臨床推論、状態に応じた看護技術などについて学習する。

「手術を受ける人の生きていくを支える看護」

成人期にある人が、何らかの原因により手術が決定し、手術療法を受け、回復し、退院に至るまでの周術期に行われる看護を学ぶ。手術療法を受けるとは、生活者が手術を提示された時から、手術を終えて、何らかの機能障害または低下の状態、再びその人の生活に戻るといった経過を辿ることである。手術療法は、健康回復への手立てではあるが、手術療法を受ける人は、身体・社会・精神的に大きな影響を受ける。また、その家族にとっても危機的状況となる。手術による影響を最小限におさえ、回復を促進するための支援が必要である。「手術を受ける人の生きていくを支える看護」では、周術期にある人とその家族の特徴を理解した上で、手術侵襲と生体反応および回復過程、アセスメント力、合併症予防と看護に関する知識と技術を学ぶ。

「病とともに暮らすを支える看護」

病を抱えつつ生活している成人期にある人は、疾病の症状や徴候と折り合いをつけながら日々生活している。看護者の役割は、患者がセルフマネジメントできるよう効果的な患者教育を担い、長期にわたる療養生活を支援することにある。そのため、単に、一般的な知識や技術を伝える指導ではなく、社会的役割を果たしながら病とともに暮らすことを「支援」する視点が不可欠である。成人期にある人が健康上の課題に対して解決できるよう、「学習援助型」の考え方を支持していくことが必要である。「病とともに暮らすを支える看護」では、成人期にある人自身が自分の病状をアセスメントして、コントロールするための支援について学習する。

「生活機能障害のある人の暮らすを支える看護」

成人期にある人が、疾病や外傷などにより身体機能の一部失われた場合、それまでの生活を見直し、生活の変更を余儀なくされることがある。その場合、身体機能の障害や治療のため通院や入院することによって、社会や家庭の中で、担ってきた中心的な役割の遂行が困難となる。「生活機能障害のある人の暮らすを支える看護」では、少しでも早く、再びその人らしく生活が送れるようリハビリテーションを支援、社会復帰できるよう支援するための看護について学習する。

「その人らしく生きるを支える看護」

成人期にある人が、生命を脅かす疾病により、身体的苦痛、精神心理的苦痛、社会的苦痛、生きることの意味を自問するなどのスピリチュアルな苦痛による全人的苦痛にさらされる。そのような状況下において、社会的役割の遂行が困難になると同時に、その人らしい生活や自分らしさをも制限されていく。「その人らしく生きるを支える看護」では、特定の疾患や終末期に関わらず、患者とその家族の抱える苦痛の予防と緩和をするとともに疾病の進行に伴う不安、孤独、恐れを癒し、その人らしい生活を維持し、クオリティオブライフを改善していくことで、死が訪れるその時までその人らしく生きることを支援するケアについて学ぶ。

【目的】

成人期にある人を生活者としての視点から理解し、健康問題を抱えた成人の主体性を尊重した意思決定ができるように関わり、健康でその人らしく生活することを医療の側面から支えるために必要な援助を提供することの基礎的能力を養う。

【目標】

1. 成人を生活者としてとらえ、「生きている」、「生きていく」、「暮らす」、「その人らしく生きる」という側面から理解する。
2. 成人の健康課題とその予防について理解する。
3. 生命が脅かされている状態にある成人の生命活動を支える看護について理解する。
4. 生命活動を維持するための治療として手術を受ける成人の、生命活動を支え、身体機能の低下からの回復を促す看護について理解する。
5. 長期にわたりゆっくりと進行する疾患を抱える成人が、病とともに暮らすを支える看護について理解する。
6. 疾患や外傷により身体機能の一部が失われた成人が、再びその人らしく社会とつながりを持って暮らしていけるよう支える看護について理解する。
7. 病に生を脅かされつつある成人の、今ある生をその人らしく生きられるように支援する看護について理解する。

【構成および計画】**<講義>**

科目	単位	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
成人看護学概論	1	○		
生命の危機状況にある人の生きているを支える看護	1		○	
手術を受ける人の生きていくを支える看護	1		○	
病とともに暮らすを支える看護	1		○	
生活機能障害のある人の暮らすを支える看護	1	○		
その人らしく生きるを支える看護	1		○	
計	6	2	4	0

授業計画

科目名	成人看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 成人期にある人を生活者としての視点からとらえ、成人について理解する。 2. 成人の健康と生活を支える保健・医療・福祉の現状及び課題を理解する。 3. 成人を支える看護について看護理論を活用した看護アプローチを理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	成人期にある人の理解	成人看護学とは 成人期にある人の理解 成人にとっての「その人らしさ」とは	講義	専任教員*		
第 2 回		成人の発達段階・発達課題の特徴と役割 成人を取り巻く現代社会の特徴	講義	専任教員*		
第 3 回	成人の健康に関する指標	成人の生活と健康 健康指標からみた成人の理解	講義	専任教員*		
第 4 回	成人の健康の保持増進のための支援	成人の健康の目標と健康課題 健康の保持増進のための取り組み	講義	専任教員*		
第 5 回		生活と健康を守り育むシステム 保健・医療・福祉にかかわる施策	講義	専任教員*		
第 6 回	成人教育	成人教育とは 成人教育の概念と特徴 エンパワーエディケーション アンドラゴジー 教育方法	講義	専任教員*		
第 7 回	看護理論を活用した成人看護のアプローチ	成人の生きているを支える看護 成人の生きていくを支える看護 危機理論	講義	専任教員*		
第 8 回		成人が病とともに暮らすを支える看護 病みの軌跡 健康信念モデル 自己効力 行動変容ステージモデル	講義	専任教員*		
第 9 回		成人が障害とともに暮らすを支える看護 セルフケア理論	講義	専任教員*		
第 10 回		成人がその人らしく生きるを支える看護 死への軌跡 全人的苦痛 意思決定支援	講義	専任教員*		
第 11 回	成人の健康を支える支援	成人の健康を守るプロジェクト① 身近な成人の健康について考える	演習	専任教員*		
第 12 回		成人の健康を守るプロジェクト② 生活のサーチと健康課題の検討	演習	専任教員*		
第 13 回		成人の健康を守るプロジェクト③ 健康課題に対する改善策の検討	演習	専任教員*		
第 14 回		成人の健康を守るプロジェクト④ 生活改善に向けた改善策の提案	演習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 (一般財団法人厚生労働統計協会)			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考						

授業計画

科目名	生命の危機状況にある人の生きているを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 生命が脅かされている人の「生きている」を支える看護を理解する。 2. 「生きている」を支えるためのアセスメントに生かす臨床推論技術を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	生命の危機状況にある人の基本的看護	生きているを支える自然治癒力 生体侵襲における身体の反応	講義	専任教員*		
第 2 回		生きているを尊重するための看護 早期回復にむけての看護 全人的苦痛と緩和	講義	専任教員*		
第 3 回		生きているを脅かされている家族の看護 家族のアセスメントと看護	講義	専任教員*		
第 4 回		生きているを支える自己実現のための看護 倫理的諸問題 考え方とその対応	講義	専任教員*		
第 5 回		呼吸障害と人工呼吸器療法の看護 呼吸不全 人工呼吸器看護	講義	認定看護師* 集中ケア		
第 6 回		循環障害と看護 心拍出量の調節 ショック	講義	認定看護師* 集中ケア		
第 7 回	生きているを脅かし治療を必要とする人の看護	救命救急を必要とする人の看護 救急看護が必要な人の理解と体制 検査・処置時の看護とアセスメント	講義	認定看護師* 集中ケア		
第 8 回		集中治療を必要とする人と家族の看護 心筋梗塞・心不全 熱傷の状態にある人の看護	講義	認定看護師* 集中ケア		
第 9 回		集中治療を必要とする人と家族の看護 外傷の状態にある人の看護 中毒の状態にある人の看護	講義	認定看護師* 集中ケア		
第 10 回	臨床推論のプロセス	臨床推論とは アセスメントに生かす推論技術 アセスメントの段階・方法	講義	専任教員*		
第 11 回		シミュレーション学習① 頭痛・呼吸困難・急性腹症などでシナリオ設定	演習	専任教員*		
第 12 回		シミュレーション学習② 頭痛・呼吸困難・急性腹症などでシナリオ設定	演習	専任教員*		
第 13 回		シミュレーション学習③ 頭痛・呼吸困難・急性腹症などでシナリオ設定	演習	専任教員*		
第 14 回		シミュレーション学習④ 頭痛・呼吸困難・急性腹症などでシナリオ設定	演習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員* 認定看護師*		
テキスト 参考図書	別途指示			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考						

授業計画

科目名	手術を受ける人の生きていくを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 手術療法を受ける人と家族の特徴について理解する。 2. 手術療法を受ける人とその家族の「生きていく」を支えるための看護を理解する。 3. 周術期にある人の「生きていく」を支えるための看護の実際を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	周術期看護	周術期の看護 周術期にある人の「生きていく」	講義	専任教員*		
第 2 回	手術前期の看護	意思決定支援 術前オリエンテーション	講義	専任教員*		
第 3 回		全身状態のアセスメント 手術・麻酔が身体に及ぼす影響	講義	専任教員*		
第 4 回		手術前期の看護の実際	講義	専任教員*		
第 5 回		手術期の看護	手術室の環境、麻酔中の看護 手術室看護師の役割、手術室における安全管理	講義	認定看護師* 手術看護	
第 6 回	手術後の看護	術後の病床環境 モニタリングとアセスメント 術後合併症予防と回復への看護	講義	専任教員*		
第 7 回	創傷治癒過程と ドレーン管理	創傷の治癒、術後感染症への看護 ドレーン管理	講義	専任教員*		
第 8 回	腹腔鏡下手術を 受ける人の看護	腹腔鏡下手術における看護 (胃がん)	講義	専任教員*		
第 9 回	胸腔鏡下手術を 受ける人の看護	胸腔鏡下手術における看護 (肺がん) 胸腔ドレーンの管理	講義	専任教員*		
第 10 回	開腹手術を受け る人の看護	case learning① 事例紹介 (大腸がん) 周術期を支える看護理論と計画 情報収集とアセスメント	演習	専任教員*		
第 11 回		case learning② 看護問題と援助	演習	専任教員*		
第 12 回		case learning③ 術後患者のアセスメント 「術後患者の観察とアセスメント」	校内 実習	専任教員*		
第 13 回		case learning④ 回復を促進するための看護 「早期離床の援助」	校内 実習	専任教員*		
第 14 回		case learning⑤ 障害の適応に向けた援助 退院支援に向けた看護	講義 演習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	別途指示			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考	※「手術を受ける人の生きていくを支える看護」の case learning で一連の看護の展開を行う。					

授業計画

科目名	病とともに暮らすを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 病とともに暮らす人の特徴を理解する。 2. その人らしく暮らすための行動変容や治療を生活に組み込むための支援を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>		
第 1 回	病とともに暮らす人の理解	病とともに暮らす人の特徴 治療・療養行動に関わる主な理論・概念 セルフマネジメント能力を高めるための支援 ・教育的アプローチ ・チームアプローチ	講義	専任教員*		
第 2 回	肝機能障害とともに暮らすを支える看護	肝機能障害とともに暮らす人の理解 身体的・心理的・社会的特徴 看護の特徴	講義	専任教員*		
第 3 回		代償期のセルフマネジメント支援 検査・治療を受ける人の支援 症状マネジメント	講義	専任教員*		
第 4 回		非代償期の支援 1) 症状緩和の援助 (肝性脳症・腹水・黄疸) 2) 薬物療法 3) 食事療法	講義	専任教員*		
第 5 回		腎機能障害とともに暮らすを支える看護	腎不全とともに暮らす人の理解 身体的・心理的・社会的特徴 看護の特徴	講義	認定看護師* 透析看護	
第 6 回	糖代謝障害とともに暮らすを支える看護	病状コントロールに必要な支援 症状マネジメント 苦痛の緩和 社会的支援の獲得への看護 透析を受ける人への支援	講義	認定看護師* 透析看護		
第 7 回		糖尿病とともに暮らす人の看護 身体的・心理的・社会的特徴 看護の特徴	講義	認定看護師* 糖尿病看護		
第 8 回		糖尿病とともに暮らす人の看護 身体的・心理的・社会的特徴 看護の特徴	講義	認定看護師* 糖尿病看護		
第 9 回		case learning: セルフマネジメント支援① 看護アセスメント	講義 演習	専任教員*		
第 10 回		case learning: セルフマネジメント支援② 看護アセスメント	講義 演習	専任教員*		
第 11 回		case learning: セルフマネジメント支援③ 指導計画の立案	演習	専任教員*		
第 12 回		case learning: セルフマネジメント支援④ 媒体作成	演習	専任教員*		
第 13 回		case learning: セルフマネジメント支援⑤ ロールプレイ	演習	専任教員*		
第 14 回	case learning: セルフマネジメント支援⑥ 評価	講義 演習	専任教員*			
第 15 回	評価			専任教員* 認定看護師*		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考	※「糖代謝障害とともに暮らすを支える看護」の case learning で一連の看護の展開を行う。					

授業計画

科目名	生活機能障害のある人の暮らしを支える看護			単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 生活機能障害によって変化する成人のセルフケアを理解する。 2. 生活機能障害とともに暮らしその人の生活の再構築の支援を理解する。						
回	単 元	内 容			形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	生活機能障害とともに暮らし成人のセルフケア	生活機能障害とともに暮らし成人のセルフケア 生活機能障害とリハビリテーション 生活機能障害とともに暮らすための支援			講義	専任教員*	
第 2 回	脊髄に障害のある人の生活の再構築のための看護	脊髄損傷による機能障害の発生メカニズム 機能評価とアセスメント			講義	専任教員*	
第 3 回		脊髄損傷の回復過程 脊髄に障害がある人の回復に向けた支援			講義	専任教員*	
第 4 回		循環機能障害を有する人への看護 心肺機能の変化と活動への影響			講義	外部講師*	
第 5 回	循環機能障害のある人の生活の再構築のための看護	循環機能障害の検査・治療の特徴と看護 心臓リハビリテーション 回復期における支援			講義	外部講師*	
第 6 回		case learning: 心筋梗塞にある人の生活の再獲得のための援助			演習	外部講師*	
第 7 回		呼吸機能障害を有する人への看護 呼吸の障害の検査・治療の特徴			講義	認定看護師*	
第 8 回	呼吸機能障害のある人の生活の再構築のための看護	機能維持・回復に向けた援助			講義	認定看護師*	
第 9 回	脳・神経障害のある人の生活の再構築のための看護	脳・神経機能障害を有する人への看護 合併症のアセスメントと予防			講義	認定看護師* 脳卒中看護	
第 10 回		case learning: くも膜下出血にある人の発症から生活の再獲得までの援助 (急性期から回復期へ)			演習	認定看護師* 脳卒中看護	
第 11 回		case learning: くも膜下出血にある人の発症から生活の再獲得までの援助 (維持期・生活期へ)			演習	認定看護師* 脳卒中看護	
第 12 回	排尿・排泄機能障害のある人の生活の再構築のための看護	排尿・排泄機能の障害のある人の看護 排尿・排泄機能の障害のアセスメント 排尿・排泄の調節機能の回復への援助			講義	認定看護師* 皮膚・排泄ケア	
第 13 回		ストーマ造設の看護 ストーマケアの自立に向けた援助			講義	認定看護師* 皮膚・排泄ケア	
第 14 回		ストーマ管理とケアの実際 (消化管ストーマ) ・スキンケア・装具交換と管理			校内 実習	認定看護師* 皮膚・排泄ケア	
第 15 回	評価					専任教員* 外部講師*	
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門Ⅱ 系統看護学講座 専門Ⅱ 系統看護学講座 専門Ⅱ 系統看護学講座 専門Ⅱ 系統看護学講座 専門Ⅱ 系統看護学講座 専門Ⅱ 系統看護学講座 専門Ⅱ	成人看護学総論 運動器 循環器 呼吸器 脳・神経 消化器 腎・泌尿器	成人看護学① 成人看護学⑩ 成人看護学③ 成人看護学② 成人看護学⑦ 成人看護学⑤ 成人看護学⑧	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院	評価 方法	筆記・ レポート等	
備考							

授業計画

科目名	その人らしく生きるを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 「その人らしさ」を捉え、その人らしく生きることを支援するための看護を理解する。 2. 生と死について考えることができ、その個人と家族とともに「人が生きる意味」について理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>		
第 1 回	人間の生と死	人の生命、死と医療 死の準備教育	講義	専任教員*		
第 2 回	非がん患者と緩和ケア 成人期にある人の、その人らしく生きるとは	緩和ケアにおける動向 非がん疾患の症状と緩和	講義	専任教員*		
		症状緩和の方法 緩和ケアを必要とする成人の特徴 思春期・若年成人（AYA 世代）における特徴	講義	専任教員*		
第 3 回	緩和ケアにおける意思決定支援	死をめぐる倫理的課題 がん告知、倫理的課題の検討 自己の死生観	講義 演習	専任教員*		
第 4 回	緩和ケアの定義と現状	緩和ケアの現状 終末期医療に関する概念 エンド・オブ・ライフ・ケア	講義	認定看護師* 緩和ケア		
第 5 回		全人的苦痛の概要 全人的苦痛（トータルペイン） 霊的苦痛とは（スピリチュアルペイン） 霊的苦痛の緩和	講義 演習	認定看護師* 緩和ケア		
第 6 回		そのひとらしく生きるを支える看護の実際	身体的苦痛の緩和 疼痛コントロールの実際 オピオイド NSAIDs 鎮痛補助薬	講義	専任教員*	
第 7 回	そのひとらしく生きるを支える看護の実際	化学療法を受ける人の看護 放射線療法を受ける人の看護	講義	認定看護師* がん化学療法等		
第 8 回		造血幹細胞移植の看護	講義	認定看護師 血液がん看護		
第 9 回		case learning：身体的苦痛の緩和における援助（乳がん）	講義 演習	認定看護師* 乳がん看護		
第 10 回		case learning：精神的・社会的苦痛の緩和における援助（乳がん）	講義 演習	認定看護師* 乳がん看護		
第 11 回		case learning：終末期における援助的コミュニケーション（乳がん）	演習	専任教員*		
第 12 回	家族ケア	家族のニード 家族成員、家族集団に看護師ができること グリーフワーク・ケア	講義	専任教員*		
第 13 回	危篤・臨終・死亡時の看護	危篤・臨終時の看護 死亡時の看護	講義	専任教員*		
第 14 回	死後の看護	死亡の手続き 帰宅時の援助 日本の臨終時、死亡時の慣わし グリーフワーク・ケア	講義	専任教員*		
第 15 回	評価	筆記試験		専任教員* 認定看護師*		
テキスト 参考図書	別途指示		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

老 年 看 護 学

老年看護学

【科目構成とねらい】

成長発達最終段階である老年期は、人としての英知を統合し、いずれは穏やかに幸せな死を迎えられるべき段階である。長い人生経験と知恵、個人の生き方・価値観を尊重し、個別な存在として理解する必要がある。近年、高齢者人口の割合は急速に進行し、老年期は65歳～100歳代と幅広い年齢層である。その間には、健康な時があれば、疾病を抱え治療が必要な時もある。また老いに加えて障害を伴うこともまれではない。そして、治療の場である病院や療養のための施設、住み慣れた場である居宅等、高齢者の生活の場は多岐にわたる。今後さらなる高齢社会の進展に伴い、医療の場から施設・在宅などの生活の場へのスムーズな移行を図る必要があり、入院時から退院後の生活を視野に入れた看護の提供や、利用可能な保健医療福祉サービスの多職種間の連携が強く望まれている。

看護においては、一人一人の人生を念頭におきながら、多様な健康レベルと場の広がりに対応できる能力、その人の持てる力を十分に発揮しQOLの維持・向上を目指した個別性のある看護を実践できる能力等が求められる。このことから、高齢者に起こりやすい変化を理解し、幅広い観察力やアセスメント力等、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断能力を養い、時代の変化や社会の動向に合わせて高齢者本人・家族のニーズを基盤としたその人らしく生きるための支援ができるように、それらに関する基礎的な知識・技術を学習する。

科目については、老年期にある人の「その人らしく生きる」を支えるためには、日々の生活、暮らしを理解することが必要であると考え、「高齢者の暮らすを支える看護」について学べる内容を精選した。以上のことより、高齢者がどのような状況(時・場所・価値観等)においても暮らし続けることを支援できるように、学習内容を「老年看護学概論」「高齢者の生活機能を整える看護」「高齢者の生きるを支える看護」「認知機能が低下した高齢者の暮らすを支える看護」の4つの科目に設定した。

「老年看護学概論」

高齢者を理解するために、加齢変化の特徴や加齢に伴う生活の変化を学び、高齢者の多様性を理解し、老年看護についての関心を高める内容とする。

「高齢者の生活機能を整える看護」

高齢者に特有の加齢変化によって起こりやすい心身の変化や生活への影響の理解を深める。高齢者の生活機能を整える看護の基本を学習する内容とする。

「高齢者の生きるを支える看護」

高齢者の健康問題は複雑化・長期化・重症化しやすい。治療に応じた看護、疾病予防・健康維持に関連する高齢者・家族の支援を含む療養生活の場における看護を学ぶ。また、老年期にある全ての人が人生の終焉までその人らしく生きることを支援する看護を学ぶ内容とする。

「認知機能が低下した高齢者の暮らすを支える看護」

認知機能が低下した高齢者の取り巻く環境や退院支援、地域連携等の内容を学ぶ。そして急増する認知症高齢者が地域で暮らし続けるために予防からエンド・オブ・ライフ・ケアまで、治療の場から療養生活の場まで、と幅広い視野をもって看護を考えられる内容とする。

【目的】

老年期にある人と家族及び支える人々を理解し、その人らしく生きるための看護を実践できる基礎的能力を養う。

【目標】

1. 老年期にある人の特徴を理解し、老年看護の機能と役割を理解する。
2. 高齢者の特徴を踏まえた生活機能を整える看護を理解する。
3. 健康問題が高齢者や家族に及ぼす影響を理解し、高齢者の健康を支える看護を理解する。
4. 高齢者が人生の終焉まで地域でその人らしく暮らし続けることを支える看護を理解する。

【構成および計画】

<講義>

科目	単位	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
老年看護学概論	1	○		
高齢者の生活機能を整える看護	1	○		
高齢者の生きるを支える看護	1		○	
認知機能が低下した高齢者の暮らすを支える看護	1		○	
計	4	2	2	0

授業計画

科目名	老年看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 老年期にある人のその人らしい健康と生活について理解する。 2. 高齢者と家族のその人らしい健康・生活を支える保健・医療・福祉の現状及び課題を理解する。 3. 高齢社会における老年看護の役割を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	老年期にある人の理解	老いを生きるということ 高齢化の要因と特徴	講義	専任教員*		
第 2 回		高齢者の多様性 (生活史を通じた理解)	講義 演習	専任教員*		
第 3 回		健康指標からみた高齢者の理解	講義	専任教員*		
第 4 回	高齢者の健康と健康の保持増進のための支援	高齢者にとっての健康 高齢者の健康の目標と健康問題 健康の保持増進のための取り組み	講義 演習	専任教員*		
第 5 回	加齢に伴う変化と生活への影響の理解	加齢と老化 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能変化の特徴①	講義	専任教員*		
第 6 回		加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化の特徴②	講義	専任教員*		
第 7 回		加齢に伴う変化と生活への影響 高齢者の生活を取り巻く社会環境①	講義 演習	専任教員*		
第 8 回		高齢者の生活を取り巻く社会環境②	講義	専任教員*		
第 9 回		加齢に伴う変化と生活への影響① 高齢者の日常生活の疑似体験	演習	専任教員*		
第 10 回		加齢に伴う変化と生活への影響② 高齢者の日常生活の疑似体験 (発表)	演習	専任教員*		
第 11 回	高齢者と家族の生活を支えるための支援	高齢者の暮らし 高齢者と家族機能の変化 高齢者の生活を支える施策 多様な生活の場とリロケーション	講義 演習	専任教員*		
第 12 回		高齢者が地域で「暮らす」とは 地域の高齢者・家族の暮らしを支えるための施策、取り組み	講義	外部講師*		
第 13 回	老年看護の基本的な考え方と倫理的課題	高齢社会の権利擁護と倫理的課題 権利擁護のための制度	講義	専任教員*		
第 14 回		老年看護に関わる理論・概念 老年看護の特徴	講義 演習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 (一般財団法人厚生労働統計協会) みんないきいき介護保険 (社会保険出版社)		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	高齢者の生活機能を整える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 加齢変化によって起こりやすい心身の変化を踏まえた生活への影響を理解する。 2. 高齢者の生活機能を整える看護の基本を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	高齢者の生活機能のアセスメント	高齢者の身体的健康のアセスメント 生活の自立状態のアセスメント 心理・社会的健康のアセスメント	講義	専任教員*		
第 2 回	高齢者の生活機能を整える看護 コミュニケーション	高齢者のコミュニケーションの特徴 高齢者のコミュニケーションに影響する要因 高齢者とのコミュニケーション方法	講義	専任教員*		
第 3 回	高齢者の生活機能を整える看護	高齢者に特徴的な食生活のアセスメント 高齢者の食生活への看護	講義	専任教員*		
第 4 回	高齢者の日常生活機能を整える看護	嚥下機能が低下している高齢者の看護 脱水症状のある高齢者の看護	講義 演習	専任教員*		
第 5 回		高齢者の排泄の特徴と QOL 排泄能力の変化に応じた看護	講義	専任教員*		
第 6 回		高齢者の皮膚の特徴と清潔に関する健康課題 高齢者の清潔行為、更衣動作のアセスメント 高齢者の清潔に向けた看護	講義	専任教員*		
第 7 回		高齢者の生活リズムを調整する意義 高齢者に特徴的な生活リズムのアセスメント 生活リズムを整える看護	講義	専任教員*		
第 8 回		歩行・移動動作のアセスメントと援助 高齢者の転倒・転落の影響、要因とその予防 活動意欲を高める看護	講義 演習	専任教員*		
第 9 回		case learning 臥床傾向にある高齢者に起こりやすい変化と生活への影響 援助計画の立案	演習	専任教員*		
第 10 回		臥床傾向にある高齢者の日常生活を整える 援助①：食事①	校内 実習	専任教員*		
第 11 回		臥床傾向にある高齢者の日常生活を整える 援助②：食事②	校内 実習	専任教員*		
第 12 回	case learning 臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生きる意欲を向上させる援助計画の立案	演習	専任教員*			
第 13 回	臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生きる意欲を向上させる援助①：排泄①	校内 実習	専任教員*			
第 14 回	臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生きる意欲を向上させる援助②：排泄②	校内 実習	専任教員*			
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考						

授業計画

科目名	高齢者の生きるを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 高齢者の健康障害の特徴と看護を理解する。 2. 生活の場の特徴を踏まえ高齢者とその家族への看護を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	高齢者の健康障 害の特徴と看護	老化の要因と原因 老年病と老年症候群 老年病の特徴と看護上の問題	講義	専任教員*		
第 2 回		高齢者に特徴的な症状と看護 うつ状態と生活への影響と看護	講義	専任教員*		
第 3 回		褥瘡予防の看護① 褥瘡治療、スキンケア、褥瘡の評価 廃用症候群の発生と予防、体圧分散の方法	講義	認定看護師* 皮膚・排泄ケア		
第 4 回		褥瘡予防の看護② 褥瘡の評価の実際、褥瘡処置	演習	認定看護師* 皮膚・排泄ケア		
第 5 回	様々な受療状況 に応じた高齢者 の看護	入院時、退院時の看護 外来受診時、検査時、手術時の看護 手術を受ける高齢者の看護	講義	専任教員*		
第 6 回		加齢に伴う薬物動態と薬力学の変化 薬物療法を受ける高齢者への援助とリスクマネ ジメント	講義	専任教員*		
第 7 回		高齢者リハビリテーションの意義と特徴 健康レベルに応じたリハビリテーション	講義	専任教員*		
第 8 回	エンド・オブ・ ライフ・ケア	終末期における高齢者の特徴 高齢者の死にかかわる権利擁護 臨死期のアセスメントと看護	講義	専任教員*		
第 9 回	多様な生活の場 での高齢者と家 族の看護	災害時における高齢者のリスク 高齢者に多い感染症の特徴 高齢者の生活の場の特徴と看護	講義	専任教員*		
第 10 回	健康障害が及ぼ す高齢者・家族 への影響と看護	case learning① 骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折患者 の日常生活行動の自立、生活機能の維持・拡大 に向けた援助 情報収集とアセスメント	講義	専任教員*		
第 11 回		case learning② 看護問題と援助、看護介入計画立案	講義 演習	専任教員*		
第 12 回		case learning③ ロールプレイ、評価	講義 演習	専任教員*		
第 13 回		case learning① パーキンソン病の高齢者とそ の家族の生活を支える援助 退院に向けての援助：シミュレーション学習	講義 演習	専任教員*		
第 14 回		case learning② 介護する家族への看護：シミ ュレーション学習	講義 演習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員* 認定看護師*		
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考						

授業計画

科目名	認知機能が低下した高齢者の暮らしを支える看護			単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 認知機能が低下した高齢者がその人らしく暮らし続けるための支援について理解する。						
回	単 元	内 容			形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	認知機能が低下した高齢者の理解	加齢による認知症の病態と要因 BPSD と生活への影響 軽度認知障害 (MCI)			講義	専任教員*	
第 2 回	認知機能が低下した高齢者を取り巻く環境	認知症看護における倫理的課題 権利擁護 意思決定支援			講義	認定看護師* 認知症看護	
第 3 回		認知症の人の生活・療養環境づくり 認知症の人にとっての環境の意味 社会参加			講義 演習	専任教員*	
第 4 回		生活の場の移動と看護の継続 退院調整・退院支援			講義	認定看護師* 認知症看護	
第 5 回		認知機能が低下した高齢者への看護	認知症と社会制度 認知症を取り巻く制度 (変遷含む)			講義	専任教員*
第 6 回		case learning① 認知症のある高齢者が退院する際の退院調整・退院支援と安全・安楽に暮らしていくための方法を考える 自宅に退院する場合の退院調整、支援への援助			演習	専任教員*	
第 7 回		case learning② 認知症のある高齢者が退院する際の退院調整・退院支援と安全・安楽に暮らしていくための方法を考える 施設に入所および退院する場合の退院調整、支援への援助			演習	専任教員*	
第 8 回	評価					専任教員* 認定看護師*	
テキスト 参考図書	系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ	老年看護学 老年看護	医学書院 病態・疾患論 医学書院	評価 方法	筆記・ レポート等	
備考							

小 児 看 護 学

小児看護学

【科目構成とねらい】

小児看護学では、子どもを「一個の人格を持ち、尊重されるべき存在」「環境との相互作用の中で生活し、成長・発達し続ける存在」「限りない可能性を持つ存在」として捉える。

子ども時代は、ヒトから社会的存在としての人間へと絶え間ない成長・発達を遂げる時期である。小児看護学は、このようなライフステージにある、あらゆる健康レベルとあらゆる状況にある子どもとその家族を対象とする。より良い社会の中で人は育つことを理解し、プライマリヘルスケアの理念に基づき子どもの健康が保持・増進されること、健やかな成長・発達が保障されること、苦痛が緩和し安楽に過ごせること、時には穏やかな死を迎えることに向けた看護について学ぶ。

「子供の成長発達と看護」

小児看護の目的は、子どもの権利を尊重し、一人一人の子どもが健康に育つことのできる環境を整え、生活の質（QOL）が向上するように支援することである。子ども時代が人間形成の基盤として重要な時期であることを前提とし、子どもが健やかな成長・発達を遂げるために、子どもを取り巻く社会環境や子どもの成長・発達に重要な影響力を持つ家族の役割について学ぶ。看護の主体としての子どもの倫理的課題を感じ取り、子どもの最善の利益を考えた看護のあり方を考察する。

「子供のヘルスプロモーションを支える看護」

子どものライフスタイルや健康は、子どもを取り巻く環境と、家庭、地域の在り方に強く影響され、その中で日常生活行動や健康管理行動が発達する。子ども時代は、発達段階により病気に対する理解や対処行動が異なる。また、成長・発達の途上にある子どもは、身体的、精神的にも未熟であり、健康上の問題を引き起こしやすい。各発達段階に適した健康増進や発達促進への支援と共に、健康状態に応じた援助について学ぶ。

「子供の健康状態に応じた看護」

医療技術の進歩は、多くの子どもの命を救うこととなったが、一方で子どもの病気は重症化し、入院生活を余儀なくされることもある。また、ノーマライゼーションの思想から、重症心身障害児や医療的ケアが必要な子どもの在宅医療が進められている。こうした状況の中で、21世紀を担う子ども達が最善の利益を守られ、生き生きとその子らしく生活できるように様々な健康状態にある子どもの成長・発達と、生活する場による子ども達の違いからその子らしさについて理解し、その援助について学ぶ。

「子供の成長発達を支える看護」

「子供発達論」「子供のヘルスプロモーションを支える看護」「子供の健康状態に応じた看護」で学んだ小児看護の知識・技術・態度について統合を図る最終科目である。様々な健康状態にある子どもの成長・発達や生活を理解することで、子どもの健康を増進し、苦痛を和らげ、その子らしく成長発達していくことに向けた援助を行うことが必要である。

子どもの状態をありのままに観察し、必要な援助を考え実践する、行動の根拠となる知識を再確認しながら判断する過程を繰り返し、子どもを支える家族とともに、子どもの最善の利益を守ることを理解し、それぞれの子どもに適した看護の方法を習得する。

【目的】

子どもの権利の尊重を基盤として、成長発達過程を理解し、生き生きとその子らしく生活できるよう、最良の健康状態の保持・増進及び健康障害の程度や発達段階に適した看護を理解する。

【目標】

1. 小児看護の変遷や社会的現状から子どもの健康を支えるための看護の役割を理解する。
2. 子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律を理解し、子どもの最善の利益を考える。
3. 健康増進のための子どもと家族の看護を理解し、子どもの日常生活援助を習得する。
4. 小児期にみられる主な症状と経過の特徴に応じた看護を理解する。
5. 子どもの尊厳を基盤として成長発達を支える援助を習得する。

【構成および計画】

<講義>

科目	単位数	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
子供の成長発達と看護	1	○		
子供のヘルスプロモーションを支える看護	1		○	
子供の健康状態に応じた看護	1		○	
子供の成長発達を支える看護	1		○	
計	4	1	3	0

科目名では『子供』と表記し教育内容の『子ども』の表記について

※東京都立府中看護専門学校学則(東京都規則第73号)において、「子ども」を「子供」と表記しています。

法務執行上「子ども」ではなく、「子供」の表記が正しく都立7校で統一しました。

教育課程の科目名では、『子供』と表記しますが、教育内容では、『子ども』と表記します。それは、子どもを人格を持った一人の人間として認め、尊重する姿勢を持つことが大切であるという考え方からです。

授業計画

科目名	子供の成長発達と看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 小児看護の変遷や社会的現状から小児看護の役割を理解する。 2. 子どもの成長発達過程を生活の側面から理解する。 3. 子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律を理解し、小児看護における倫理を考える。 4. 現代社会における子どもを取り巻く諸問題に気づき、子どもの最善の利益を考える。 5. 子どもの健康を支えるための看護の役割について考える。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	小児看護の対象 と目的・役割	小児看護の対象 児童観、育児観、小児看護の変遷 小児看護の目的 小児看護の役割	講義	専任教員*		
第 2 回		諸統計からみた子どもの現状 わが国の人口、出生数、合計特殊出生数 子どもの死亡、周産期死亡、乳児死亡、死因	講義	専任教員*		
第 3 回	子どもの生活と 場	子どもの生活の場を知る	講義 演習	専任教員*		
第 4 回	子どもの成長と 発達	子どもの成長発達の原則 成長発達に影響する要因・形態的成長	講義	専任教員*		
第 5 回		身体発育の評価 機能的発達・感覚機能の発達・運動機能の発達	講義	専任教員*		
第 6 回		心理・社会的発達 小児看護における概念と理論	講義	専任教員*		
第 7 回		子どもの栄養の特徴	講義	専任教員*		
第 8 回		子どもの安全・事故防止	講義 演習	専任教員*		
第 9 回	現代社会におけ る諸問題	現代家族の特徴 現代家族の特徴、家族のアセスメント 多彩な家庭形態の子どもに及ぼす影響	講義	専任教員*		
第 10 回		現代の子どもと家族が置かれている状況 (子どもの虐待、貧困、グローバル社会の子どもたち等)	講義	専任教員*		
第 11 回	小児看護・医療 における法律	子どもを保護する法律・政策 児童福祉法、児童憲章、エンゼルプラン、虐待 防法、	講義	専任教員*		
第 12 回		母子保健施策 母子保健法 健やか親子 2 1	講義	専任教員*		
第 13 回		社会福祉法・予防接種法・学校保健安全法	講義	専任教員*		
第 14 回	小児看護におけ る倫理	子どもの権利条約の意義と内容 子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律 小児看護における子どもの権利	講義 演習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総 論 小児看護学① 医学書院 国民衛生の動向		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	子供のヘルスプロモーションを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次	
科目 目標	1. 健康増進のための子どもと家族の看護を理解する。 2. 小児期にみられる主な症状と経過の特徴に応じた看護を理解する。 3. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護を理解する。 4. プライマリヘルスケアで出会う看護を理解する。						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>			
第1回	子どもの発達段階に適した生活支援	乳児期の健康増進と家族への支援 子どもの抱き方、おむつ交換	講義	専任教員*			
第2回		幼児期の健康増進と家族への支援 子どもの遊びについて	講義	専任教員*			
第3回		学童期・思春期の健康増進と家族への支援 子どもの学習について	講義 演習	専任教員*			
第4回	外来で出会う子どもの看護	外来における子どもと家族の看護	講義	外部講師* 小児外来看護師			
第5回	子どもによく見られる症状と看護	急性期症状を示しやすい子どもの生理的、発達的特徴	講義 演習	専任教員*			
第6回		子どもによく見られる症状とその看護 発熱・下痢・嘔吐・脱水	講義 演習	専任教員*			
第7回		子どもによく見られる症状とその看護 けいれん・呼吸困難・痛み	講義 演習	専任教員*			
第8回		小児感染症とその看護 発疹を伴う感染症と伴わない感染症	講義 演習	専任教員*			
第9回		子どもの病気の理解	発達段階別の病気に対する理解の特徴と仕方	講義	専任教員*		
第10回			子どもの病気の理解に影響を与える要因	講義	専任教員*		
第11回		病気の子どもの看護	子どもが入院に伴い体験することと反応 子どもの入院に伴う家族の体験と反応	講義	専任教員*		
第12回			ケアを受ける子どもと家族への援助 子どもと家族の力を支える援助 子どもの発達段階別援助	講義 演習	専任教員*		
第13回	ケアを受ける子どもと家族への援助 入院各期、入院の種類別の援助		講義 演習	専任教員*			
第14回	ケアを受ける子どもと家族への援助 規則に対する子どもと家族の反応と援助 入院中の子どもの遊びや学習の意義と援助		講義 演習	専任教員*			
第15回	評価			専任教員*			
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院		評価 方法	筆記・ レポート等			
備考							

授業計画

科目名	子供の健康状態に応じた看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 医療的ケアを必要とする子どもの看護を理解する。 2. 特殊な状況にある子どもの看護を理解する。 3. 医療を受ける子どもの最善の利益を守るための看護を考える。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>* 実務経験のある教員</small>		
第 1 回	様々な状況にある子どもの看護	隔離が必要な子どもと家族の看護	講義	専任教員*		
第 2 回		長期的経過をたどる疾患を持つ子どもと家族の看護	講義	専任教員*		
第 3 回		在宅医療を受ける子どもと家族の看護	講義	外部講師* 小児 訪問看護師		
第 4 回		終末期にある子どもと家族の看護	講義	認定看護師*		
第 5 回	医療的ケアを必要とする子どもの看護	手術を受ける子どもと家族の看護	講義	専任教員*		
第 6 回		先天異常を持つ子どもと家族の看護	講義	認定看護師*		
第 7 回		障害のある子どもと家族の看護	講義	認定看護師* 小児プライマ リケア		
第 8 回		救急処置を要する子どもと家族の看護	講義 演習	認定看護師* 小児救急看護		
第 9 回	ハイリスク新生児の看護	ハイリスク新生児の集中治療と看護 低出生体重児の看護	講義	認定看護師* 新生児集中 ケア		
第 10 回	特殊な状況下にある子どもの看護	災害時の子どもと家族の看護 被虐待児と家族への看護	講義	専任教員*		
第 11 回	医療を受ける子どもの権利	小児看護と倫理的配慮	講義	専任教員*		
第 12 回		医療を受ける子どもの権利について事例検討 事例：活動制限のある児	講義	専任教員*		
第 13 回		医療を受ける子どもの権利について事例検討	演習	専任教員*		
第 14 回		医療を受ける子どもの権利について事例検討	演習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	子供の成長発達を支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 子どもの日常生活援助技術を習得できる。 2. 子どもや家族との関わりに必要なコミュニケーションスキルを習得できる。 3. 子どもの尊厳を踏まえ、発達を考慮した援助を理解する。 4. 検査や治療が必要な子どもに対する援助を理解する。 5. 子どもと家族を理解するための思考過程を理解する。 6. 子どもの権利を尊重した看護を実践できる。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	子どもの権利を尊重した援助	子どもの最善の利益を考えた援助		講義	専任教員*	
第 2 回	子どもの日常生活に必要な援助	日常生活援助 子どもの抱き方 衣服の着脱・おむつ交換 身体計測		校内 実習	専任教員*	
第 3 回	健康問題を持つ子どもの看護	case learning① 事例紹介（川崎病など） 情報収集と整理 子どもと家族を理解する視点 （健康状態・成長発達・家族）		講義 演習	専任教員*	
第 4 回		case learning② 子どもの生活を阻害している因子の分析 解決に必要な援助計画		講義 演習	専任教員*	
第 5 回		case learning③ ヘルスアセスメント 一般状態、バイタルサイン測定、 フィジカルアセスメント プレパレーション、ディストラクション		校内 実習	専任教員*	
第 6 回		case learning④ 事例に応じた採血・採尿 骨髄穿刺・腰椎穿刺などの援助		講義 演習	専任教員*	
第 7 回		case learning⑤ 事例に応じた吸入・吸引 輸液ポンプ・シリンジポンプ時の援助		講義 演習	専任教員*	
第 8 回	評価				専任教員*	
テキスト 参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ			評価 方法	筆記・ レポート等	
備考						

母 性 看 護 学

母性看護学

【科目構成とねらい】

母性看護学は、看護の対象である人間を「性と生殖に関する健康と権利—リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の視点から捉え、人間のライフサイクルを通して健康を維持・増進することを目的としている。人間が持つ母性・父性の役割・機能を健全に発揮できるようにするために、人間の一生、すなわち胎児期から乳幼児期、思春期、成熟期、更年期、老年期に至るまでの女性とその家族を対象として関わる科目である。

少子高齢社会の中で、次世代の健康への支援は、重要な社会問題となっている。また、社会の最小単位である家族が再編整備され、健やかに機能するためには地域社会における多様な家族の在り様を踏まえつつ、周産期を含めたライフステージ各期の女性及びその家族への支援を考えるべきである。国においても様々な政策を策定し、女性の社会への参画を推進し、かつ、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを行っている。このような背景を踏まえて、以下のように学習していく。

「母性看護学概論」

母性看護学の概念とその基盤となる社会の動向について学習する。基礎となる概念として、母性及び父性の概念、母子関係と家族発達、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、社会の変化に伴う母性看護の変遷とありかたについて学ぶ。また、セクシュアリティの視点から見た個と家族の発達や課題について学ぶ。ライフサイクル各期の中でも思春期、成熟期、更年期、老年期に焦点を当て、各期の健康と看護、その連続性について学ぶ。人間の性と生殖に関する問題を抱える人達も対象とし、その看護の必要性についても学ぶ。形態機能学と関連させ、人間の性行動について学ぶ。さらに母性看護では、生命そのものの尊厳や神秘性に触れることも多いため、生命倫理や看護倫理についても学びを深める。

「妊婦・産婦の生命の育みを支える看護」

妊婦・産婦とその家族の看護に必要な学習をする。妊婦を理解するために、妊娠各期における胎児の発育と、妊娠が母体に及ぼす身体的・心理的影響を学ぶ。また、家族構成の変化に伴う妊婦の夫や家族の役割の変化を含む社会的な側面について学ぶ。そして対象の理解を踏まえた妊婦及びその家族の看護や保健相談の方法を具体的に学ぶ。産婦の理解のためには、分娩の生理と経過、心理的特徴を学び、家族を含めた看護を学ぶ。その上で妊・産婦の看護に必要な看護技術について学習する。正常妊産婦を中心に、ハイリスク時の観察と看護についても学ぶ。

「褥婦・新生児の生命の育みを支える看護」

褥婦と新生児の看護に必要な学習をする。産褥期の身体的・心理的・社会的特徴を学び、褥婦を理解した上で看護過程や保健相談の方法を学習する。また、新生児の解剖的・生理的特徴と看護を学ぶ。さらに、母子相互作用を促し絆を深め、褥婦と夫をはじめとする家族が、再編された家族状況に適応し、今後の育児を地域社会の中で円滑に行えるような支援システムについても学ぶ。その上で褥婦・新生児看護に必要な看護技術について学習する。また、正常褥婦・新生児を中心に、正常逸脱時の看護についても学ぶ。妊娠・分娩・産褥は、疾病ではなく生理的現象であるが、正常に経過するように援助するには、生理的な経過を逸脱していないかの判断や合併症の早期発見のため、疾病についての知識を必要とする。そのため、既習の主な疾病の病態生理と治療についての知識を活用し、ハイリスク状態にある人の生活を支える看護について学ぶ。新生児期は、胎外生活に適応する過程で異常が発症しやすい対象である。新生児の異常については小児看護学の対象となるが、出生直後や早期新生児にみられ、一般的に周産期病棟で治療・看護される異常について学ぶ。

「生命の育みを支える看護の展開」

母性看護の特徴であるウェルネス志向について学び、正常な経過をたどる褥婦ならびに正常逸脱時の事例についても学習する。新たな家族が誕生し、家族も含め、想定していた役割変化が現実となる中、母児の心身の変化を踏まえながら、地域社会の中で健やかに家族が生活を営むための援助の視点についても学ぶ。

【目的】

性の側面を踏まえて、総合的に人間を捉えるとともに、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人とその家族の看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ。

【目標】

1. 母性看護の概念とその基盤となる社会の動向を理解できる。
2. 母性看護の対象となる人のライフサイクル各期の特徴と看護を理解できる。
3. 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人の特徴と看護を理解できる。
4. 周産期にある人や母性看護の対象者への看護実践の基盤を身につける。
5. 様々な場や状況にある母性看護の対象が地域社会において、より良く適応するための支援システムについて考えられる。

【構成および計画】

<講義>

授業科目	単位数	履修時期		
		1年	2年	3年
母性看護学概論	1	○		
妊婦・産婦の生命の育みを支える看護	1		○	
褥婦・新生児の生命の育みを支える看護	1		○	
生命の育みを支える看護の展開	1		○	
計	4	1	3	0

授業計画

科目名	母性看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次	
科目 目標	1. 母性看護の基盤となる概念と母子保健の動向・関係法規について理解する。 2. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題と看護について理解する。						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>			
第 1 回	母性看護の概念	母性、父性・親性の概念と定義 家族機能・家族の定義 母性看護におけるウェルネスの考え方 女性を中心としたケア、家族を中心としたケア	講義	専任教員*			
第 2 回	人間の性	人間の性 性の多様性 セクシュアリティ (セックス、ジェンダー)	講義	専任教員*			
第 3 回	母性看護の倫理	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ヘルスプロモーション 性と生殖に関する倫理的課題	講義	専任教員*			
第 4 回		母性看護における倫理	講義	専任教員*			
第 5 回	母子保健の動向	母性看護の歴史的変遷 母子保健統計 (世界・日本)	講義	専任教員*			
第 6 回		母性看護に関する法律 母子保健施策 *子育て世代包括支援システム 成育基本法	講義	専任教員*			
第 7 回		国際化と母性看護 現代社会と今後の日本の展望	講義	専任教員*			
第 8 回		家族と地域社会の関係性 地域ケア体制づくり、地域ケアシステム チーム医療、多職種連携、訪問看護 助産所の活動	講義	外部講師* 保健師			
第 9 回		ライフサイクル 各期の特徴と看護	女性のライフサイクルの連続性と家族 現代女性のライフサイクル 母性看護における対象把握の視点	講義	専任教員*		
第 10 回			思春期の特徴 身体的特徴・第二次性徴 心理的・社会的特徴と家族	講義	専任教員*		
第 11 回			思春期の健康問題と看護 月経異常、性感染症・人工妊娠中絶 性教育・避妊・性感染症予防	講義	専任教員*		
第 12 回	成熟期の特徴 身体的・心理的・社会的特徴 (家族役割含む)		講義	専任教員*			
第 13 回	成熟期の健康問題と看護 不妊症、不育症、女性生殖器疾患 家族計画・受胎調節法		講義	専任教員*			
第 14 回	更年期・老年期の健康問題と看護 身体的・心理的・社会的特徴 (家族役割含む) 更年期障害 性ホルモン分泌低下に伴う疾患と看護		講義	専任教員*			
第 15 回	評価				専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 国民衛生の動向			評価 方法	筆記・ レポート等		
備考							

授業計画

科目名	妊婦・産婦の ^{いのち} 生命の育みを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 妊娠経過と看護について理解する。 2. 分娩経過と看護について理解する。 3. ハイリスク状態にある妊産婦の看護について理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	妊婦の看護	妊娠の生理 胎児の発育とその生理	講義	専任教員*		
第 2 回		妊婦の生理的变化 妊婦・家族の心理的・社会的 変化と適応	講義	専任教員*		
第 3 回		妊婦の健康管理・セルフケア支援 症状に合わせた日常生活援助	講義	専任教員*		
第 4 回		出産・育児準備への支援 親・家族役割準備への支援（切れ目ない支援）	講義	専任教員*		
第 5 回		妊婦の健康診査(レオポルド触診法、胎児心音聴取) 妊婦疑似体験	校内 実習	専任教員*		
第 6 回	産婦の看護	分娩の経過 産婦の生理的变化 産婦・家族の 心理的・社会的状態	講義	専任教員*		
第 7 回		産婦と胎児の健康管理 分娩各期の看護	講義	専任教員*		
第 8 回		分娩各期の看護	講義	専任教員*		
第 9 回		産痛緩和、分娩時の呼吸法 早期母児接触	校内 実習	専任教員*		
第 10 回		母親役割獲得にむけた看護、出産体験の振り返り と統合への看護 産婦の安全	講義	専任教員*		
第 11 回	ハイリスク状態 にある妊婦・産 婦の看護	<安静・観察が主に必要な人の看護> 切迫流産、切迫早産 前置胎盤	講義	外部講師*		
第 12 回		<積極的な治療が必要な人の看護> 妊娠期の感染症 妊娠悪阻 妊娠貧血 糖代謝 異常妊娠 妊娠高血圧症候群 前期破水 胎児機能不全 陣痛異常（微弱陣痛・過強陣痛）	講義	外部講師*		
第 13 回		<緊急処置が必要な人の看護>吸引分娩、帝王 切開術 産科出血 常位胎盤早期剥離 出産体 験を肯定的に受け止めるための看護 母児分離 を余儀なくされた対象者及び家族の看護	講義	外部講師*		
第 14 回		妊婦体操・マタニティピクス 妊娠中の姿勢の変化、体重の変動 体力を維持増進することや運動を推進する意義	校内 実習	外部講師*		
第 15 回	評価			専任教員* 外部講師*		
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 マタニティ診断ガイドブック		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	褥婦・新生児の ^{いのち} の育みを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 産褥経過と看護について理解する。 2. 新生児の経過と看護について理解する。 3. 褥婦・新生児の看護における安全について理解する。 4. 施設退院後の家族の看護について理解する。 5. ハイリスク状態にある褥婦・新生児の看護について理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	褥婦の看護	産褥の経過 褥婦と家族の心理 母児の愛着形成過程	講義	専任教員*		
第 2 回		褥婦のセルフケア セルフマネジメント教育 患者教育・健康教育	講義	専任教員*		
第 3 回		家族を含めた対象者中心の看護、家族への看護 家族の役割適応とセルフケア能力	講義	専任教員*		
第 4 回		褥婦の安全 ライフスタイルに合わせた日常生活援助	講義	専任教員*		
第 5 回	ハイリスク状態にある褥婦の看護	治療的な援助が必要な褥婦の看護 産後精神障害 子宮復古不全 産褥期の発熱(産褥熱、乳腺炎) 児を亡くした褥婦・家族への看護	講義	専任教員*		
第 6 回	新生児の看護	新生児の生理的变化	講義	専任教員*		
第 7 回		養育するための観察・援助 (栄養・排泄・清潔・母児関係)	講義	専任教員*		
第 8 回		新生児の安全 新生児の検査	講義	専任教員*		
第 9 回	ハイリスク状態にある新生児の看護	治療的な援助が必要な新生児の看護 高ビリルビン血症 新生児仮死 新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症	講義	専任教員*		
第 10 回	褥婦の看護技術	褥婦の全身観察 フィジカルアセスメント 授乳	演習	専任教員*		
第 11 回		褥婦の全身観察 フィジカルアセスメント 授乳	校内 実習			
第 12 回	新生児の看護技術	新生児の全身観察 フィジカルアセスメント 新生児の沐浴	校内 実習	専任教員*		
第 13 回		新生児の全身観察 フィジカルアセスメント 新生児の沐浴	演習			
第 14 回	地域における母性看護	地域の母性看護の活動 (助産所の活動)	講義	助産院		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 マタニティ診断ガイドブック		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	いのちの育みを支える看護の展開		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 正常な妊婦・褥婦の看護展開について理解する。 2. ハイリスク状況にある褥婦・新生児の看護展開について理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	正常な経過の妊婦・褥婦の看護展開	母性看護における看護過程の特徴 ウェルネス型看護診断	講義	専任教員*		
第 2 回		case learning① 妊婦の看護	演習	専任教員*		
第 3 回		case learning② 褥婦・新生児の看護 情報収集 アセスメント * 褥婦及び家族の役割適応含む	演習	専任教員*		
第 4 回		case learning③ 褥婦・新生児の看護 マタニティ診断 介入計画の立案 * 退院後家族再編時の適応促進視点含む	演習	専任教員*		
第 5 回		case learning④ 褥婦・新生児の看護 実施 評価	演習	専任教員*		
第 6 回	ハイリスク状態にある褥婦・新生児の看護展開	case learning：帝王切開術を受けた褥婦・新生児の看護	講義 演習	専任教員*		
第 7 回		case learning：死産に至った褥婦・家族の看護 case learning：母児分離状態の褥婦・家族の看護 * グリーフケアを含む	講義 演習	専任教員*		
第 8 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 マタニティ診断ガイドブック					
備考						

精神看護学

精神看護学

【科目構成とねらい】

わが国では、少子高齢化、情報化、グローバル化の進展等を背景に、精神保健の充実が求められている。現代社会は、高度な情報化や価値の多様化により、人々の生活に便利さをもたらすと同時に、精神的ストレスに満ちた状況にある。精神障害は、誰にでも生じる可能性のある身近な障害で、(厚生労働省.2004)、生きにくさを抱えながら生活している人々が増えている。

施策としては、大地震や豪雨等の自然災害や、人偽的災害を受けた人々に対して、こころのケアを提供する体制も推進されている(厚生労働省.2014)。また、自殺対策基本法(2016年)に基づき、様々な自殺対策に取り組みが行われている。多様なニーズを抱える社会において、誰もが安心して暮らせる社会を作るために、精神障害への理解と精神保健の充実を図るための取り組みが行われており、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指すことが示されている(厚生労働省.2017)。

精神看護学では、精神に障害があり生きている人の理解を深め、その人らしく生きるための支援と、現代の人々が抱える精神的課題に対する支援や普及啓発を行うために必要な知識と技術を学習する。

「精神看護学概論」

精神看護の目的と対象を理解するため、精神の健康とその障害について学習する。また、精神保健福祉の歴史を概観し、精神に障害がある人の権利擁護、及び精神保健福祉の現状と課題、法律について学習する。

「精神に障害がある人を支える看護の基本」

精神に障害のある人が疾患の影響を受け、医療及び保護が必要な状況に対して安全と安楽を提供するために必要な看護について学習する。また、精神に障害のある人との関係構築に必要な治療的コミュニケーション技術や再構成による自己洞察についても学習する。

「精神の障害とともに生きるを支える看護」

様々な精神疾患により生じる影響を踏まえて、障害とともにその人らしく生きることを支えるために必要な看護について学習する。精神の障害とともに生きる人の感じる生きにくさを理解し、他者や社会とのつながりを回復し、自分らしい生活様式や生活行動を送るために必要な看護について学習する。

「精神の障害とともに地域で暮らすを支える看護」

精神に障害のある人が、その人らしく地域で生活を送るために必要な社会資源やサービス、精神に障害のある人を支える医療チーム(多職種)との連携について学習する。その人らしく暮らすことに重要な自己決定支援についても学習する。障害がありながら地域で生活する人や支援の実際について、演習を通して理解を深める。

【目的】

精神の健康の保持・増進、精神に障害がありながらその人らしく生きるための支援に必要な基礎的能力を養う。

【目標】

1. 精神の機能と発達、精神的健康の保持増進の支援に必要な基礎知識を理解する。
2. 精神の障害が、その人らしく生きることに与える影響と回復過程を理解する。
3. 精神に障害があり医療や保護を受け生きている場における看護技術を理解する。
4. 精神の障害とともにその人らしく生きるために、暮らしを支える資源とケアマネジメントを理解する。
5. 精神の障害とともにその人らしく生きるための自己決定を支え、多職種との連携が考えられる。
6. 精神保健医療福祉の変遷と今後の課題を学び、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割が考えられる。

【構成および計画】

<講義>

科目	単位数	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
精神看護学概論	1	○		
精神に障害がある人を支える看護の基本	1		○	
精神の障害とともに生きるを支える看護	1		○	
精神の障害とともに地域で暮らすを支える看護	1		○	
計	4	1	3	0

授業計画

科目名	精神看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. その人らしく生きるための精神看護の目的と意義、精神的健康の概念を理解する。 2. ライフサイクルや社会の動向における精神保健と危機状況を理解する。 3. 精神保健福祉の変遷を踏まえ、精神に障害のある人がその人らしく生きるための社会 復帰や地域に必要な社会制度を理解する。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>	
第 1 回	精神看護の目的・対象、役割と機能	精神看護の考え方 現代社会における精神保健（災害や自殺など） 精神看護と精神科看護、目的・対象		講義	専任教員*	
第 2 回		精神の健康 精神の健康の定義（WHO）、問題と強み 脳の基本的構造と精神の機能 精神障害と国際生活機能分類		講義	専任教員*	
第 3 回		精神看護の理論 ゴールマン、フロイト、エリクソン マラー、危機理論（自我の防衛機制含む） カプランの3つの予防概念		講義	専任教員*	
第 4 回	ライフサイクルにおける危機管理	発達段階における危機状況 胎児期、乳幼児期、学童期、思春期、青年期 成人期、中年期、老年期の危機状況		講義	専任教員*	
第 5 回		暮らしの場での危機状況 家庭、学校、職場、社会生活		演習	専任教員*	
第 6 回		在宅医療・通院医療 災害によるストレス 適応障害など		講義	専任教員*	
第 7 回		災害による影響 強いストレスの影響（ASD,PTSD） 被災者と災害救援者の精神保健		講義	専任教員*	
第 8 回	リエゾン精神看護	身体疾患のある人の精神の健康 リエゾン精神看護とその活動		講義	専任教員*	
第 9 回	精神保健福祉の変遷と活動	精神保健医療福祉の歴史 欧米と日本の歴史		講義	専任教員*	
第 10 回		精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 精神障害者の権利を保障する法律、意義 精神科看護に関連する法制度		講義	専任教員*	
第 11 回		精神科の治療（処遇）と人権擁護 薬物療法、精神療法 環境療法、社会療法（作業療法など）		講義	専任教員*	
第 12 回		チーム医療における多職種連携の精神保健福祉 施設の実際の見学		演習	専任教員*	
第 13 回		精神保健福祉における看護師の役割と課題 多職種連携、地域継続支援、外来看護 地域精神保健活動の現状と課題 精神保健医療に関する資源の活用と調整 地域調査の課題学習の発表		講義 演習	専任教員*	
第 14 回		地域包括ケアシステムを支える看護師の課題 長期入院者の地域移行における現状と課題		講義	専任教員*	
第 15 回	評価				専任教員*	
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ	精神看護学〔1〕	精神看護の基礎	医学書院	評価 方法	筆記・ レポート等
	専門分野Ⅱ	精神看護学〔2〕	精神看護の展開	医学書院		
備考						

授業計画

科目名	精神に障害がある人を支える看護の基本		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 精神に障害がある人との関係の構築・発展のための技術を理解する。 2. 精神に障害があり医療や保護を受ける場を理解する。 3. 精神に障害があり医療及び保護を受ける場での必要な看護を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	精神障害と生活	精神障害の生活への影響 生活機能・対人関係、社会参加への影響	講義	専任教員*		
第 2 回	患者－看護師 関係の構築	対象理解と関係を構築するコミュニケーション 技術 対象を理解するコミュニケーション技術 症状に合わせたコミュニケーション技術	講義	専任教員*		
第 3 回		再構成カンファレンス 自己洞察	講義 演習	専任教員*		
第 4 回		精神に障害がある人との関係性のアセスメント 再構成の目的、意義、方法 患者－看護師関係のアセスメント	講義	専任教員*		
第 5 回		意図的・治療的コミュニケーション	校内 実習	専任教員*		
第 6 回		精神科医療に 必要な看護	精神科医療の治療的環境 医療及び保護を受ける場と看護師役割	講義	専任教員*	
第 7 回	精神に障害がある人への検査・治療と看護 薬物療法		講義	専任教員*		
第 8 回	電気けいれん療法、精神療法 精神科リハビリテーション療法		講義	専任教員*		
第 9 回	安全を守る看護	精神科リスクマネジメント 精神科のリスクとマネジメント 安全を守る観察とアセスメント	講義	専任教員*		
第 10 回		観察とアセスメントの実際(演習)	講義 演習	専任教員*		
第 11 回	行動の制限と 看護	日常生活での行動の制限と看護 危険物、私物管理時の看護 外出、外泊、面会、通信時の看護	講義	専任教員*		
第 12 回		隔離・身体拘束時の看護 隔離室の治療的環境と合併症 case learning：隔離、身体拘束の看護	講義	専任教員*		
第 13 回	緊急事態に 対する看護	自殺・暴力のリスクマネジメント 自殺、暴力の発動プロセスとアセスメント 自殺・暴力防止への関わり	講義	外部講師*		
第 14 回		無断離院の危険と法的責任 精神に障害がある人への災害時心理と支援 緊急事態発生後のスタッフへのサポート	講義	外部講師*		
第 15 回	評価			専任教員* 外部講師*		
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ	精神看護学〔1〕精神看護の基礎 精神看護学〔2〕精神看護の展開	医学書院 医学書院	評価 方法	筆記・ レポート等	
備考						

授業計画

科目名	精神の障害とともに生きるを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 精神の障害とともにその人らしく生きるための看護の基本を理解する。 2. 精神の障害による影響を踏まえその人らしさを支える看護の実際を考える。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	精神の障害とともに生きる人の アセスメント	精神機能の障害の観察とアセスメント 精神障害が社会生活に与える影響 強み・対象者と援助者の認識の一致	講義 演習	専任教員*		
第 2 回	障害とともに生きる人への看護	統合失調症のある人への看護 case learning： 幻覚・妄想、精神運動興奮のある人への支援 意欲低下や遂行能力の障害のある人への支援	講義 演習	専任教員*		
第 3 回		気分障害のある人への看護 case learning： うつ状態のある人への支援 そう状態のある人への支援	講義 演習	専任教員*		
第 4 回		精神作用物質使用による精神・行動の障害のある人への看護 case learning：依存への支援	講義 演習	専任教員*		
第 5 回		パーソナリティ障害のある人への看護 case learning：社会的逸脱への支援	講義 演習	専任教員*		
第 6 回		神経症性障害のある人への看護 case learning：不安への支援、物理的に障害がない身体症状の訴えへの支援	講義 演習	専任教員*		
第 7 回		てんかんのある人への看護 case learning：発作誘発を防ぐ支援	講義 演習	専任教員*		
第 8 回		小児期に特徴的な精神の障害への看護 case learning：発達障害、対人関係、コミュニケーション、社会性に障害への支援	講義 演習	外部講師*		
第 9 回		精神科に入院する認知症の人への看護 case learning：行動・心理症状(BPSD)による易怒性や疎通の不良への支援	講義 演習	専任教員*		
第 10 回		身体疾患に由来する精神症状のある人への看護 慢性疾患のある精神に障害のある人への看護 末期にある精神に障害のある人への看護 case learning：身体合併症の管理への支援	講義 演習	専任教員*		
第 11 回		精神に障害のある人とともに暮らす家族への看護	精神に障害のある人とともに暮らす家族への看護 case learning：家族としての苦悩への支援、 親亡き後の子どもの将来への不安に対する支援、 家族の強みを生かした地域生活の支援	講義 演習	専任教員*	
第 12 回	その人らしさを支える看護	case learning： のぞみと強みをいかした支援 退院後の地域生活を支える為に必要な支援 ライフストーリーを踏まえた看護	講義 演習	専任教員*		
第 13 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考	※「統合失調症のある人への看護」の case learning で看護の展開を行う。					

授業計画

科目名	精神の障害とともに地域で暮らすを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 精神の障害とともにその人らしく生きるために、暮らしを支える資源とケアマネジメントを理解する。 2. 精神の障害とともにその人らしく生きるための自己決定を支える支援、多職種との連携を理解する。 3. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	地域で暮らすための社会資源と地域包括ケアシステム	精神に障害がある人の特性とその人らしい暮らしを支援する地域包括ケアシステム 精神に障害がある人の特性 独特の感受性の高さによる生きにくさ 地域包括ケアシステムの概要と考え方 社会資源の活用を支える支援体制	講義	専任教員*		
第 2 回		地域の暮らしと社会資源の活用 生活支援、就労支援 障害者施設と地域住民ボランティア 地域住民との交流、看護学生との交流 多職種・多組織チーム (MDT) 対象を中心にした地域における他職種連携 医療における多職種連携	講義	専任教員*		
第 3 回		対象と家族の個別性と強みを活かす支援 対象の持つストレス (強み) に着目した支援方法 ICF モデルの考え方 対象と家族を支援するピアグループの活用	講義	専任教員*		
第 4 回		地域で暮らすための支援 病院から地域への生活移行のための家族等への連絡調整と生活のための費用、住居の確保 社会参加と精神症状に適切に早期介入するためのシステム	講義	専任教員* 外部講師* 精神事業所		
第 5 回	地域で暮らすためのサポート体制と自己決定支援	対象のサポート体制 パートナーであるコミュニティと多職種連携 自己決定 (エンパワメント) 支援	講義	専任教員*		
第 6 回	地域で暮らすための支援の実際	case learning① 緊急入院から社会復帰に向けた支援	演習	専任教員*		
第 7 回		case learning② 入退院を繰り返す人への支援 地域で生活する人への支援	演習	専任教員*		
第 8 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護の展開 医学書院 【参考文献】 ストレングスモデル実践活用術 萱間真美 医学書院 2018 退院支援ビギナーズノート全訂新版 末安民生 2015		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

看護の統合と実践

看護の統合と実践

【科目構成とねらい】

「看護の統合と実践」は、看護職を目指すものとしての自覚をもち、在学中だけでなく卒業後も自己研鑽に努め、常に新たな知識・技術を身につけるための基礎的能力を養うための科目である。

卒業後、現場にスムーズに適応していけるように、臨地での実践に近い形で学習することとし、知識・技術を統合する内容とする。

具体的には、専門職としてのキャリア形成について早い時期から自律的に取り組むことができるようになること、そして、組織における看護師の役割を理解するとともに、チーム医療及び多職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する、看護管理、医療安全の基礎的知識を修得する、災害発生直後から継続して支援できる看護の基礎的知識について理解する、国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができる、等の看護実践力を高めるための内容について学習する。また、さらにそれぞれの地域特性について知見を深め、東京都及び各地域に貢献しうる看護師としての学びを深める。

「看護マネジメントとキャリア論」

この科目では生涯にわたり学びつづけるための基礎的な知識と態度を養う。看護の基礎教育では、チームの一員としての看護師の役割を理解し、行動できることが求められる。専門職として自ら成長するために必要な知識を学びながら「考える力」「構成する力」を養う。

看護マネジメントとキャリア論Ⅰでは、社会に期待される看護職になるために自己のキャリアについて考え、自己の考えを他者に論理的に伝えられる力を養う。

看護マネジメントとキャリア論Ⅱでは病院や施設における組織について学び、病院や看護の理念に基づき、患者満足と従業員満足を高める環境づくりの考え方や、“看護サービスの管理”について理解を深める学習をする。また、チーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップの発揮や多職種との連携・協働について学ぶとともに、看護師が、医療チームの一員としてのマネジメント、業務遂行のためのマネジメント、看護師自身のマネジメントができるような内容で学習する。医療・看護が目指すべき姿を常に考え、自身の看護を振り返る習慣を身につけることで強化していく。また専門看護師、認定看護師といったより専門性の高い看護職の役割などを学ぶことで、生涯学び続ける態度を養う。

「医療安全と看護」

医療・看護におけるアクシデントでは、患者の生命に直接影響する薬物に関することが多い。そのため、診療補助技術として、臨床の場で求められる一定水準の注射技術等を安全で確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を習得する。医療安全の基礎的な考え方を理解するとともに、安全な医療の提供のための医療機器の安全な取り扱いや、医療システムの中での安全を図るための、実践的な演習を行い学習する。

「災害看護・国際看護」

近年、地球温暖化に伴う気候変動などの影響もあり、洪水や土砂災害など災害の発生頻度や規模が拡大し、被害も増大傾向にある。そのため、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、役割を発揮していくことが求められている。「災害看護」では、災害時におけるチーム医療の中での看護師の役割を理解

し、災害発生から災害サイクル各過程での救護活動および健康を守るための生活支援に必要なスキルを学ぶ。また、演習を通し、都内で起こりうる災害とその救護活動の実際について理解を深める。

「国際看護」では、まず世界の健康問題の現状や課題を、演習を通し把握する。そのうえで、国・地域・民族による生活習慣、保健行動の多様性を理解し、看護の国際貢献についての基礎的な理解を深めるための学習をする。

「臨床看護の実践」

医療技術の高度化が進む中、看護に求められる診療補助技術も高度化している。高度医療を受ける患者は、ハイリスク下にあり、その看護を実践する看護師の業務は、複雑で多岐にわたることが多く、その時々で臨床判断を求められる。そのため、専門基礎分野で学んだ内容や専門分野で学んだ各看護学の内容をもとに、看護実践を段階的に学ぶ内容とする。しかし、臨床のようなハイリスク環境下での学習には限界がある。新人看護師が基礎教育とのギャップで離職している状況も少なくないため、基礎教育期間に、ハイリスク環境下における看護がイメージでき、研鑽できることが望ましい。そこで、臨床の場で求められる注射技術や採血技術等を安全に、かつ確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を習得する。さらに、複数患者への援助を実施する上で、総合的な状況判断や対応の基本を学ぶための学習をする。

「地域特性と看護」

これからの地域包括ケア・地域共生社会の実現のためには、多様な場で暮らす、様々なライフステージ・健康レベルにある対象の健康や生活を守る保健・医療・福祉の連携した提供が求められている。看護師は、特に対象者を生活と医療の側面で支援するチームの要としての役割を求められている。本校は、東京都内に質の高い看護師を輩出することを使命とした看護師単科の養成機関であり、他職種との関わりは、臨地実習を学習の機会としていた。「地域特性と看護」においては、多摩地域にある医療職他学科学生と協働学習を行うことを通して、互いの専門性・志向性を深く理解し、職種の特性を活かしたケアについて考えることで多職種連携の重要性と医療者の役割について学修する。

【目的】

看護に求められる社会的ニーズを理解し、個人と集団と社会に対し、適切な看護を提供できるよう、既習学習の知識と技術を統合して、実践できる能力を養う。

【目標】

1. 組織の中での看護師の役割を理解し、看護マネジメントの基礎的知識を習得する。
2. 災害医療・災害看護についての基礎的知識を習得する。
3. 国際社会での諸外国との協力について考える。
4. 安全な医療の提供に向けて、対象に合わせた適切な診療の補助技術を習得する。
5. 複合課題を通して、知識・技術の統合と総合的な判断を学び、臨床実践能力を養う。
6. 将来の自身のキャリア像を描き、看護の質向上を目指し、自己研鑽する態度を養う。
7. 多摩地域にある医療職他学科学生と協働学習を行い、互いの専門性・志向性を理解し、職種の特性を活かしたケアについて考えることで、多職種連携の重要性と医療者の役割について学修する。

【構成および計画】

<講義>

科目	単位数	時期		
		1年	2年	3年
看護マネジメントとキャリア論Ⅰ	1	○		
看護マネジメントとキャリア論Ⅱ	1			○
医療安全と看護Ⅰ	1	○		
医療安全と看護Ⅱ	1		○	
災害看護・国際看護	1			○
臨床看護の実践	1			○
地域特性と看護	1			○
計	7	2	1	4

授業計画

科目名	看護マネジメントとキャリア論 I		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 社会に期待される看護職になるために将来の自己のキャリアについて考える。 2. 自己の考えを他者に論理的に伝えられる。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護師養成教育の歴史とその特徴	専門職としての看護師養成教育 看護師養成教育の歴史と変遷 都立看護専門学校の特徴から教育課程を知る	講義	専任教員*		
第 2 回	看護師におけるキャリアとは	キャリアとは何か キャリアという概念の理解 社会の変化と看護師としてのキャリア 今後、看護師にはどのようなキャリアが求められるのか	講義	外部講師*		
第 3 回	学び続けること～生涯学習の必要性	看護専門職と生涯学習 生涯学習とは～学び続けることの必要性 看護師としての成長 (パトリシア・ベナーの看護師の成長 5 段階モデル) 自己研鑽の意義と継続教育	講義	外部講師*		
第 4 回	看護師の専門職性とライフイベント	看護の専門職性とは プロフェッショナリズムとプロフェッション フッド 専門性の高い看護師とは 認定看護師・専門看護師 広がる看護師の活動領域 ライフイベントと看護師のキャリア	講義	外部講師*		
第 5 回	自分のキャリアプランを考える ①	なりたい自分を考えよう 看護師を志した自分を振り返る ライフイベントとキャリア 看護職としての経験とキャリア	演習	外部講師*		
第 6 回	自分のキャリアプランを考える ②	自分のキャリアプランを考える キャリアプランノートを作ろう 自分の性格や特徴をつかもう	演習	外部講師*		
第 7 回	自分のキャリアプランを考える ③	自分のキャリアプランを発表する	演習	外部講師*		
第 8 回	評価	「ギャザリアデザインの基本的考え方と強みを活かすこれからの私のキャリア」		外部講師*		
テキスト 参考図書	テキスト：看護師のためのキャリアデザイン BOOK つちや書店 看護学生のための ACP ワークブック メヂカルフレンド社		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	看護マネジメントとキャリア論Ⅱ		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	1. 看護管理についての基礎的知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解する。 2. 看護の専門性を磨き、看護という職業世界で自己を成長させる方法を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	医療における看護管理	看護管理とは 病院組織 看護部門の組織構造と看護プロセス 看護管理	講義	外部講師*		
第 2 回	組織の中の看護と経営	組織としての看護 看護業務基準・手順 看護と経営	講義	外部講師*		
第 3 回	組織とマネジメント	組織とマネジメント マネジメントとは リーダーシップとメンバーシップ チーム医療と多職種との協働	講義	外部講師*		
第 4 回	看護の質向上	看護サービス管理 入院基本料・看護必要度 看護の質の評価 医療・看護の質改善に向けた取り組み	講義	外部講師*		
第 5 回	看護職の健康管理	働きやすい職場環境 組織の健康管理と看護者自身の健康管理 ワークライフバランスと看護 離職の原因と対応策	講義	外部講師*		
第 6 回	医療の高度化と人材育成	新人看護師研修制度とキャリアラダー ジェネラリストとスペシャリスト 専門看護師・認定看護師・認定管理者・特定 行為に係る看護師の研修制度	講義	外部講師*		
第 7 回	感染管理とリスクマネジメント	感染管理とリスクマネジメント 模擬感染病棟の作成	講義 演習	外部講師*		
第 8 回	評価			外部講師*		
テキスト 参考図書	ナーシンググラフィカ「看護管理」メディカ出版		評価 方法	筆記等		
備考						

授業計画

科目名	医療安全と看護 I		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 医療安全についての基礎的知識を習得する。 2. 感染予防の必要性と方法について基礎知識を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	医療安全の確保	医療における安全の重要性 安全の意義 看護の対象者の特徴 ヒューマンエラー 安全における看護の役割	講義	専任教員*		
第 2 回	安全な医療環境	感染成立の条件 生体の防御機構 (自然免疫・獲得免疫) 感染源、感染経路、宿主 標準予防策 (スタンダードプリコーション)	講義	専任教員*		
第 3 回	感染予防の実際	衛生学的手洗い	校内 実習	専任教員*		
第 4 回	安全な医療環境	安全を守るための基本 転倒・転落防止 療養環境における危険防止 個人情報管理 事故事例の収集と分析	講義 演習	専任教員*		
第 5 回		感染経路別対策 洗浄・消毒・滅菌 無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い	講義	専任教員*		
第 6 回 第 7 回	感染予防の実際	無菌操作 個人防護具の着脱 滅菌手袋の装着	校内 実習	専任教員*		
第 8 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	系統看護学講座専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア		評価 方法	筆記等		
備考						

授業計画

科目名	医療安全と看護Ⅱ		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 安全な医療の提供のため医療機器の適切な取り扱いを習得する。 2. 臨地実習における事故防止と安全管理を学ぶ。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	看護学生の実習 における安全	実習における事故の法的責任と補償 実習中の事故予防及び事故発生時の対応 習得すべき看護技術のリスクと安全 実習中における安全についての指導者の役割 予防と事故発生時の対応	講義	専任教員*		
第 2 回	チューブの安全 な管理	チューブを挿入している人の事故防止の実際	講義	専任教員*		
第 3 回		チューブを挿入している人の事故防止の実際	校内 実習	専任教員*		
第 4 回	輸液ポンプ・シ リンジポンプの 安全な取り扱い	輸液ポンプ・シリンジポンプを使用している人 の看護	講義	専任教員*		
第 5 回		安全で確実な注射業務の実施方法 注射業務実施中のトラブルと対処方法	校内 実習	専任教員*		
第 6 回		輸液ポンプ・シリンジポンプの正しい取り扱い 輸液セット・三方活栓の接続 三方活栓の取り扱い 輸液ポンプ・シリンジポンプの設定 ポンプ使用時の事故防止・ フリーフロー ・サイフォニング現象 輸液ポンプ・シリンジポンプのアラームの対 処方法	校内 実習	専任教員* 外部講師		
第 7 回		実習中に発生した事故事例の分析	演習	専任教員*		
第 8 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	医療安全ワークブック 医学書院 系統看護学講座 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	災害看護・国際看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	3 年次
科目 目標	1. 災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を習得する。 2. 国際看護に関する基礎的知識を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	災害看護の理解	災害の種類と被害の特徴 災害時の支援体制、医療体制 災害対応にかかる職員間・組織間連携	講義	外部講師*		
第 2 回	災害看護の基礎	災害看護の特徴と看護の役割 災害医療対応の基本：CSCATTT 災害と法制度	講義	外部講師*		
第 3 回	災害サイクルに 応じた看護	災害各期の看護 超急性期・急性期(クラッシュ症候群)・亜急性期 の看護 慢性期(深部静脈血栓)・復興期・静穏期の看護 被災者の心理とこころのケア 支援者のメンタルヘルス(PTSD)	講義	外部講師*		
第 4 回	災害サイクルに 応じた看護	トリアージと搬送、応急処置	校内 実習 講義	外部講師*		
第 5 回	災害看護の実際	トリアージ、災害対応	校内 実習	外部講師*		
第 6 回						
第 7 回	災害訓練	災害訓練	演習	外部講師*		
第 8 回	居住地の災害対 策	居住地のハザードマップ 居住者の特徴 居住地の災害対策と救護活動	講義 演習	専任教員*		
第 9 回	世界の健康問題 と国際看護	世界の健康の社会的決定要因 貧困 水と保健衛生 感染症 教育	講義 演習	外部講師*		
第 10 回	国際看護	国際看護の歴史 国際看護の基本理念 国際看護の対象 災害・紛争地域 開発途上国に住む人々 在留外国人 在外日本人 帰国日本人	講義	外部講師*		
第 11 回	国際協力	国際協力の仕組み 日本国内の国際化	講義	外部講師*		
第 12 回	異文化理解と看 護活動	文化的存在としての人間の理解 文化を考慮した看護 在留外国人への看護実践	講義	外部講師*		
第 13 回	国際看護活動の 実際	開発途上国における看護の実際 貧困 水と保健衛生 子どもと女性・感染症	講義	外部講師*		
第 14 回		国際救援における看護の実際 災害における救援 難民救済 これからの国際協力の課題	講義	外部講師*		
第 15 回	評価			専任教員* 外部講師*		
テキスト 参考図書	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 医学書院		評価 方法	筆記・ レポート等		
備考						

授業計画

科目名	臨床看護の実践		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	3 年次
科目 目標	1. 医療システムの中での安全を図り、診療の補助技術における事故防止のための知識・技術を習得する。 2. 実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理観を養う。 3. 複数患者への援助を通して、総合的な状況判断や対応の基本を習得する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	診療の補助技術における事故防止	看護業務の特徴と看護事故の構造 注射・輸血における事故事例と事故防止 内服及び処置検査における事故事例と事故防止	講義 演習	専任教員*		
第 2 回	ハイリスク状況における事故防止の実際	ハイリスク状況下での事故防止	講義	専任教員*		
第 3 回		注射処方箋の読み取り・指示確認	校内 実習	専任教員*		
第 4 回						
第 5 回	臨床看護実践の特徴	臨床看護実践の特徴 援助の優先順位を踏まえた複数患者の援助計画 複数患者の情報収集と状況判断	講義	専任教員*		
第 6 回	複数患者の看護実践と状況への対応	二人の患者への援助計画 自己の実践能力に応じた対処方法決定 チームメンバーとの連携	演習	専任教員*		
第 7 回		二人の患者への援助の実施 患者の状態に合った援助 優先順位を考えた行動・段取り	校内 実習	専任教員*		
第 8 回						
第 9 回	多重課題への対応	予期しない事態への対応	講義	専任教員*		
第 10 回		多重課題 予期しない患者の反応 突発的な事態	校内 実習	専任教員*		
第 11 回		時間の切迫 I-SBAR での報告 評価・修正	校内 実習	専任教員*		
第 12 回	安全で確実な採血	採血・針刺し事故防止	講義	専任教員*		
第 13 回		採血の実際①	校内 実習	専任教員*		
第 14 回		採血の実際② (学生同志での実施)	校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価			専任教員*		
テキスト 参考図書	系統看護学講座専門分野 I 基礎看護技術 II 医学書院 医療安全ワークブック 医学書院		評価 方法	筆記 レポート等		
備考						

授業計画

科目名	地域特性と看護 (地域の医療職学生とのコラボレーション学習)		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	3 年次
科目 目標	1. 多職種役割と責務を理解し、多職種間のコミュニケーション能力を身につける。 2. 対象者の目標達成、ケアの質向上に向けて、ともに深く考えることができる。 3. 多職種協働・連携の重要性と医療者の役割について表現できる。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	多職種の役割と責務	保健・医療・福祉に関連する職種の役割と責務 保健・医療・福祉に関する今日的課題 多職種連携の意義	講義	専任教員		
第 2 回	多職種協働、連携 チーム内のコミュニケーション	医療現場における協働、連携の実際 チームワークとは チームワークの種類 チームビルディング	講義	専任教員		
第 3 回	他職種とのケアの検討①	対象者の多職種合同ケースカンファレンス① チーム内コミュニケーションの実際 事例検討	講義 演習	専任教員 外部講師*		
第 4 回		対象者へのケア計画立案	講義 演習	専任教員 外部講師*		
第 5 回	他職種とのケアの検討②	対象者の多職種合同ケースカンファレンス② 発表準備	講義 演習	専任教員 外部講師*		
第 6 回		発表	講義 演習	専任教員 外部講師*		
第 7 回		多職種協働、連携における看護師の役割 ケアの質向上に向けたチームとしての課題と対策	講義	専任教員		
第 8 回	評価			専任教員		
テキスト 参考図書	ナースィング・グラフィカ 看護管理 看護の統合と実践① 系統看護学講座 専門分野 看護学概論 基礎看護学 1		評価 方法	レポート等		
備考	多摩地域にある医療職学生とコラボレーションした協働学習を行い、互いの専門性を理解し、職種の特性を活かしたケアの実際を学修する。					

臨地実習

臨地実習

【ねらい】

臨地実習は、知識・技術・態度を統合し、看護の理論と実践を結び付けて看護の基礎的能力を養うことをねらいとする。看護は、「人々が健康でその人らしく生活することを医療の側面から支えること」であり、支えるとは対象の主体性を尊重し、意思決定できるように関わることや、その人に必要な援助を提供すること」であり、臨地実習での実践を通して基礎的能力を習得する。

臨地実習は、「生活者」として対象を捉えることを軸として科目を設定し、各実習にコアとなる「生活の概念」を明示した。また、臨地実習の構成は、「4つの力」を段階的に強化できるよう配置した。実習時期に応じて「4つの力」のうちコアとすべき力を各看護学の実習と関連させて明示した。

以上を踏まえ、臨地実習を「看護の基礎実習Ⅰ」「看護の基礎実習Ⅱ」「その人らしさを考える看護実習」「地域での暮らしを支える看護実習」「その人らしさを支える看護実習Ⅰ～Ⅳ」「成長発達を支える看護実習」「生命の育みを支える看護実習」「看護の統合実習」の11科目23単位に設定した。

【目的】

看護の実践を通し、知識・技術・態度を統合し、「人間に対する深い理解」「切れ目のない看護実践」「専門職としての倫理観」「対人関係能力」「多職種との協働」を行うための基礎的能力を養うことを目的とする。

【目標】

1. 対象の価値観や人生観を尊重し、健康でその人らしい生活を支えるための基礎的能力を身につける。
2. 対象の状況を的確に判断し、継続的な視点を持って必要な看護を実践するための基礎的能力を身につける。
3. 対象の尊厳を守り、権利を擁護し、看護専門職として倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。
4. 他者を理解する感性を磨き、対象と関わり合える人間関係能力を身につける。
5. 施設や地域で切れ目のない看護の実現に向けて、保健・医療・福祉におけるチームの一員として多職種と協働できる基礎的能力を身につける。
6. よりよい看護の実践を目指し、自ら学び続ける能力を身につける。

【科目構成とねらい】

科目	ねらい	[4つの力]のコア部分	[生活の概念]のコア部分	看護学領域	単位	時期
看護の基礎実習Ⅰ	看護の対象となる人を取り巻く環境と看護活動を理解し、「感じ取る力」を育み看護について理解を深める。	「感じ取る力」を育む実習	「生きていく」を理解する実習	基礎看護学	1	1年次
看護の基礎実習Ⅱ	健康障害を持つ人の「生きていく」を理解し、日常生活の援助を通して、状態に応じた看護の技術と方法の基礎を習得する。	「感じ取る力」を育む実習	「生きていく」を理解する実習	基礎看護学	3	1年次
地域での暮らしを支える看護実習	看護専門学校が置かれた地域の実情に合わせ、地域包括ケアシステムにおける看護の多様性と継続性を学び、ケアマネジメントや多職種連携を体験する中で「表現（具現化）する力」を育む。	「表現（具現化）する力」を育む実習	「生きていく」・「暮らす」を支える実習	地域・在宅看護論	2	2～3年次
その人らしさを考える看護実習	成人・老年期にある人の発達課題と生活上のニーズを理解し、看護過程のプロセスを用いて、援助の実際を学び、その人らしく生活するために必要な看護を考える。	「考え構成する力」を育む実習	「生きていく」を支える実習	成人・老年看護学	2	2年次
その人らしさを支える看護実習Ⅰ	成人・老年期にある生命活動が脅かされた状態にある人を理解し、「生きている」「生きていく」を支える看護（周術期・救急・集中治療下の看護）の実際を学ぶ。	「表現（具現化）する力」を育む実習	「生きている」「生きていく」を支える実習	成人・老年看護学	2	2～3年次
その人らしさを支える看護実習Ⅱ	成人・老年期にある健康維持及び生活行動の営みが困難となった人が、自立・自律して「生きていく」あるいは「暮らす」を支えるための援助の実際を学ぶ。	「表現（具現化）する力」を育む実習	「生きていく」・「暮らす」を支える実習	成人・老年看護学	2	2～3年次
その人らしさを支える看護実習Ⅲ	成人・老年期にあるエンド・オブ・ライフ・ケアが必要な人とその家族を理解し、「その人らしく生きる」こと考え、それを支えるために必要な看護の実際を学ぶ。	「表現（具現化）する力」を育む実習	「その人らしく生きる」を支える実習	成人・老年看護学	2	2～3年次
その人らしさを支える看護実習Ⅳ	精神に障害があり医療及び保護が必要な場で生きる人、地域において暮らす人との関わりを通し、その人らしい生活を支える看護、社会資源や支援の実際を学ぶ。	「表現（具現化）する力」を育む実習	「その人らしく生きる」を支える実習	精神看護学	2	2～3年次
成長発達を支える看護実習	子どもの生活や療育・教育を中心とする場と治療や看護を受けながら生活をする場において、成長発達を支え、その子らしさが発揮でき、健康を保持増進できるような看護実践を学ぶ。	「表現（具現化）する力」を育む実習	「生きている」「生きていく」を支える実習	小児看護学	2	2～3年次
生命の育みを支える看護実習	ハイリスク状態を含む妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の理解と必要な看護について学ぶ。さらに、より健やかな母子関係の成立と生命を育む家族が円滑かつ健やかに生活するための支援について学ぶ。	「表現（具現化）する力」を育む実習	「生きている」「生きていく」を支える実習	母性看護学	2	2～3年次
看護の統合実習	既習の知識・技術・態度を統合し、臨床判断を用いてさらなる看護実践力の向上を目指す。さらに、将来の看護師像を確立し、自身の課題を明確にする。	「表現（具現化）する力」を発揮する実習	「その人らしく生きる」を支える実習	看護の統合と実践	3	3年次
計					23	

授業計画

科目名	看護の基礎実習 I	単位数	1 単位	履修時期	1 年次
担当教員	専任教員*、実習指導者* (*実務経験のある教員)				
目的	看護の対象となる人の反応に気づき、取り巻く環境と看護活動を知り、看護について理解を深める。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象となる人を取り巻く環境と生活の場について理解できる。 2. 看護の対象となる人の生活と看護師の関わりの実際について理解できる。 3. 看護の実践を通して対象となる人に対する看護の役割や機能について考察できる。 4. 他者との関係を構築しながら、看護師になるための今後の学習課題を明確にできる。 				
実習期間	1 年次 9 月				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設的环境と生活の場 2. 看護の対象となる人の生活と看護の実際 3. 看護の役割と機能 4. 看護学生としての課題 				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院等の概要を知り、構造と機能を見学して物理的・人的環境についてまとめる。 2. 事前学習を基に見学して、実際の生活（療養）の場を捉える。 3. コミュニケーションスキルを使って対象者から施設内での生活について日常生活上の問題や思いを聞き取る。 4. 看護師と共に行動（ジョブシャドウ）しながら対象者への看護師の関わりを捉える。 5. 聞き取りやジョブシャドウで捉えた看護のもつ役割や機能についてまとめる。 6. カンファレンスで看護師の関わりを共有し、看護の役割や機能について学びを深める。 7. カンファレンスでの学びを共有し、思考を整理する。 8. 今後の学習における自己の課題と目標、具体策を明確にする。 				
備考				評価方法	実習評価表に基づき評価する

授業計画

科目名	看護の基礎実習Ⅱ	単位数	3 単位	履修時期	1 年次
担当教員	専任教員*、実習指導者* (*実務経験のある教員)				
目的	健康障害を持つ人を理解し、状態に応じた看護の基本技術を習得する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションスキルやフィジカルイグザムを活用し、対象を理解することができる。 2. 根拠に基づいた援助を実施できる。 3. 実践を通して患者の状態を捉え、より良い援助のために振り返ることができる。 4. 看護師に必要な資質を高める意義が理解できる。 				
実習期間	1 年次 2 月				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションスキルやフィジカルイグザムを活用した対象の理解 2. 援助の根拠や技術の基本に基づき、患者の状態に応じた援助の計画と実施 3. 援助中の患者の反応を捉えた振り返りと今後の課題・解決策 4. 看護師に必要な資質を高める意義の明確化 				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係構築に向けたコミュニケーションスキルを活用する。 2. 疾病の影響から患者の身体状態を判断するフィジカルアセスメントをする。 3. 複数の視点で情報収集をし、既習の知識と照らして分析・解釈する。 4. 援助の根拠や技術の基本に基づき、患者の状態に応じた援助計画を立案する。 5. 援助計画に基づき日常生活援助を実施する。 6. 援助を通じて患者の反応を捉え、援助について指導者・教員と共に振り返る。 7. 実習を通して看護師に必要な資質とその意義、自己の課題について自分の考えを深める。 				
備考				評価方法	実習評価表に基づき評価する

授業計画

科目名	地域での暮らしを支える看護実習	単位数	2 単位	履修時期	2～3 年次
担当教員	専任教員*、実習指導者* (*実務経験のある教員)				
目的	地域で暮らす人々とその家族、それらを取り巻く環境や支援システムを理解し、人々の意思決定を尊重し暮らしを支える看護を実践できる能力を養う。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々と家族の生活環境、生活状況が理解できる。 2. 療養者、家族の健康状態、生活状況に応じた日常生活援助技術、基本的な医療的ケアが実践できる。 3. 療養者の生活を支援するための社会資源活用の実践が理解できる。 4. 保健・医療・福祉職種の連携協働を通して、切れ目のない看護が理解できる。 				
実習期間	2 年次 11 月 ～ 3 年次 10 月				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で暮らす療養者、家族を対象とした看護：訪問看護ステーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護ステーションの機能と役割の理解 2) 訪問看護師に求められる姿勢や態度の理解、マナーをわきまえた行動 3) 療養者及び家族の健康状態や生活状況の把握、訪問看護計画立案、実践、評価 4) 療養者と家族を支える関係機関職種と連携、社会資源の理解 2. 地域包括ケアシステムの中核を担う機関での看護：地域包括支援センター <ol style="list-style-type: none"> 1) センターの設置目的・機能・役割の理解 2) 利用者や家族の自立・自律に向けた生活支援の実践 3) 地域包括ケアシステムと多職種連携・調整の実践 				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習期間中に 2 回以上訪問できる療養者 1 名を受持ち実習する。 2) 受持ち以外の療養者への訪問にも同行し、看護実践を見学する。 2. 地域包括支援センター <ol style="list-style-type: none"> 1) シャドーイングを行い、事業内容に合わせた活動の実践を学ぶ。 2) 可能であれば同行訪問、地域ケア会議、退院前カンファレンス等に参加する。 				
備考				評価方法	実習評価表に基づき評価する

授業計画

科目名	その人らしさを考える看護実習	単位数	2 単位	履修時期	2 年次
担当教員	専任教員*、実習指導者* (*実務経験のある教員)				
目的	成人・老年期にある人への根拠に基づいた日常生活の援助を通して、生活上のニーズの把握と必要な援助の基礎を習得する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. その人らしさを理解し、生活上のニーズを把握することができる。 2. 看護上の問題点を明確にし、健康状態に応じた「その人らしさ」を支える看護を考えることができる。 3. その人らしく生活するために必要な看護を看護過程のプロセスを用いて考え、一部実施できる。 4. 振り返りを通して、「その人らしく生活する」ことを支えるために必要な看護について考えることができる。 				
実習期間	2 年次 7 月				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の「その人らしさ」を捉え、生活上のニーズを把握。 2. その人らしさや生き方・生活に影響を与える因子。 3. 対象に応じたコミュニケーション。 4. 看護の対象にある人の「その人らしく生活する」ことを支えるために必要な援助。 5. 看護の対象にある人が「その人らしく生活する」ために必要な援助の実際。 6. 振り返りから自己の考えの明確化。 				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟実習 9 日間 2. 病棟で成人期・老年期にある人を 1 名受け持ち、看護過程の展開を行う。 3. 日常生活援助の実施を通して、生活上のニーズを理解する。 4. 看護過程のプロセスを用いて、その人らしさの理解とそれに基づいた看護を一部実践する。 5. 個人の特徴を理解し、健康状態に応じたその人らしさを考えることができる。 6. 「その人らしく生活する」ことを支えるために必要な看護について自己の考えを明らかにする。 				
備考				評価方法	実習評価表に基づき評価する

授業計画

科目名	その人らしさを支える看護実習Ⅰ	単位数	2単位	履修時期	2～3年次
担当教員	専任教員*、実習指導者* (*実務経験のある教員)				
目的	成人・老年期にある生命活動が脅かされた状態にある人を理解し、「生きている」「生きていく」を支えるための援助の基本を習得する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命活動が脅かされた状態にある人を理解できる。 2. 手術療法を受ける人の「生きている」「生きていく」を支えるための援助が一部実践できる。 3. 生命活動が脅かされた状態にある人の「生きている」「生きていく」を支えるための様々な場での継続した援助を理解できる。 				
実習期間	2年次11月～3年次10月				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命活動が脅かされた状態にある人とその家族の理解 2. 周術期にある人とその家族の理解 3. 救命を必要とする人に対する援助 4. 周術期の看護 5. 回復を促進するための看護 6. 集中治療下での看護 7. 周術期・集中治療における多職種連携 8. 退院に向けた看護 9. 外来で治療を継続する人への看護 				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける人を受け持ち、術前の準備、入室時の看護、回復に向けた支援について学習する。周術期の一連の看護については一部実施する。 2. 受診時から入院、そして退院後の外来通院時の継続看護について学ぶ。 3. 手術室での実習を行い、手術期の看護を学ぶ。 4. 集中治療室・救命センター等での実習を行い、生命活動が脅かされた状態にある人の看護や多職種連携について学ぶ。 				
備考				評価方法	実習評価表に基づき評価する

授業計画

科目名	その人らしさを支える看護実習Ⅱ	単位数	2 単位	履修時期	2～3 年次
担当教員	専任教員*、実習指導者* (*実務経験のある教員)				
目的	成人・老年期にある健康維持及び生活行動の営みが困難となった人が、自立・自律して「生きていく」ことや「暮らす」を支えるための援助の基本を習得する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康維持及び日常生活行動や他者や社会とのつながりをもった生活行動の営みが困難となった人を理解できる。 2. 健康維持回復や生活機能の向上を目指す人が自立・自律して生きていくことや暮らしを支えるための援助を実践できる。 3. 健康維持回復や生活機能の向上を目指す人及び家族の自立・自律に向けた教育支援ができる。 4. 健康維持回復や生活機能の向上を目指す人が、地域の場で生きていくことや暮らしを支える保健・医療・福祉の連携を理解できる。 				
実習期間	2 年次 11 月 ～ 3 年次 10 月				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康維持及び日常生活行動や他者や社会とのつながりをもった生活行動の営みが困難となった人とその家族の理解 2. 生き方や生活に影響を与える因子の理解 3. 病態生理や治療、検査及びその影響についての理解 4. 患者及び家族が健康課題に向き合い取り組む過程の支援 5. その人らしく過ごせるよう、日常生活の自立・自律や QOL の維持・向上に向けての支援 6. 生きることや暮らしを支える保健・医療・福祉の連携の理解 				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期・壮年期・向老期・老年期のいずれかの発達段階にあり、疾病の慢性的な経過や回復過程にある人を受け持ち、看護過程を基盤に臨地実習を行う。 2. 実習期間中はカンファレンスを通して学習を共有し深める。 3. 臨床実践を通して、健康維持及び日常生活行動が困難になった人や、他者・社会とのつながりをもった生活行動の営みが困難となった人とその家族について学ぶ。 4. 自立・自律して、その人らしく「生きていく」あるいは「暮らす」を支えるための援助を実施する。 5. チーム医療における多職種との連携・協働の実際について、見学やカンファレンスの参加を通して学ぶ。 6. 地域医療連携に携わる専門職または MSW、保健・医療・福祉の連携の実際について学ぶ。 7. 地域で暮らす生命活動と日常生活行動や他者や社会とのつながりをもった生活行動の営みが困難となった人の理解及び健康の維持・増進、疾病の予防に向けての支援について学ぶ。 				
備考				評価方法	実習評価表に基づき評価する

授業計画

科目名	その人らしさを支える看護実習Ⅲ	単位数	2 単位	履修時期	2～3 年次
担当教員	専任教員*、実習指導者* (*実務経験のある教員)				
目的	成人・老年期にあるエンド・オブ・ライフ・ケアが必要な人とその家族を理解し、「その人らしく生きる」ことを支えるために必要な援助の基本を習得する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. エンド・オブ・ライフ・ケアが必要な人のその人らしさを理解し、寄り添うことの重要性が理解できる。 2. その人らしさに配慮した援助を実施できる。 3. その人らしさを支えるために必要な保健・医療・福祉における多職種・他機関連携が理解できる。 4. その人らしさを支えるために必要な看護について考え、看護の役割を理解できる。 				
実習期間	2 年次 11 月 ～ 3 年次 10 月				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. エンド・オブ・ライフ・ケアが必要な人の把握 2. エンド・オブ・ライフ・ケアが必要な人へのその人らしさに配慮した援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) その人らしさに配慮したコミュニケーション (2) エンド・オブ・ライフ・ケアが必要な人の苦痛の緩和 (3) エンド・オブ・ライフ・ケアが必要な人のその人らしさを踏まえた援助 (4) エンド・オブ・ライフ・ケアが必要な人のその人らしさを支えるために必要な家族に対する看護 (5) エンドオブライフケアが必要な人の安楽と安寧にむけた援助 3. その人らしく安心した生活を送るための生活を支える保健・医療・福祉における多職種、他機関連携の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人を取り巻く家族・ソーシャルサポートシステムの実際 (2) 人を取り巻く保健・医療・福祉の連携及び看護師の役割 (3) 人を取り巻くフォーマルサポート、インフォーマルサポートの必要性の理解 4. その人らしさを支えるために必要な看護について考え、看護の役割を理解 				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟実習で、エンドオブライフケアが必要な人を受け持ち、看護実践を行う。 一般病床、緩和ケア病棟等 2. 地域と連携している病院内の部署等の見学実習やカンファレンスへの参加等を通して学ぶ。 3. 「その人らしく生きる」ことを支えるために必要な看護を考え実践する。 4. 看取り、エンゼルケア、グリーンワーク・グリーンケアについてカンファレンス等を行い、エンド・オブ・ライフ・ケアが必要な人への看護実践を振り返り、学ぶ。 				
備考				評価方法	実習評価表に基づき評価する

授業計画

科目名	その人らしさを支える看護実習Ⅳ	単位数	2 単位	履修時期	2～3 年次
担当教員	専任教員*、実習指導者* (*実務経験のある教員)				
目的	精神に障害のある人を理解し、その人らしく生きるために必要な看護を習得する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害があり医療及び保護が必要な場で生きる人を理解できる。 2. 精神に障害があり医療及び保護が必要な人がその人らしく生きるために必要な看護の役割を理解し、必要な看護を実践できる。 3. 精神に障害のある人との関わりを通し、精神に障害のある人との関係性を自己洞察できる。 4. 精神の障害とともにその人らしく暮らしている場で、必要な看護の役割を理解できる。 5. 精神の障害とともにその人らしく暮らす人を支える多職種の役割と連携を理解できる。 				
実習期間	2 年次 11 月 ～ 3 年次 10 月				
実習内容	<p><精神に障害があり医療及び保護が必要な場で生きる人への看護> 精神科病棟</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療及び保護が必要な人の安全を守るための看護 <ol style="list-style-type: none"> 1)精神科病棟の治療的環境 2)リスクマネジメント 3)行動の制限に対する看護 4)安全確保対策 2. 精神に障害のある人を尊重し、適切なコミュニケーション <ol style="list-style-type: none"> 1)精神に障害のある人の生きづらさの理解 2)精神に障害のある人の人権と倫理 3)精神に障害のある人を尊重したコミュニケーション 3. 患者の健康的側面（強み）に着目した看護を考え実践 <ol style="list-style-type: none"> 1)精神状態と日常生活の観察と評価 2)看護の実践 4. 精神に障害のある人のサポートシステム、自己決定の支援を理解 <ol style="list-style-type: none"> 1)サポートシステム 2)自己決定の支援 3)多職種の連携 5. コミュニケーションの場面を振り返り自己洞察 <p><精神の障害とともにその人らしく暮らす人への看護> 地域：事業所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各事業所において、精神に障害のある人との関わりを通して、その人らしく暮らすための支援について理解 2. 精神に障害のある人のサポートシステムと課題について理解 				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院及び地域の事業所で実習する。 2. 精神科病棟での実習については、1 グループ 6 名が 1 つの病棟で実習する場合と 3 名ずつ分かれて 2 つの病棟で実習する場合がある。 3. 地域での実習は、1 グループ 6 名が 2～3 名に分かれて実習を行う。 4. 原則として、精神科病棟での実習を行った後に、地域での実習を行う。 				
備考				評価方法	実習評価表に基づき評価する

授業計画

科目名	成長発達を支える看護実習	単位数	2 単位	履修時期	2～3 年次
担当教員	専任教員*、実習指導者* (*実務経験のある教員)				
目的	その子らしさを発揮できるよう、成長発達・健康の保持増進を支える看護ができる。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成長発達段階を踏まえ、その子の持つ力を引き出しながら適切な看護を考え、実践できる。 2. 子どもの生活の場を知り、健康状態を踏まえてその子らしい生活を送れるよう援助が実施できる。 3. 子どもの尊厳と権利を尊重した援助が理解できる。 4. 子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉・教育との連携を知り、多職種間における看護の役割が理解できる。 				
実習期間	2 年次 11 月 ～ 3 年次 10 月				
実習内容	<p><健康を障害された子どもの看護></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康状態や発達段階を踏まえ、子どもの持つ力を引き出せる援助の実際 2. 子どもの人権を尊重し、子どものQOLの維持・向上を考慮した援助を学ぶ。 3. 医療保健福祉教育連携と継続看護の必要性について学ぶ。 <p><地域で生活する子どもの看護></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育環境を理解し、子どもの生活における保健行動や健康管理、安全管理を学ぶ。 2. 子どもの成長発達や保育場面に応じた関り方や援助の実際 3. 家族と保育士との連絡・連携が理解できる。 				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟実習（うち小児外来、NICUの実習を含む）保育所 2. 乳児期から学童期にある児を1名受け持ち看護過程の展開を行う。 3. 日常生活援助の実施を通して、受け持の児の発達段階や家族の思いを理解する。 4. 看護過程のプロセスを用いて、その子の持つ力を引き出す援助を考え一部実践する。 5. 保育所実習では保育士とともにクラスに入り、保育所の生活や遊びを通じ、その子らしい子どもの生活を理解する。 				
備考				評価方法	実習評価表に基づき評価する

授業計画

科目名	生命の育みを支える看護実習	単位数	2 単位	履修時期	2～3 年次
担当教員	専任教員*、実習指導者* (*実務経験のある教員)				
目的	生命を育む女性と家族の健康状態に合わせた看護についての基本を学ぶ。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある対象（妊・産・褥婦・新生児）の変化と、家族を含めた役割適応状況並びにその支援について理解する。 2. 周産期にある対象への基本的技術を実践する。 3. 受け持ち対象の健康状態をアセスメントし、必要な支援方法を理解する。 4. 地域で生活する女性と家族への支援とその実際を学び、その必要性を理解する。 5. 生命を育む女性と家族に対する支援と看護職の役割について理解を深める。 				
実習期間	2 年次 11 月 ～ 3 年次 10 月				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療施設での妊産褥婦・新生児、家族を含めた支援の実際。 2. 地域実習において、地域で生活する母子の支援の看護の実際と、多職種連携と調整の実際。 3. 様々な場での学びを共有し、生命を育む女性と家族に対する支援と看護職の役割の理解。 				
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院（周産期医療施設）で実施する。 2. 地域（子育て世代包括支援センター・助産所・産後ケアセンター・子育てサークル等）で実施する。 				
備考				評価方法	実習評価表に基づき評価する

授業計画

科目名	看護の統合実習	単位数	3 単位	履修時期	3 年次
担当教員	専任教員*、実習指導者* (*実務経験のある教員)				
目的	既に修得した看護実践力を基盤に、知識・技術・態度を統合し、臨床判断を用いてさらなる看護実践力の向上に努める。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護マネジメントの実際を知り、看護管理、及び医療安全管理の重要性について理解する。 2. 保健医療福祉チームの役割を理解し、チーム連携・協働における看護師のメンバーシップ及びリーダーシップの実際を理解する。 3. 複数の患者の受け持ちや多重課題において優先順位や判断根拠を考え、対象に必要な看護をマネジメントし、「その人らしく生きる」を支えるための看護実践ができる。 4. 安全で安楽な療養環境を提供するための看護師の協力・連携について理解する。 5. 実習を通して、看護職の役割や責任、倫理について考え、将来の目指す看護師像に近づけるように、自己の課題を明確にする。 				
実習期間	10 月第 4 週 ～ 11 月第 1 週頃				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設・病棟部署における病院組織と看護管理および医療安全管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院の特性、看護部門の組織と職務 2) 看護部の理念、活動方針 3) 医療安全管理者の役割と体制 4) 人材育成と病院の質向上に向けた取り組み 2. 病棟管理者の役割と業務 <ol style="list-style-type: none"> 1) 勤務計画管理 2) 施設管理・物品管理 3) 安全・感染管理（リスクマネジメント） 4) 病床管理と退院調整 5) 看護部及び他部門との連絡調整 6) 職員の教育指導、ワークライフバランス及び健康管理 3. 各勤務時間帯の状況と継続性をもった看護実践の理解および安全で安楽な療養環境を提供するための看護師の協力・連携 <ol style="list-style-type: none"> 1) タイムスケジュールと時間管理 2) 看護師・看護補助者の業務内容と役割分担および情報の共有 3) 夜間帯における患者の日常生活援助の実際 4. 多職種医療チームにおける各構成員の役割の理解および、チーム連携・協働における看護師のメンバーシップおよびリーダーシップの実際 5. 複数の受け持ち患者への看護実践と夜間帯における看護実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者の病状の変化や治療方針の変更に応じた看護実践 2) 援助実施の可否と優先順位の判断 3) 安全安楽な看護実践のための時間管理と適時適切な連絡調整 4) 看護実践の評価 				

	<p>6. 看護実践の振り返りと課題の明確化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) それぞれの受け持ち患者の状況の把握と突発事態に応じた調整行動 2) 主体的な報告・相談・連絡 3) 看護実践の振り返りと自己の客観的評価と課題 		
実習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各看護学実習が全て終了した3年次最後の時期に実習する。 2. 施設・病棟部署における病院組織と看護管理、医療安全管理の重要性については、実習病院の看護管理者からオリエンテーションを受ける。 3. 病棟管理者の役割と業務については、病棟管理者からオリエンテーションを受けてシャドウイングする。 4. 保健医療福祉チームに入り看護師のシャドウイングをする。 5. 2名の患者を受け持ち、優先度を判断しながら看護を実践する。 6. 夜間実習を計画する。夜間実習は遅くとも21時までとする。 		
備考	<p>本科目を受講するためには、看護マネジメントとキャリア論Ⅲ、医療安全と看護Ⅲ、臨床看護の実践の単位取得が前提条件である。</p> <p>本科目を受講するためには、各専門領域の単位取得が前提条件である。</p>	評価方法	実習評価表に基づき評価する

実務経験のある教員等による授業科目一覧

実務経験のある教員等による授業科目一覧

領域	授業科目	単位	時間数	学年	実務経験のある教員による授業	
					教員種別	単位
基礎分野	科学的思考の基礎	1	30	1		0
	心理学	1	30	3		0
	教育学	1	30	2		0
	論理学	1	30	2		0
	哲学	1	30	2		0
	心の健康	1	15	2		0
	運動と健康	1	15	3		0
	社会学	1	30	2		0
	家族論	1	15	1	看護師	1
	文化人類学	1	15	3		0
	物理学	1	15	1		0
	情報科学	1	30	1		0
	コミュニケーション論	1	15	1		0
英会話	1	30	3		0	
パフォーマンス論	1	15	1		0	
基礎分野 小計		14	315			1
専門基礎分野	形態機能学Ⅰ 身体の構造と機能の基礎	1	30	1	看護師、医師	1
	形態機能学Ⅱ 脳神経系・内分泌系の構造と機能・生体の防御機構	1	30	1	歯科医師	1
	形態機能学Ⅲ 動く・息をする・話す聞く見る・お風呂に入る・眠る	1	30	1	看護師	1
	形態機能学Ⅳ 食べる・トイレに行く・性のしくみ	1	30	1	看護師	1
	形態機能学Ⅴ 日常生活行動と生理的機能	1	30	1	看護師	1
	生化学	1	30	1	医師	1
	疾病の発生と病的変化	1	30	1	医師、歯科医師	1
	感染症と微生物	1	30	1		0
	疾病と治療Ⅰ 疾病の診断過程と検査、医療機器、回復を促進する治療	1	30	2	医師、臨床検査技師	1
	疾病と治療Ⅱ (呼吸器・循環器・内分泌代謝の疾病と治療)	1	30	1	医師	1
	疾病と治療Ⅲ (運動器・腎泌尿器・血液リンパ器の疾病と治療)	1	30	1	医師	1
	疾病と治療Ⅳ 脳神経・消化器の疾病と治療	1	30	1	医師	1
	疾病と治療Ⅴ 自己免疫・精神・小児特有の疾病と治療	1	30	2	医師	1
	疾病と治療Ⅵ 感覚器・女性生殖器・周産期の異常時の疾病と治療・救急医療	1	30	2	医師	1
	薬理学	1	30	1	薬剤師	1
	食事療法とリハビリテーション	1	30	2	管理栄養士、理学療法士	1
	健康支援と社会保障制度	1	15	3		0
	公衆衛生	1	15	3	医師	1
	社会保障と社会福祉	1	30	2		0
	医療と倫理	1	15	3		0
医療と法律	1	15	3		0	
医療と経済	1	15	3		0	
専門基礎分野 小計		22	585			16
基礎看護学	看護学概論	1	30	1	看護師	1
	看護理論	1	15	2	看護師	1
	ヘルスアセスメント論	1	30	1	看護師	1
	生活援助論Ⅰ	1	30	1	看護師	1
	生活援助論Ⅱ	1	30	1	看護師	1
	生活援助論Ⅲ	1	30	1	看護師	1
	人間関係成立の技術	1	30	1	看護師	1
	看護倫理	1	15	3	看護師	1
	診療の補助技術	1	30	2	看護師	1
	クオリティ看護論Ⅰ	1	30	1	看護師	1
	クオリティ看護論Ⅱ	1	30	1	看護師	1
	クオリティ看護論Ⅲ	1	30	3	看護師	1

領域	授業科目	単位	時間数	学年	実務経験のある 教員による授業		
					教員種別	単位	
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅で暮らす人々の理解	1	15	1	看護師	1
		地域・在宅看護概論	1	15	1	看護師	1
		地域・在宅でのその人らしい暮らしを支える看護	1	30	2	看護師	1
		在宅看護技術	1	30	2	看護師	1
		ケアマネジメント	1	15	2	看護師	1
		在宅看護の展開	1	15	2	看護師	1
	成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	看護師	1
		生命の危機状況にある人の生きているを支える看護	1	30	2	看護師	1
		手術を受ける人の生きていくを支える看護	1	30	2	看護師	1
		病とともに暮らすを支える看護	1	30	2	看護師	1
		生活機能障害のある人の暮らすを支える看護	1	30	1	看護師	1
		その人らしく生きるを支える看護	1	30	2	看護師	1
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	1	看護師	1
		高齢者の生活機能を整える看護	1	30	1	看護師	1
		高齢者の生きるを支える看護	1	30	2	看護師	1
		認知機能が低下した高齢者の生きるを支える看護	1	15	2	看護師	1
	小児看護学	子供の成長発達と看護	1	30	1	看護師	1
		子供のヘルスプロモーションを支える看護	1	30	2	看護師	1
		子供の健康状態に応じた看護	1	30	2	看護師	1
		子供の成長発達を支える看護	1	15	2	看護師	1
	母性看護学	母性看護学概論	1	30	1	助産師	1
		妊婦・産婦の生命の育みを支える看護	1	30	2	助産師	1
		褥婦・新生児の生命の育みを支える看護	1	30	2	助産師	1
		生命の育みを支える看護の展開	1	15	2	助産師	1
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	看護師	1
		精神に障害がある人を支える看護の基本	1	30	2	看護師	1
		精神の障害とともに生きるを支える看護	1	30	2	看護師	1
精神の障害とともに地域で暮らす人への看護		1	15	2	看護師	1	
看護の統合と実践	看護マネジメントとキャリア論Ⅰ	1	15	1	看護師	1	
	看護マネジメントとキャリア論Ⅱ	1	15	3	看護師	1	
	医療安全と看護Ⅰ	1	15	1	看護師	1	
	医療安全と看護Ⅱ	1	15	2	看護師	1	
	災害看護・国際看護	1	30	3	看護師、医師	1	
	臨床看護の実践	1	30	3	看護師	1	
	地域特性と看護	1	15	3	看護師	1	
	専門分野 講義 小計	47	1,185			47	
専門分野 臨地実習	看護の基礎実習Ⅰ	1	30	1	看護師	1	
	看護の基礎実習Ⅱ	3	90	1	看護師	3	
	地域での暮らしを支える看護実習	2	90	2～3	看護師	2	
	その人らしさを考える看護実習	2	90	2	看護師	2	
	その人らしさを支える看護実習Ⅰ	2	90	2～3	看護師	2	
	その人らしさを支える看護実習Ⅱ	2	90	2～3	看護師	2	
	その人らしさを支える看護実習Ⅲ	2	90	2～3	看護師	2	
	成長発達を支える看護実習	2	90	2～3	看護師	2	
	生命の育みを支える看護実習	2	90	2～3	看護師	2	
	その人らしさを支える看護実習Ⅳ	2	90	2～3	看護師	2	
	看護の統合実習	3	90	3	看護師	3	
専門分野 実習 小計	23	930			23		
総合計	106	3,015			87		

マトリックス

各専門領域のCase learningおよび校内実習

2020.08.04⇒12/14

Case learning (事例を認定した看護技術学)	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践
<p>①クオリティイで肺炎等の疾患(病態)をとらえ看護過程を展開する。</p> <p>②クオリティイで、クオリティイの事例を連動させ全身観察と症状緩和へのケアを学習する。</p>	<p>①ケアマネジメント(事例からケアプランを作成する、困難事例のケース会議シミュレーション)</p> <p>②難病の事例を用いてエンパワメントアプローチによる援助(指導案)の作成、ロールプレイ</p>	<p>①急性腹症</p> <p>②頭痛</p> <p>③呼吸困難</p> <p>④大腸がん</p> <p>⑤腰痛</p> <p>⑥糖尿病</p> <p>⑦心筋梗塞</p> <p>⑧下血</p> <p>⑨大腸がん</p> <p>⑩乳がん</p> <p>全人的苦痛(トータルペイン)</p>	<p>①臥床傾向にある高齢者に起りやすい変化と生活への影響(看護計画立案)</p> <p>②臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生きる意欲を向上させる看護計画の立案</p> <p>③骨粗鬆症、大腿骨頸部骨折患者の生活機能の維持・拡大に向けた援助</p> <p>④パーキンソン病高齢者と家族の生活を支える援助</p> <p>⑤認知症高齢者の退院調整・退院支援(安全・安楽に自宅暮らしをしていくための方法)</p>	<p>川崎病の事例で健康な状態から健康を障害された状態まで、子どもへの生活に焦点を当て、分析・計画・一部実施を行う</p>	<p>①妊婦の事例展開</p> <p>②正常分娩の構構・新生児のアセスメント・介入計画</p> <p>③帝王切開術の事例展開</p> <p>④死産の事例展開</p>	<p>1.精神疾患ごとに特徴的な事例を用いて状態のアセスメントと必要な看護を考える。</p> <p>①統合失調症</p> <p>②気分障害</p> <p>③精神作用物質使用による障害</p> <p>④精神・行動の障害</p> <p>⑤パーソナリティ障害</p> <p>⑥神経症性障害</p> <p>⑦てんかん</p> <p>⑧小児に特徴的な精神の障害</p> <p>⑨認知症</p> <p>⑩身体合併症</p> <p>地域については、3事例(緊急入院からの社会復帰・入院を繰り返す人・地域で生活する人)の支援を検討する。</p> <p>2.精神症状のある患者とのコミュニケーションを通して再構成を行う。</p>	<p>①複数受け持ち(ケアの多い患者とケアの少ない患者)で、多重課題、タイムプレッシャー、優先順位を考える。</p>	
<p>①生活援助論Ⅰ(療養環境整備をシミュレーション)で安全で快適な生活環境を整備する。</p> <p>②生活援助論Ⅱ(食事)で対象に合わせた食事介助をシミュレーションする。</p> <p>③生活援助論Ⅲ(排泄)で自然な排泄への援助技術を学習する。</p> <p>④生活援助論Ⅳ(安楽)で症状観察・判断をし、安楽への援助を学習する。</p> <p>⑤人間関係成立の技術でコミュニケーションの障害のある患者とその家族との意思決定支援場面を学習する。</p>	<p>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿</p>	<p>①臥床傾向にある高齢者の日常生活を整える援助</p> <p>・ボジョニング</p> <p>・食事介助</p> <p>・口腔ケア</p> <p>など</p> <p>②臥床傾向にあった高齢者の日常生活動作や生きる意欲を向上させる援助</p> <p>・陰嚢部の保清</p> <p>・オムツ交換</p> <p>・トイレでの排泄など</p>	<p>①シミュレーション学習</p> <p>②シミュレーション学習</p> <p>③シミュレーション学習</p> <p>④シミュレーション学習</p> <p>⑤シミュレーション学習</p> <p>⑥シミュレーション学習</p> <p>⑦シミュレーション学習</p> <p>⑧シミュレーション学習</p> <p>⑨シミュレーション学習</p> <p>⑩シミュレーション学習</p> <p>⑪シミュレーション学習</p> <p>⑫シミュレーション学習</p> <p>⑬シミュレーション学習</p> <p>⑭シミュレーション学習</p> <p>⑮シミュレーション学習</p> <p>⑯シミュレーション学習</p> <p>⑰シミュレーション学習</p> <p>⑱シミュレーション学習</p> <p>⑲シミュレーション学習</p> <p>⑳シミュレーション学習</p> <p>㉑シミュレーション学習</p> <p>㉒シミュレーション学習</p> <p>㉓シミュレーション学習</p> <p>㉔シミュレーション学習</p> <p>㉕シミュレーション学習</p> <p>㉖シミュレーション学習</p> <p>㉗シミュレーション学習</p> <p>㉘シミュレーション学習</p> <p>㉙シミュレーション学習</p> <p>㉚シミュレーション学習</p> <p>㉛シミュレーション学習</p> <p>㉜シミュレーション学習</p> <p>㉝シミュレーション学習</p> <p>㉞シミュレーション学習</p> <p>㉟シミュレーション学習</p> <p>㊱シミュレーション学習</p> <p>㊲シミュレーション学習</p> <p>㊳シミュレーション学習</p> <p>㊴シミュレーション学習</p> <p>㊵シミュレーション学習</p> <p>㊶シミュレーション学習</p> <p>㊷シミュレーション学習</p> <p>㊸シミュレーション学習</p> <p>㊹シミュレーション学習</p> <p>㊺シミュレーション学習</p> <p>㊻シミュレーション学習</p> <p>㊼シミュレーション学習</p> <p>㊽シミュレーション学習</p> <p>㊾シミュレーション学習</p> <p>㊿シミュレーション学習</p>	<p>①シミュレーション学習</p> <p>②シミュレーション学習</p> <p>③シミュレーション学習</p> <p>④シミュレーション学習</p> <p>⑤シミュレーション学習</p> <p>⑥シミュレーション学習</p> <p>⑦シミュレーション学習</p> <p>⑧シミュレーション学習</p> <p>⑨シミュレーション学習</p> <p>⑩シミュレーション学習</p> <p>⑪シミュレーション学習</p> <p>⑫シミュレーション学習</p> <p>⑬シミュレーション学習</p> <p>⑭シミュレーション学習</p> <p>⑮シミュレーション学習</p> <p>⑯シミュレーション学習</p> <p>⑰シミュレーション学習</p> <p>⑱シミュレーション学習</p> <p>⑲シミュレーション学習</p> <p>⑳シミュレーション学習</p> <p>㉑シミュレーション学習</p> <p>㉒シミュレーション学習</p> <p>㉓シミュレーション学習</p> <p>㉔シミュレーション学習</p> <p>㉕シミュレーション学習</p> <p>㉖シミュレーション学習</p> <p>㉗シミュレーション学習</p> <p>㉘シミュレーション学習</p> <p>㉙シミュレーション学習</p> <p>㉚シミュレーション学習</p> <p>㉛シミュレーション学習</p> <p>㉜シミュレーション学習</p> <p>㉝シミュレーション学習</p> <p>㉞シミュレーション学習</p> <p>㉟シミュレーション学習</p> <p>㊱シミュレーション学習</p> <p>㊲シミュレーション学習</p> <p>㊳シミュレーション学習</p> <p>㊴シミュレーション学習</p> <p>㊵シミュレーション学習</p> <p>㊶シミュレーション学習</p> <p>㊷シミュレーション学習</p> <p>㊸シミュレーション学習</p> <p>㊹シミュレーション学習</p> <p>㊺シミュレーション学習</p> <p>㊻シミュレーション学習</p> <p>㊼シミュレーション学習</p> <p>㊽シミュレーション学習</p> <p>㊾シミュレーション学習</p> <p>㊿シミュレーション学習</p>	<p>①シミュレーション学習</p> <p>②シミュレーション学習</p> <p>③シミュレーション学習</p> <p>④シミュレーション学習</p> <p>⑤シミュレーション学習</p> <p>⑥シミュレーション学習</p> <p>⑦シミュレーション学習</p> <p>⑧シミュレーション学習</p> <p>⑨シミュレーション学習</p> <p>⑩シミュレーション学習</p> <p>⑪シミュレーション学習</p> <p>⑫シミュレーション学習</p> <p>⑬シミュレーション学習</p> <p>⑭シミュレーション学習</p> <p>⑮シミュレーション学習</p> <p>⑯シミュレーション学習</p> <p>⑰シミュレーション学習</p> <p>⑱シミュレーション学習</p> <p>⑲シミュレーション学習</p> <p>⑳シミュレーション学習</p> <p>㉑シミュレーション学習</p> <p>㉒シミュレーション学習</p> <p>㉓シミュレーション学習</p> <p>㉔シミュレーション学習</p> <p>㉕シミュレーション学習</p> <p>㉖シミュレーション学習</p> <p>㉗シミュレーション学習</p> <p>㉘シミュレーション学習</p> <p>㉙シミュレーション学習</p> <p>㉚シミュレーション学習</p> <p>㉛シミュレーション学習</p> <p>㉜シミュレーション学習</p> <p>㉝シミュレーション学習</p> <p>㉞シミュレーション学習</p> <p>㉟シミュレーション学習</p> <p>㊱シミュレーション学習</p> <p>㊲シミュレーション学習</p> <p>㊳シミュレーション学習</p> <p>㊴シミュレーション学習</p> <p>㊵シミュレーション学習</p> <p>㊶シミュレーション学習</p> <p>㊷シミュレーション学習</p> <p>㊸シミュレーション学習</p> <p>㊹シミュレーション学習</p> <p>㊺シミュレーション学習</p> <p>㊻シミュレーション学習</p> <p>㊼シミュレーション学習</p> <p>㊽シミュレーション学習</p> <p>㊾シミュレーション学習</p> <p>㊿シミュレーション学習</p>	<p>①シミュレーション学習</p> <p>②シミュレーション学習</p> <p>③シミュレーション学習</p> <p>④シミュレーション学習</p> <p>⑤シミュレーション学習</p> <p>⑥シミュレーション学習</p> <p>⑦シミュレーション学習</p> <p>⑧シミュレーション学習</p> <p>⑨シミュレーション学習</p> <p>⑩シミュレーション学習</p> <p>⑪シミュレーション学習</p> <p>⑫シミュレーション学習</p> <p>⑬シミュレーション学習</p> <p>⑭シミュレーション学習</p> <p>⑮シミュレーション学習</p> <p>⑯シミュレーション学習</p> <p>⑰シミュレーション学習</p> <p>⑱シミュレーション学習</p> <p>⑲シミュレーション学習</p> <p>⑳シミュレーション学習</p> <p>㉑シミュレーション学習</p> <p>㉒シミュレーション学習</p> <p>㉓シミュレーション学習</p> <p>㉔シミュレーション学習</p> <p>㉕シミュレーション学習</p> <p>㉖シミュレーション学習</p> <p>㉗シミュレーション学習</p> <p>㉘シミュレーション学習</p> <p>㉙シミュレーション学習</p> <p>㉚シミュレーション学習</p> <p>㉛シミュレーション学習</p> <p>㉜シミュレーション学習</p> <p>㉝シミュレーション学習</p> <p>㉞シミュレーション学習</p> <p>㉟シミュレーション学習</p> <p>㊱シミュレーション学習</p> <p>㊲シミュレーション学習</p> <p>㊳シミュレーション学習</p> <p>㊴シミュレーション学習</p> <p>㊵シミュレーション学習</p> <p>㊶シミュレーション学習</p> <p>㊷シミュレーション学習</p> <p>㊸シミュレーション学習</p> <p>㊹シミュレーション学習</p> <p>㊺シミュレーション学習</p> <p>㊻シミュレーション学習</p> <p>㊼シミュレーション学習</p> <p>㊽シミュレーション学習</p> <p>㊾シミュレーション学習</p> <p>㊿シミュレーション学習</p>		

1 各専門領域で学習する疾病等

	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践
消化器系		胃がん 大腸がん 肝炎 肝硬変 肝臓がん	逆流性食道炎	乳児下痢症 腸重積 肥厚性幽門狭窄症	重症悪阻 高ビリルビン血症		
呼吸器系		慢性閉塞性肺疾患 肺がん	誤嚥性肺炎	気管支喘息	一過性多呼吸呼吸窮迫症候群 胎便吸引症候群		
循環器系 血液系		心筋梗塞 心不全 ショック	高血圧 心不全 心房細動	白血病 川崎病 先天性心疾患	妊娠貧血 ビタミン欠乏性出血 妊娠高血圧症候群 胎盤機能不全		
運動器系		脊髄損傷	骨粗鬆症 大腿骨頸部骨折 椎体圧迫骨折	先天性股関節脱臼			
腎・泌尿器系		腎不全 慢性腎臓病 膀胱がん	前立腺肥大症	ネフローゼ症候群	妊娠高血圧症候群 HELLP症候群		
生殖器系		乳がん	老人性膣炎 子宮脱		月経異常 子宮復古不全 切迫流産		
脳・神経系	神経難病	くも膜下出血	パーキンソン病 認知症 脳梗塞	てんかん 脳性麻痺 二分脊椎	核黄疸	てんかん	
皮膚・感覚器系		熱傷	白内障 老人性難聴 老人性掻痒癬瘡	アトピー性皮膚炎	鷲口瘡		
内分泌・代謝系		糖尿病		I型糖尿病	妊娠性糖尿病		深部静脈血栓症
免疫・アレルギー系							
微生物・感染症系			インフルエンザ 感染性胃腸炎	水痘 麻疹 風疹 流行耳下腺炎	性感染症 産道感染症 産褥熱		
精神系			うつ（老人性） せん妄		マタニティ・パタニティブルー 産後精神疾患	統合失調症 気分障害 精神作用物質使用による障害 パーソナリティ障害 神経症性障害 てんかん 発達障害	PTSD
その他	重症心身障害	外傷 生活習慣病 メタボリックシンドローム	フレイル 尿便失禁 サルコペニア 脱水 廃用症候群 嚥下障害 スキンテア 低栄養	染色体異常 低出生体重児	前置胎盤、常位胎盤早期剥離		クラッシュ症候群

2 各専門領域の技術項目と卒業時の到達度

●:学習する技術項目

■卒業時の到達レベル

<演習>

I:モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる

II:モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる

<実習>

I:単独で実施できる

II:指導の下で実施できる

III:実施が困難な場合は見学する

技術の種類	番号	新技術項目と卒業時の到達度	演習							実習										
			卒業時の到達度	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	卒業時の到達度	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人・老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	
1 環境調整技術	1	快適な療養環境の整備	I	II	II								I	II	II	I	II	I		I
	2	臥床患者のリネン交換	I	II									II	II		II				I
2 食事の援助技術	3	食事介助(嚥下障害患者を除く)	I	II									I	II		I	II	II		I
	4	食事指導	II		II	II							II		II	II	II			II
	5	経管栄養法による流動食の注入	I		II								II		III	II	II			II
	6	経鼻胃チューブの挿入	I										III			III				
3 排泄援助技術	7	排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)	I	II	I		I	II				I	II	II	II	II	II	II		I
	8	膀胱留置カテーテルの管理	I				I					II	III	III		II				II
	9	導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入	II	II									III	III		III				
	10	浣腸	I	II									III	III	II	II	II			
	11	摘便	I	II									III	III	II	II				
	12	ストーマ管理	II				I						III		I	II				
4 活動・休息援助技術	13	車椅子での移送	I	I			I					I	I	II		II	II		II	I
	14	歩行・移動介助	I	I			I					I	I	II	II	II	II		II	II
	15	移乗介助	I	I			I	II				I	II	II	II	II	II			II
	16	体位変換・保持	I	I	II		I					I	I	II	II	II	II	II		II
	17	自動・他動運動の援助	I				I						II	III	III	II	II		II	II
	18	ストレッチャー移送	I	II			I						II	II		II	II	II		
5 清潔・衣生活援助技術	19	足浴・手浴	I	II	I								I	II	II	I	II	II		I
	20	整容	I	I	I								I	II	II	I	II	II	II	I
	21	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	I	I	I								I	II	II	I	II	II		I
	22	入浴・シャワー浴の介助	I										II	III	II	II	II		II	II
	23	陰部の保清	I	I			I						II	II	II	II	II	II		II
	24	清拭	I	II	II								II	II	II	II	II	II		II
	25	洗髪	I	II	II								II	II	II	II	II			II
	26	口腔ケア	I	II			I						II	II	II	II	II			II
	27	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	I	II									II	III		II	II			II
	28	新生児の沐浴・清拭	I										III					II		
6 呼吸循環を整える技術	29	体温調節の援助	I	II									I	II	I	I	II	II		
	30	酸素吸入法療法の実施	I	II	II								I	II	II	II	II	III		II
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	I	II									II	II		II	II			
	32	口腔内・鼻腔内吸引	II		II				II				III	III	II	II	III	III		II
	33	気管内吸引	II		II								III	III	II	II	III	III		
	34	体位ドレナージ	I										III	III	II	II	II			
7 創傷管理技術	35	褥瘡予防ケア	II					II					II	III	II	II	II			II
	36	創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)	II					II					II	III		II				II
	37	ドレーン類の挿入部の処置	II										III	III		III				

技術の種類	番号	新技術項目と卒業時の到達度	卒業時の到達度							卒業時の到達度								
			基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人・老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	
8	与薬の技術	38	経口薬(バツカル錠、内服薬、舌下錠)の投与	II	II			II		II	II	II	II	II	II	II		
		39	経皮・外用薬の投与	I	II					II	II	II	II	II	III	II		
		40	座薬の投与	II	II						II	II	II					
		41	皮下注射	II	II						III	III	III					
		42	筋肉内注射	II	II						III	III	III			III		
		43	静脈路確保・点滴静脈内注射	II	II						III	III	III	III	III			
		44	点滴静脈内注射の管理	II						II	III	III	II	III	III			
		45	薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍薬を含む)	II							III	III	III			III		
		46	輸血の管理	II							III	III	III					
9	処置技術 救命救急	47	緊急時の応援要請	I	II	I					I	III	I	III				
		48	一次救命処置(Basic Life Support: BLS)	I	II					II	I	III	I	III				
		49	止血法の実際	I	II						III	III	III					
10	症状・生体機能管理技術	50	バイタルサインの測定	I	I			II		I	I	II	II	I	II	I	II	I
		51	身体計測	I	II	II		II			I	II	I	II	II			
		52	フィジカルアセスメント	I	II			II		II	II	II	II	II	II	II	II	II
		53	検体(尿・血液等)の取り扱い	I							II		II	III	III			
		54	簡易血糖測定	II							II		II	III	III			
		55	静脈血採血	II						II	III		III	III	III			
		56	検査の介助	I				II			II		II	III	III			
11	感染予防の技術	57	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗い	I	I	I		I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
		58	必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱	I	II	I		I	I		I	I	II	I	II	I		I
		59	使用した器具の感染防止の取扱い	I	II			I	I			II	II	II	II	II		II
		60	感染性廃棄物の取り扱い	I	II			I			II	II	II	II	II	II		II
		61	無菌操作	I	II						II	II	III	II	III			II
		62	針刺し事故の防止・事故後の対応	I	II						II	II	III	III	III	III		
12	安全管理の技術	63	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	I	II			I		II	I	II	I	I	I	I	I	I
		64	患者の誤認防止の実施	I	I			I		I	I	I	I	II	I	II	I	
		65	安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷防止)	I	II	I		I			I	II	II	II	II	II	II	II
		66	放射線の被ばく防止策の実施	I							I	III	I	III				
		67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	II							III	III	III	III				
		68-①	医療機器(輸液ポンプ)の操作・管理	II							III		III					
		68-②	医療機器(シリンジポンプ)の操作・管理	II							III		III					
		68-③	医療機器(心電図モニター)の操作・管理	II							III		III					
		68-④	医療機器(酸素ボンベ)の操作・管理	II							II		II					
		68-⑤	医療機器(人工呼吸器)の操作・管理	II							III		III					
13	安楽確保の技術	69	安楽な体位の調整	I	II	II		I		II	II	II	II	II	II		II	
		70	安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア	I	II	II		I		II	II	III	II	II	II	II		II
		71	精神的安寧を保つためのケア	I		II		I			II	II	III	III	II	II	II	II

3 看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標(改正案)

●：専門領域で扱う実践能力

看護師の実践能力	構成要素	卒業時の到達目標	学内						臨地実習									
			基礎看護学	地域・在宅看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	基礎看護学	地域・在宅看護学	成人・老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	
I群 ヒューマン ケアの基本的な能力	A.対象の理解	1 対象者の状態を理解するのに必要な人体の構造と機能について理解する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		2 胎生期から死までの生涯各期の成長・発達・加齢の特徴に関する知識をもとに対象者を理解する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		3 対象者を身体的・心理的・社会的・文化的側面から総合的に理解する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	B.実施する看護についての説明責任	4 実施する看護の根拠・目的・方法について対象者の理解度を確認しながら説明する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		C.倫理的な看護実践	5 看護職としての倫理観を持ち、法令を遵守して行動する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	6 対象者の尊厳を守る意義を理解し、価値観、生活習慣、慣習、信条等を尊重した行動をとる		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	7 対象者の情報の取扱い及び共有の方法を理解し、適切な行動をとる		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	D.援助的関係の形成	8 対象者の選択権及び自己決定権を尊重し、対象者及び家族の意思決定を支援する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		9 対象者と自分の境界を尊重しながら関係を構築する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		10 対人技法を用いて、信頼関係の形成に必要なコミュニケーションをとる	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		11 必要な情報を対象者の状況に合わせた方法で提供する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
II群 根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力	E.アセスメント	12 健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を系統的に収集する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		13 情報を整理し、分析・解釈・統合し、看護課題の優先順位を判断する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	F.計画	14 根拠に基づき対象者の状況に応じた看護を計画する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		15 看護計画の立案にあたって、対象者を含むチームメンバーと連携・協働する必要性を理解する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	G.実施	16 計画に基づき看護を実施する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		17 対象者の状態に合わせて、安全・安楽・自立/自律に留意しながら看護を実施する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	H.評価	18 実施した看護の結果を評価し、必要な報告を行い記録に残す	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19 評価に基づいて計画の修正をする		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
III群 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復に関わる実践能力	I.健康の保持・増進、疾病の予防	20 生涯各期における健康の保持増進や疾病予防における看護の役割を説明する		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		21 環境が健康に及ぼす影響と予防策について理解する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		22 対象者及び家族に必要な資源を理解し、健康の保持・増進に向けた生活に関する支援を行う		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	J.急速に健康状態が変化する対象への看護	23 急速に健康状態が変化する(周術期や急激な病状の変化、救命救急処置を必要としている等)対象の病態や、治療とその影響について理解する		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		24 基本的な救命救急処置の方法を理解し、模擬的に実践する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		25 健康状態の急速な変化に気付き、迅速に報告する		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		26 合併症予防のために必要な看護を理解し、回復過程を支援する		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		27 日常生活の自立/自律に向けた回復過程を支援する		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	K.慢性的な変化にある対象への看護	28 慢性的経過をたどる人の病態や、治療とその影響について説明する		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		29 対象者及び家族が健康課題に向き合う過程を支援する		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		30 健康課題を持ちながらもその人らしく過ごせるよう、生活の質(QOL)の維持・向上に向けて支援する		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		31 急性増悪の予防・早期発見・早期対応に向けて継続的に観察する		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	L.終末期にある対象への看護	32 終末期にある対象者の治療と苦痛を理解し、緩和に向けて支援する		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		33 終末期にある対象者の意思を尊重し、その人らしく過ごせるよう支援する		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
34 終末期にある対象者及び家族を多様な場においてチームで支援することの重要性を理解する			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

看護師の実践能力		構成要素	卒業時の到達目標	学内							臨地実習							
				基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人・老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践
IV群 ケア環境と チーム体制 を理解し活 用する能力	M.看護専門職の 役割と責務	35	看護職の業務を法令に基づいて理解するとともに、その役割と機能を説明する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		36	看護チーム内における看護師の役割と責任を理解する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	N.安全なケア環 境の確保	37	リスク・マネジメントを含む医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について説明する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		38	感染防止策の目的と根拠を理解し、適切な方法で実施する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		39	関係法規及び各種ガイドラインに従って行動する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	O.保健・医療・ 福祉チームにお ける多職種との 協働	40	保健・医療・福祉チームにおける看護師及び他職種の機能・役割を理解する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		41	対象者をとりまく保健・医療・福祉関係者間の協働の必要性について理解する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		42	対象者を含むチームメンバーと連携・共有・再検討しながら看護を実践する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	P.地域包括ケア システムにおけ る看護の役割	43	地域包括ケアシステムの観点から多様な場における看護の機能と役割について理解する		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
		44	日本における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する		●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
45		諸外国における保健・医療・福祉の動向と課題を理解する		●							●		●		●		●	
V群 専門職者とし て研鑽し 続ける基本 能力	Q.継続的な学習	46	看護実践における自らの課題に取り組み、継続的に専門職としての能力の維持・向上に努める必要性と方法を理解する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
		47	看護の質の向上に努める必要性を理解する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	R.看護の質の改 善に向けた活動	48	看護実践に新たな技術やエビデンスに基づいた知見を活用し、批判的吟味をすることの重要性を理解する	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

課外（行事・その他）

課外（第51回生）

目的：協調性・主体性を身につけ、人間的成長を目指す

項目	1年	2年	3年	ねらい	備考
入学式	4	2	2	新入生のこれからの学習への誓いの場、学生と教職員との出会いの場とする。上級生は歓迎の意を表す。	
入学時オリエンテーション 学年ガイダンス	16	2	2	3年間のカリキュラムガイダンス、新入生自己紹介、クラス運営、各係の選出、学校案内等を実施し、学校生活の導入とする。 また、各年度当初は1年間のカリキュラムを再確認し、学習計画を立てるための指針とする。	
始業式・終業式	1	2	1	学年の始まりと終わりに学習への心構えや区切りをつけ、学習環境を整える。	大掃除を含む
健康診断	1	1	1	健康診断を実施し、健康管理に役立てる。	
クラス・アワー	18	12	12	学年毎に企画、運営し、充実した学校生活を過ごせるようにする。	
防災訓練	2	2	2	災害に対する意識を高め、防災への心構えと災害発生時の対処法を身につける。	実施は4月
体育祭・新入生歓迎会	6	6	6	スポーツをとおして、心身の解放と全校生・全職員との交流をはかる。学生自治会を中心に企画運営し、協調性、自主性を養い、学年間の交流をはかる。	
戴帽式	8	12	2	学校生活を経て自己の看護職への進路を再確認し、今後の抱負を表現する場とする。	
記念講演	2	2	2	戴帽式等節目の式典の一環として記念講演を実施し、専門職業人を目指す各自の自覚を高める。	全学年出席する
学校祭	16	16	16	学生の自主性を高め、あわせて学生相互間の親睦をはかる。 学生自治会を中心に、日常の学習、研究及びサークル活動などの成果を発表する。	2日間開催 準備時間を含む
クリスマスメッセージ	2	2	2	実習施設の患者及び利用者の皆様に、感謝の気持ちをあらわす。	多摩キャンパス内4施設
国家試験対策（模擬試験、補講等）	10	16	60	看護師として必要な知識を強化し、国家試験受験に備える。	
ケーススタディ聴講	4	4	—	看護研究の発表の仕方及び聴講の姿勢を学ぶ。	
就職ガイダンス	—	10	0	進路決定における自己の指針とする。	
卒業式	2	2	4	3年間の学習修了の式典として実施し、卒業証書の授与を行う。	
合計	92	91	112		

*入学式、戴帽式、卒業式は、リハーサルとして音楽講師により指導を受ける（2時間程度）

令和6年3月発行

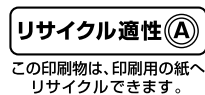
令和5年度

登録第1号

教 育 課 程
令和6年度入学生
第51回生

編集・発行 東京都立府中看護専門学校
東京都府中市武蔵台2-27-1
電 話 042(324)6411
FAX 042(326)3970

印 刷 協和総合印刷株式会社
東京都江東区大島7-37-2
電 話 03(3685)6411



東京都立府中看護専門学校

TEL. 042(324)6411

FAX 042(326)3970

学籍番号